

I 無作為抽出調査（標本調査）

1 調査概要

（1）調査目的

板橋区では、いたばし保健福祉プラン 2025 における「互いがつながら孤立しない」という基本理念のもと、地域共生社会の実現をめざし、ひきこもりに関する生きづらさや不安を持つ方への支援を主な取り組みの一つとして位置づけている。

本調査では、就職氷河期世代を含む区内在住の満 15 歳から満 64 歳までの方を対象に、暮らしぶり、就労・就学状況、ふだんの活動、外出の頻度等について調査し、生活状況やひきこもりの状況について把握することで、生きづらさを抱える様々な方に対する支援や課題等を把握し、検討するための基礎資料を得ることを目的に実施した。

（2）調査項目

- ① 基本的属性について（Q 1～Q 7）
- ② 学校生活に関すること（Q 8～Q 9）
- ③ これまでの経験（Q 10～Q 11）
- ④ 就労・就学等に関すること（Q 12～Q 15）
- ⑤ ふだんの活動に関すること（Q 16～Q 17）
- ⑥ ひきこもりの状態に関すること（Q 18～Q 22）
- ⑦ 相談機関に関すること（Q 23～Q 28）
- ⑧ ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること（Q 29～Q 33）
- ⑨ 感じている危機感や不安なこと（Q 34）
- ⑩ 社会的支援に関すること（Q 35）
- ⑪ 支援のあり方についての意見（Q 36）
- ⑫ ゲートキーパー・自殺予防のための対策（Q 37～Q 38）
- ⑬ 同居家族でひきこもりの状態にある者に関すること（Q 39～Q 49）

（3）調査対象

- ① 母集団 満 15 歳から満 64 歳までの板橋区民 ※中学生を除く
- ② 標本数 5,000 人

（4）調査期間

令和 4 年 9 月 13 日（火）～9 月 30 日（金）

（5）調査方法

調査票を郵送配付し、郵送回答又はインターネット回答により回収

※ 調査期間中に 1 回、対象者全員に礼状兼協力依頼のはがきを送付。

（6）調査実施機関

株式会社 CCN グループ

(7) 標本抽出方法

板橋区住民基本台帳より層化二段無作為抽出

(5地域ごとの住民登録人口規模で、標本数5,000人を按分抽出)

【地区区分】5地域の対象地域は、以下の各地域センター管内のとおり



	地区別人口	配分比例	抽出人数
①板橋地域	88,591人	23.6%	1,182人
②常盤台地域	58,674人	15.7%	783人
③志村地域	80,876人	21.6%	1,079人
④赤塚地域	81,597人	21.8%	1,089人
⑤高島平地域	64,909人	17.3%	867人
計	374,647人	100%	5,000人

(8) 回収結果

① 有効回収数（率） 1,782人（35.6%）

(内訳) 郵送回答 : 1,134人（有効回収数中63.6%）

インターネット回答 : 648人（有効回収数中36.4%）

② 性別・年齢別回収数（率）

年齢	男性			女性			性別わからない・どちらともいえない 回収数	無回答 回収数	計		
	標本数	回収数	回収率	標本数	回収数	回収率			標本数	回収数	回収率
15～19	152	43	28.3%	117	38	32.5%	3	0	269	84	31.2%
20～24	230	50	21.7%	244	59	24.2%	0	0	474	109	23.0%
25～29	286	51	17.8%	298	68	22.8%	2	0	584	121	20.7%
30～34	266	62	23.3%	269	98	36.4%	4	0	535	164	30.7%
35～39	267	62	23.2%	241	109	45.2%	1	0	508	172	33.9%
40～44	289	88	30.4%	258	125	48.4%	0	1	547	214	39.1%
45～49	312	91	29.2%	293	141	48.1%	2	0	605	234	38.7%
50～54	330	115	34.8%	284	151	53.2%	1	0	614	267	43.5%
55～59	242	95	39.3%	242	119	49.2%	0	1	484	215	44.4%
60～64	193	82	42.5%	187	112	59.9%	0	0	380	194	51.1%
無回答	-	-	-	-	1	-%	1	6	-	8	-
計	2,567	739	28.8%	2,433	1,021	42.0%	14	8	5,000	1,782	35.6%

（9）報告書を読む際の留意点

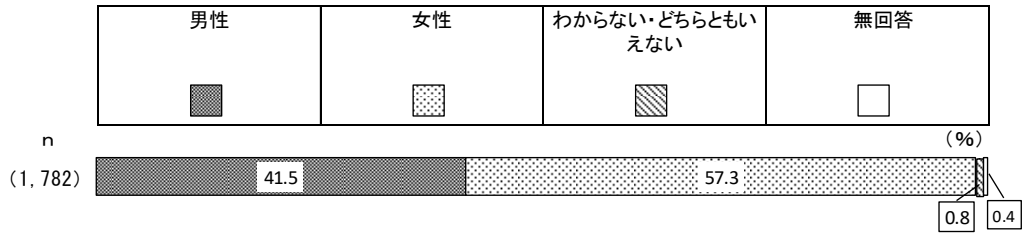
- ① 図表中の「n」は各設問の回答者数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- ② 単一回答の設問では、集計表の数値が上記①における小数点第2位の四捨五入処理のため、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。
また、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100%以上となる。
- ③ クロス集計のグラフや表について、表側（表の左側に配置される項目）となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含まれるので、表側の各層における件数の合計が、全体の件数と一致しない場合がある。
- ④ 統計表等に用いた符号は次のとおりである。
0.0 : 回答者がいないもの
— : 内閣府調査との比較において、本調査または内閣府調査に選択肢が存在しない項目
- ⑤ 数値を読み解く際、特に回答者数が少ない層においては、その標本誤差に留意する必要がある。
- ⑥ Q1～Q32（Q11・Q27・Q28を除く）においては、内閣府が実施した40～64歳を対象とした「生活状況に関する調査」及び15～39歳を対象とした「若者の生活に関する調査」（以下、「内閣府調査」という。）の結果との比較を行っている。当該内閣府調査との比較では、板橋区広義のひきこもり群（n=14人）は、年齢無回答者2人を除いた12人を年齢区分（「15～39歳」と「40～64歳」）に分けて比較している。
- ⑦ 標本誤差は回答者数（n）と得られた結果の比率によって異なるが、単純無作為抽出を仮定した場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表のとおりである。

回答比率(P) n	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,782	± 1.73	± 2.31	± 2.65	± 2.83	± 2.89
1,500	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
1,000	± 2.27	± 3.02	± 3.46	± 3.70	± 3.78
500	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
300	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00

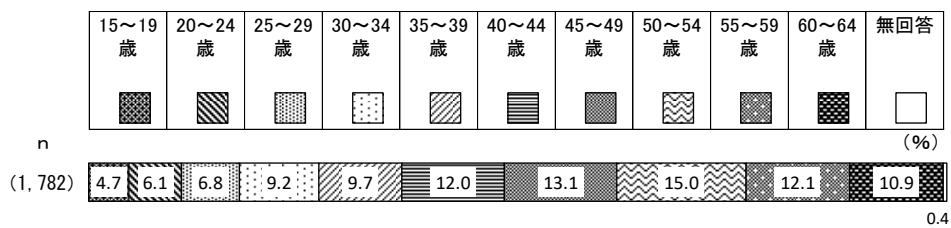
- ⑧ 本文やグラフ・集計表上の表記は、回答の選択肢が長い場合、一部語句を簡略化しているものがある。

(10) 対象者の属性

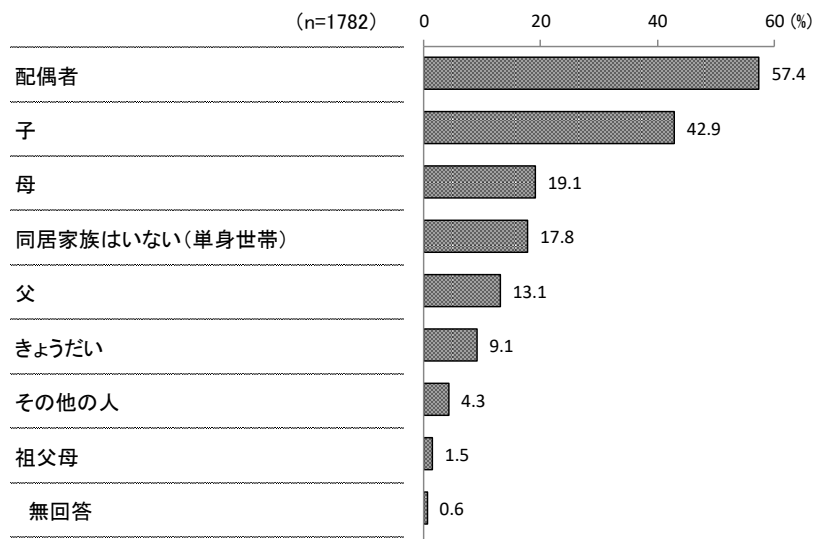
① 性別



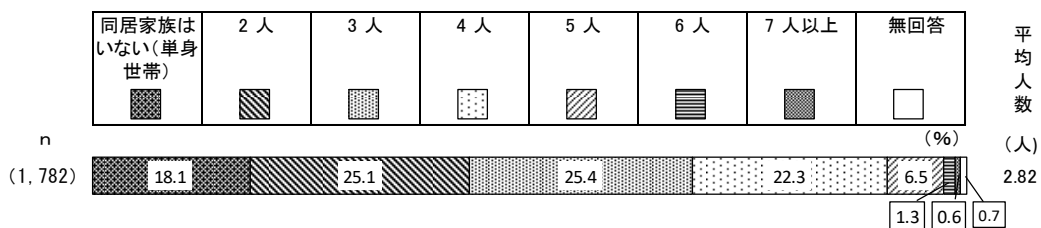
② 年齢



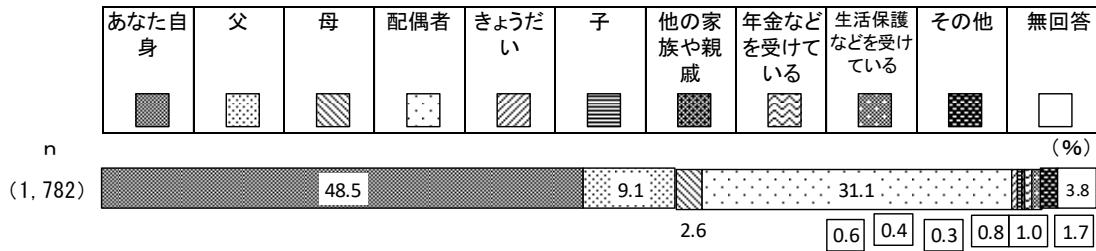
③ 同居家族



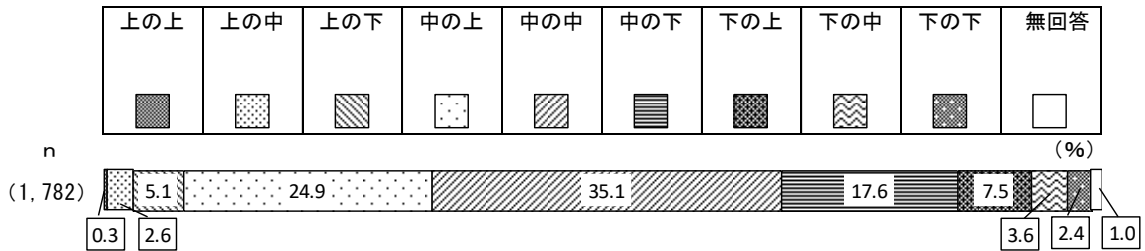
④ 同居人数



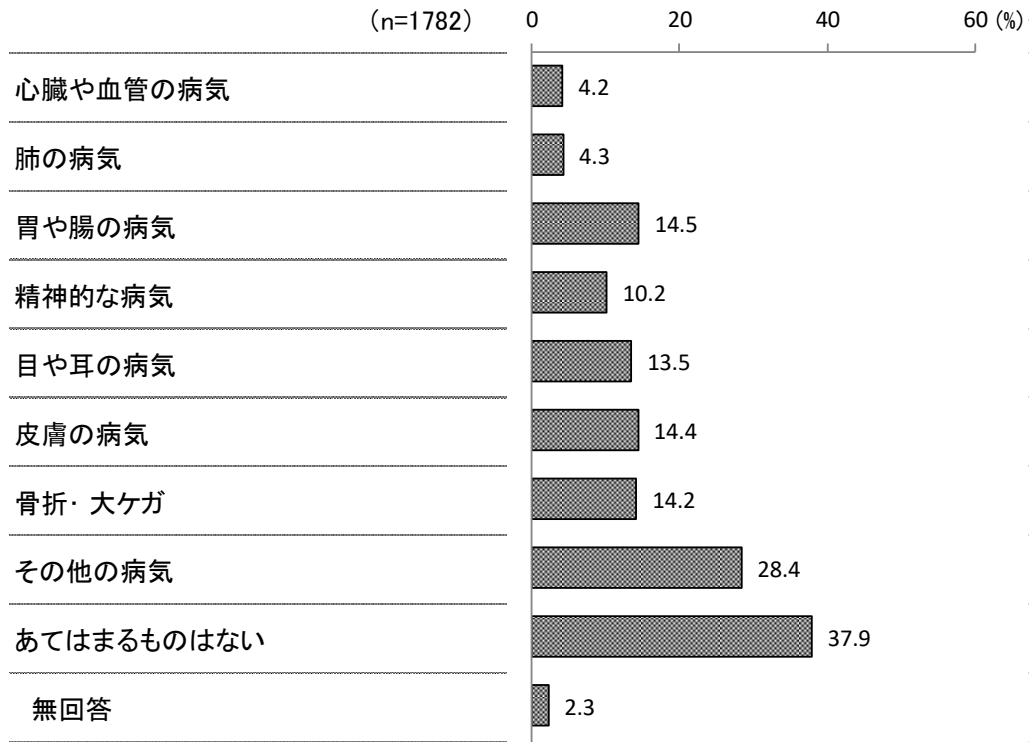
⑤ 主生計者



⑥ 暮らし向き



⑦ 通院・入院経験のある病気



2 定義

（1）広義のひきこもり群

今回の調査では、平成30年度に内閣府が実施した「生活状況に関する調査」の定義を基に、以下のように定義する。

- 「Q18 ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者
- 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
 - 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
 - 7 自室からは出るが、家からは出ない
 - 8 自室からほとんど出ない

かつ

「Q19 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6か月以上と回答した者

であって、次の3類型のいずれにも該当しない者。

類型①：身体的病気を有する

「Q22 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、「9 病気（病名：）」を選択し、身体的病気の病名を記入した者（※注1）

類型②：妊娠・出産・育児、または家事・介護・看護をしており、家族以外の人とも会話している

- A 「Q22 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、
- ① 「10 妊娠したこと」を選択した者
 - ② 「12 介護・看護を担うことになったこと」を選択した者
 - ③ 「13 その他（具体的に：）」を選択し、（ ）内に出産・育児をしている旨を記入した者
- B 「Q12 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」で、「6 専業主婦・主夫」または「7 家事手伝い」と回答した者
- C 「Q16 ふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。」で、「8 家事をする」「9 育児をする」または「10 介護・看護をする」と回答した者

上記ABCのいずれかに該当し、かつ、

「Q21 最近6か月間に家族以外の人と会話しましたか。」で、「1 よく会話した」または「2 ときどき会話した」を選択した者

類型③：仕事をしている

「Q22 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、
「13 その他（具体的に：）」を選択し、（ ）内に自宅で仕事をしている旨を記入した者
（※注2）

「Q12 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」で、
「1 勤めている（正社員）」「2 勤めている（契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト）」
または「3 自営業・自由業」と回答した者

または

「Q16 ふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。」で、
「7 仕事をする」と回答した者

（※注3）

該当者数は14人であった（有効回収数に占める割合：0.79%）。

このうち、「Q18 ふだんどのくらい外出しますか。」で、「6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「7 自室からは出るが、家からは出ない」「8 自室からほとんど出ない」に該当する者を『狭義のひきこもり』とし、「5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」に該当する者を『準ひきこもり』とする。

さらに、『狭義のひきこもり』と『準ひきこもり』の合計を『広義のひきこもり』とする。

（※注1）「Q22 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、「13 その他（具体的に：）」を選択し、外出が困難となる身体的理由を記入した者等についても、「9 病気（病名：）」を選択し、身体的病気の病名を記入した者と同様に判断した。

（※注2）新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、在宅勤務になった旨を記入した者を含む。

（※注3）広義のひきこもり群の者の中には、上記類型③の該当者も含まれているが、回答状況や自由記述等の内容をふまえて判断した。

板橋区住民基本台帳人口（令和4年10月1日現在）によれば、板橋区の15～64歳人口は377,665人であるため、広義のひきこもりの推計数は以下の計算より約2,967人となる。

有効回収数に占める割合（該当人数14人／有効回収数1,782人）×377,665人＝推計数（人）

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合 (%)	推計数 (人)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	6	0.34	1,272	準ひきこもり 1,272人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	6	0.34	1,272	狭義のひきこもり 1,696人
自室からは出るが、家からは出ない	2	0.11	424	
自室からほとんど出ない	0	0.0	0	
総計	14	0.79	2,967	広義のひきこもり 2,967人(※注4)

(※注4) 「該当人数」以外の表の数値については四捨五入している。

そのため、「準ひきこもり」と「狭義のひきこもり」の推計数の合計と「広義のひきこもり」の推計数とは一致しない。

また、広義のひきこもりの出現率の標本誤差は±1.10%（信頼度95%）であった。

（2）過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群

今回の調査では、以下のように定義する。

「Q29 あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」について、下記の1～4に当てはまる者

- 1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 3 自室からは出るが、家からは出ない
- 4 自室からほとんど出ない

であって、

「Q32 その状態になったきっかけは何でしたか。」で、「9 病気（病名：）」を選択し、（ ）内に身体的病気の病名を記入した者及び「13 その他（具体的に：）」を選択し、（ ）内に自宅で仕事をしている旨を記入した者（※注5）

を除いた者。

該当者数は108人であった。（※注6）

（※注5）「Q32 その状態になったきっかけは何でしたか。」で、「13 その他（具体的に：）」を選択し、外出が困難となる身体的理由を記入した者等についても、「9 病気（病名：）」を選択し、身体的病気の病名を記入した者と同様に判断した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により在宅勤務となった旨を記入した者も含む。

（※注6）平成30年度に内閣府が実施した「生活状況に関する調査」では、本調査の定義に加え、下記の該当者を除いたものを「過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群」と定義している。

調査対象者に尋ねた本人票

「あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」で「趣味の用事の時だけ外出する」に当てはまる者

かつ、

調査対象者の同居者に尋ねた同居者票

「対象者の方は今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」で「1～4のような状態（※注7）に6か月以上連続してなったことはない」に当てはまる者

本調査においては同居者票がないため、該当者数の見方については注意が必要である。

（※注7）「1～4のような状態」は以下のとおり。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 趣味の用事の時だけ外出する | 2 近所のコンビニなどには出かける |
| 3 自室からは出るが、家からは出ない | 4 自室からほとんど出ない |

（3）同居家族でひきこもりの状態にある者

調査対象者の同居家族でひきこもりの状態にある者に関する設問（Q39～Q49）における「ひきこもりの状態」は、東京都ひきこもりに係る支援協議会の提言におけるひきこもりの定義を用いた。

同居家族でひきこもりの状態にある者

「Q39 現在、同居するご家族に「様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、原則として6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態」の方はいますか。」について、「1 いる」と回答した者

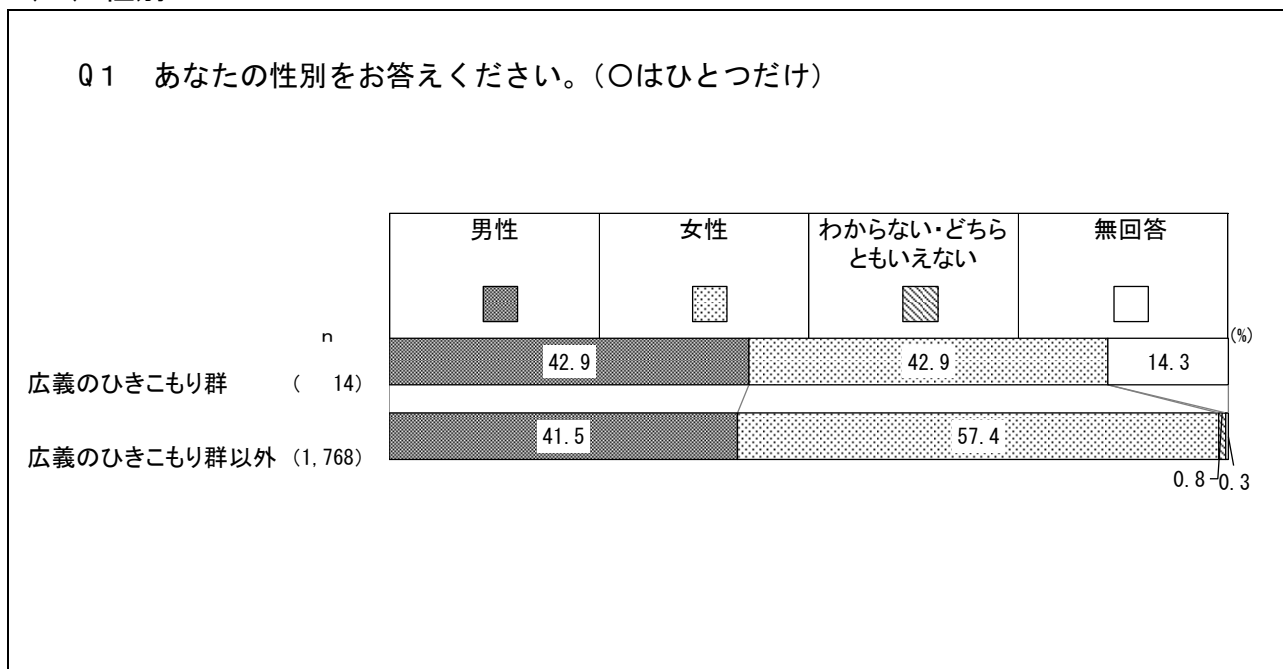
該当者数は77人であった。

東京都ひきこもりに係る支援協議会『ひきこもりに係る支援の充実に向けて 提言』におけるひきこもりの定義

- ・ 様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、原則として6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態
- ・ 状態を指す概念であり、それ自体は必ずしも問題行動や疾患を意味するわけではないが、当事者は自尊感情を失っていたり、生きがいをもって自分らしく、よりよく生きる意欲や勇気を失っている場合が少なくない。また、長期間に渡るひきこもりの状態により心身に悪影響を及ぼす恐れや社会的孤立、経済的な困窮などにつながる可能性があることに留意が必要

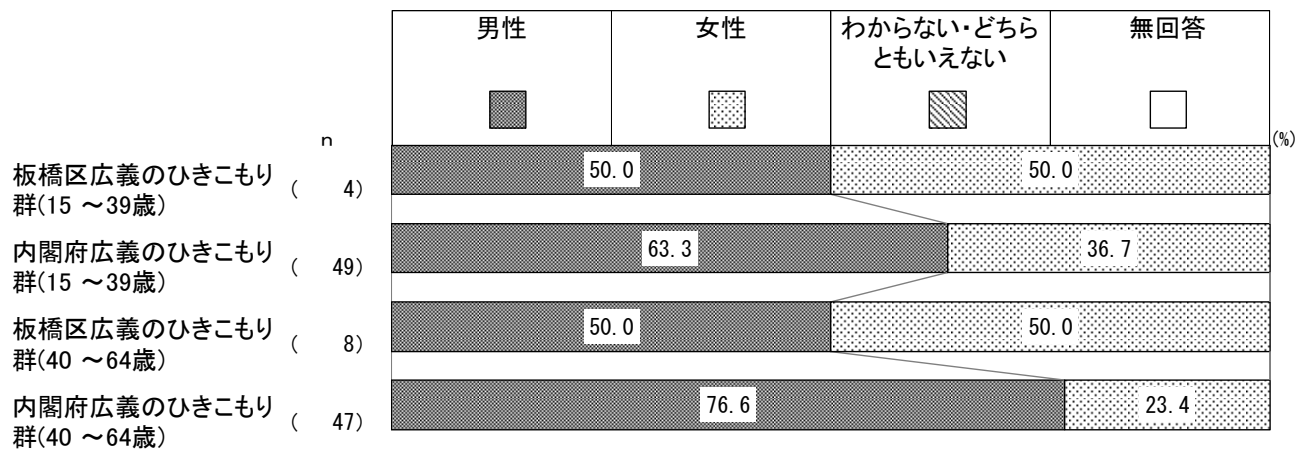
3 調査の結果

(1) 性別



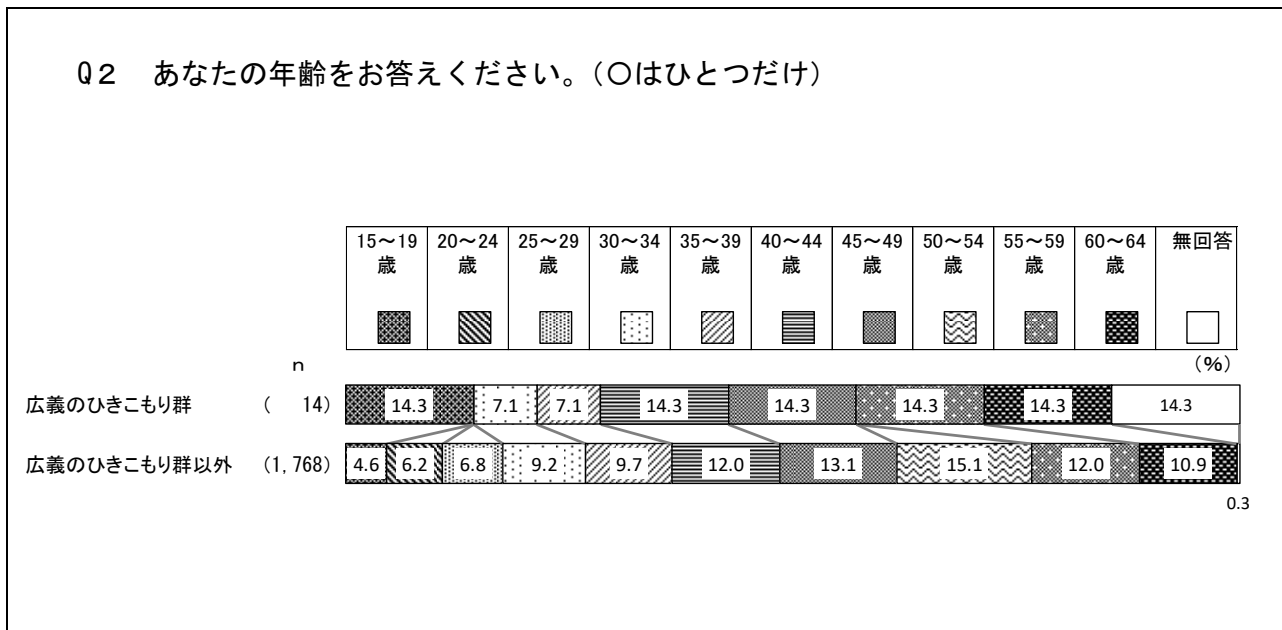
回答者の性別について、広義のひきこもり群は「男性」と「女性」が同じ割合(42.9%)であるのに対し、広義のひきこもり群以外では、「男性」(41.5%)と「女性」(57.4%)で女性の割合の方が高くなっている。

【内閣府調査との比較】



内閣府調査と比較すると、内閣府調査は、【15～39歳】男性(63.3%)・女性(36.7%)、【40～64歳】男性(76.6%)・女性(23.4%)と、どちらの年齢区分も男性の方が高い割合となっているのに対し、板橋区は男性と女性が同じ割合(50.0%)となっている。

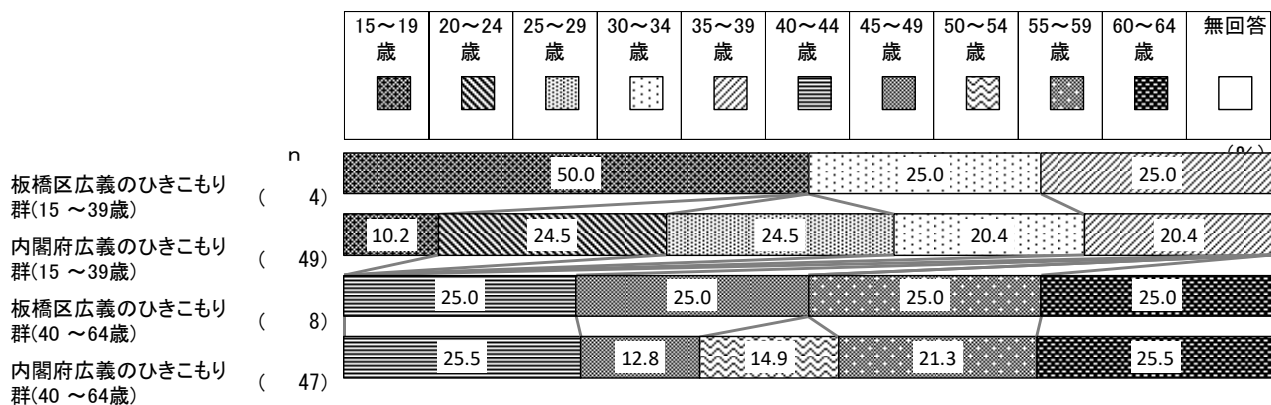
(2) 年齢



回答者の年齢について、広義のひきこもり群は、「15～19 歳」「40～44 歳」「45～49 歳」「55～59 歳」「60～64 歳」が、それぞれすべて同じ割合（14.3%）となっている。

また、「20～24 歳」「25～29 歳」「50～54 歳」に該当する者はいなかった。

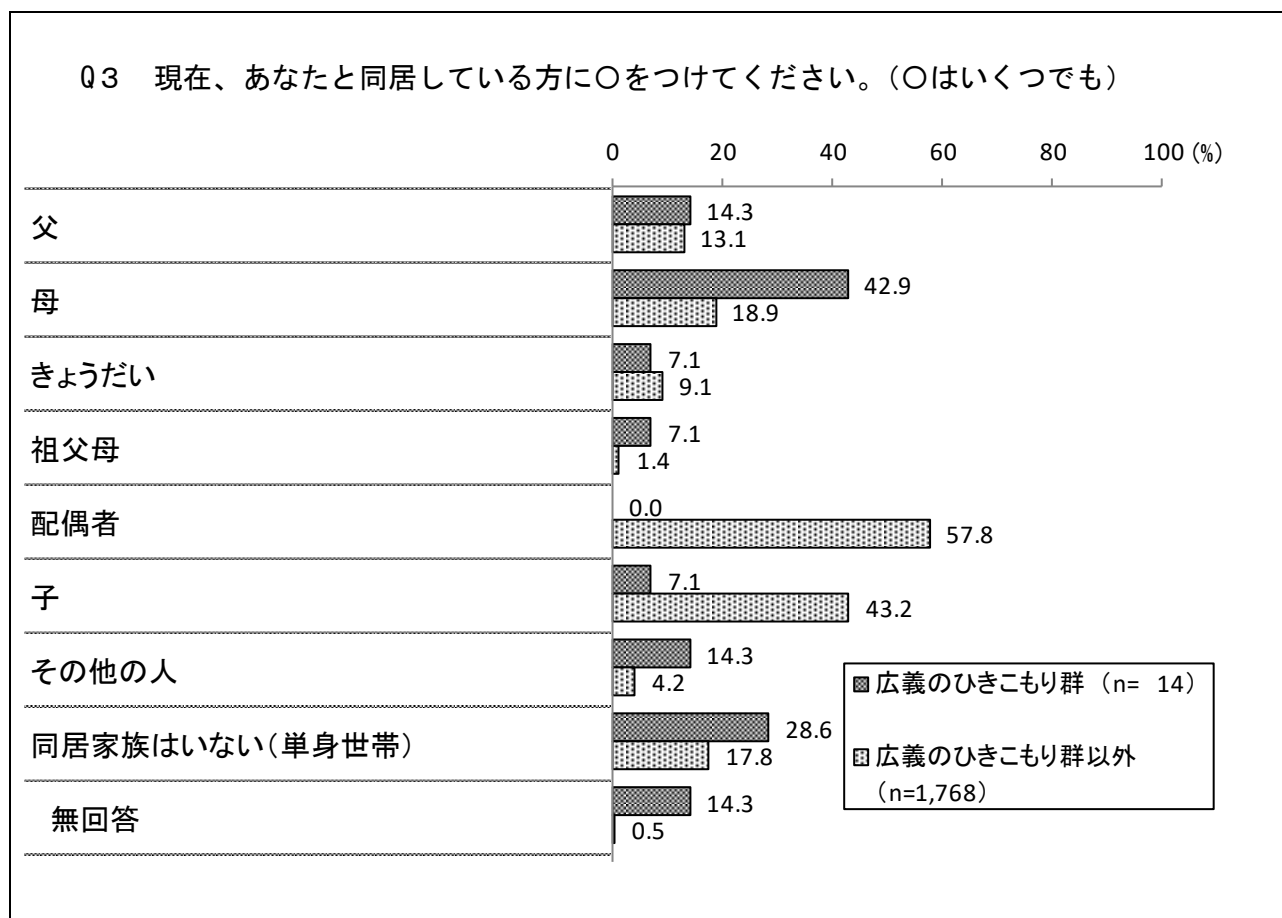
【内閣府調査との比較】



内閣府調査と比較すると、内閣府調査は全年齢層に大きな偏りなく広く分布している。

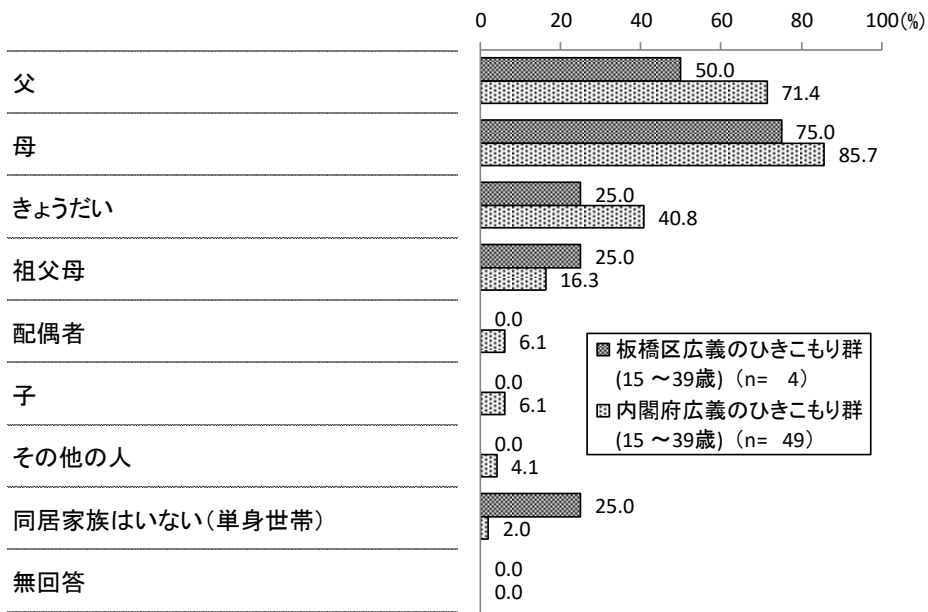
また、【15～39 歳】では、「15～19 歳」が板橋区(50.0%)・内閣府調査(10.2%)と 39.8 ポイント差で、板橋区の方が顕著に高くなっている。

(3) 同居者

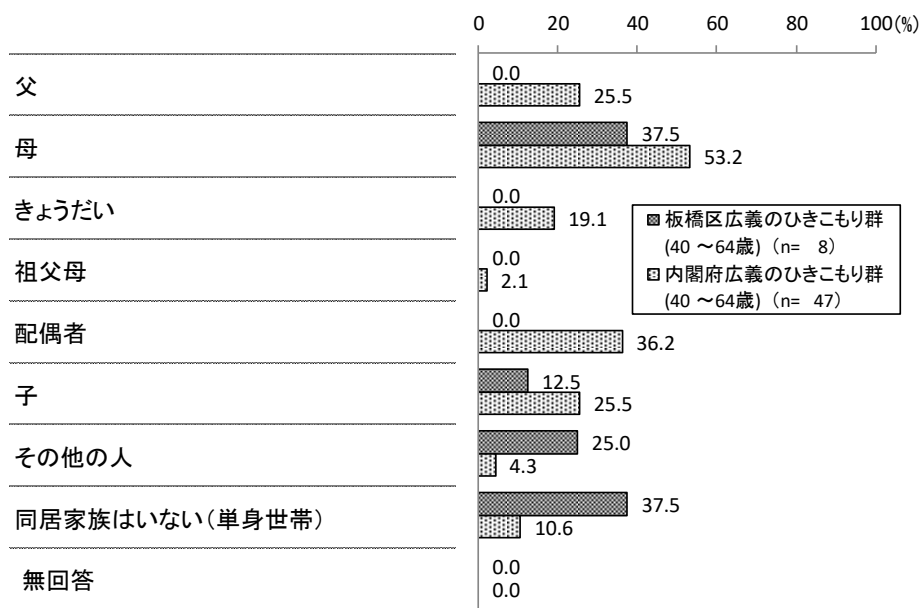


回答者の同居者について、広義のひきこもり群は「母」の割合（42.9%）が最も高く、次いで「同居家族はいない（単身世帯）」（28.6%）、「父」「その他の人」（ともに14.3%）の順となっているのに対し、広義のひきこもり群以外では「配偶者」（57.8%）、「子」（43.2%）、「母」（18.9%）の順となっている。

【内閣府調査との比較（15～39 歳）】



【内閣府調査との比較（40～64 歳）】



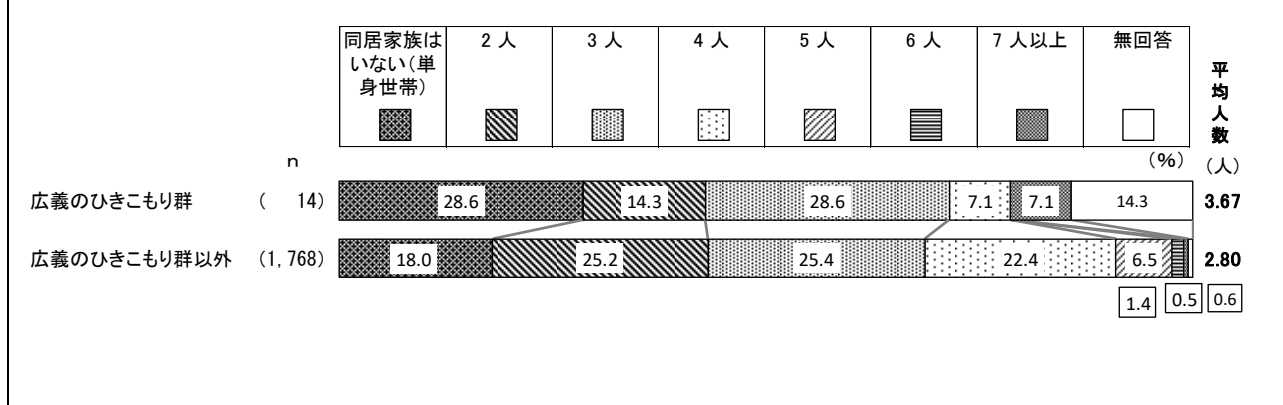
内閣府調査と比較すると、【15～39 歳】は、板橋区は「母」(75.0%)、「父」(50.0%)、「きょうだい」「同居家族はいない(単身世帯)」(ともに25.0%)に対し、内閣府調査では「母」(85.7%)、「父」(71.4%)、「きょうだい」(40.8%)の順に割合が高くなっている。

一方、【40～64 歳】では、板橋区は「母」「同居家族はいない(単身世帯)」(ともに37.5%)、「その他の人」(25.0%)、「子」(12.5%)に対し、内閣府調査では「母」(53.2%)、「配偶者」(36.2%)、「父」「子」(ともに25.5%)の順となっている。

(4) 同居人数

Q4 現在、同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。（数字で具体的に）

※Q3で「8 同居家族はいない（単身世帯）」を選択した方は、1人と記入してください。

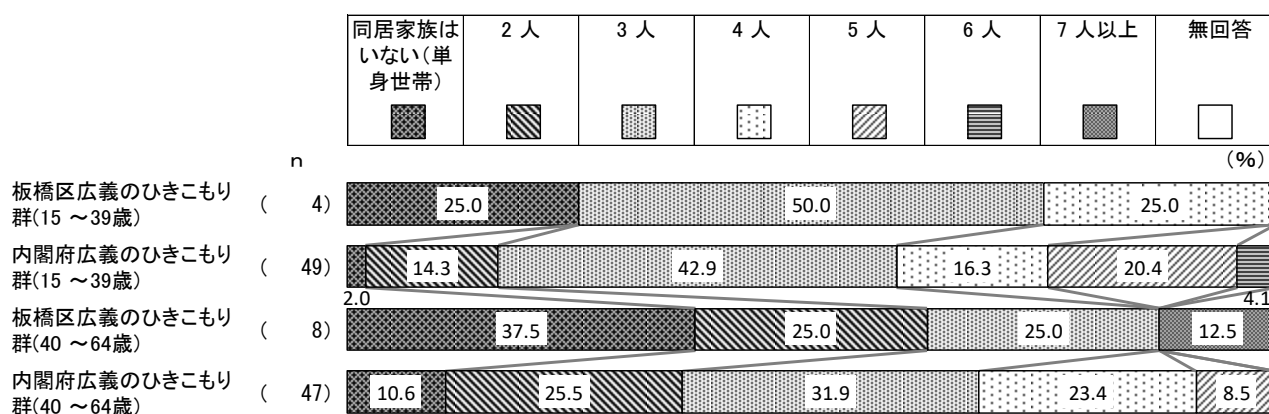


同居人数について、広義のひきこもり群は、「同居家族はいない(単身世帯)」「3人」（ともに28.6%）、「2人」（14.3%）、「4人」「7人以上」（ともに7.1%）の順に割合が高くなっている。

一方、広義のひきこもり群以外では、「3人」（25.4%）、「2人」（25.2%）、「4人」（22.4%）の順となっている。

また、平均同居人数について、広義のひきこもり群(3.67人)、広義のひきこもり群以外(2.80人)であった。

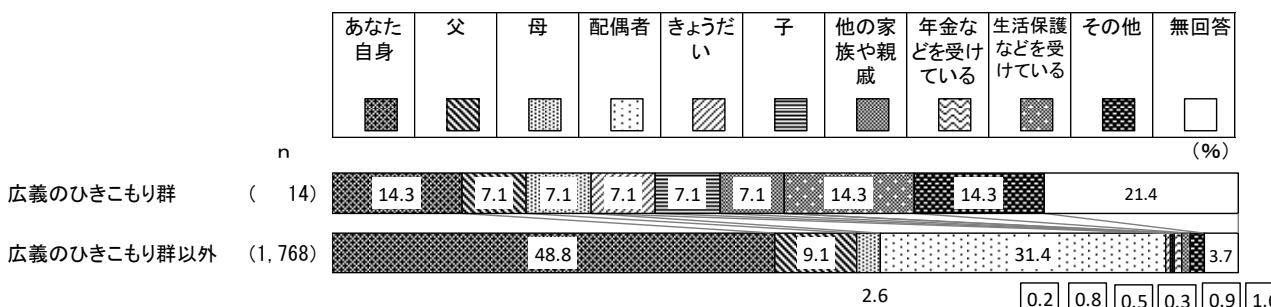
【内閣府調査との比較】



内閣府調査と比較すると、「同居家族はいない(単身世帯)」について、板橋区は【15～39歳】(25.0%)・【40～64歳】(37.5%)に対し、内閣府調査では【15～39歳】(2.0%)・【40～64歳】(10.6%)と、いずれの年齢区分でも板橋区の方が高い割合となっている。

(5) 主生計者

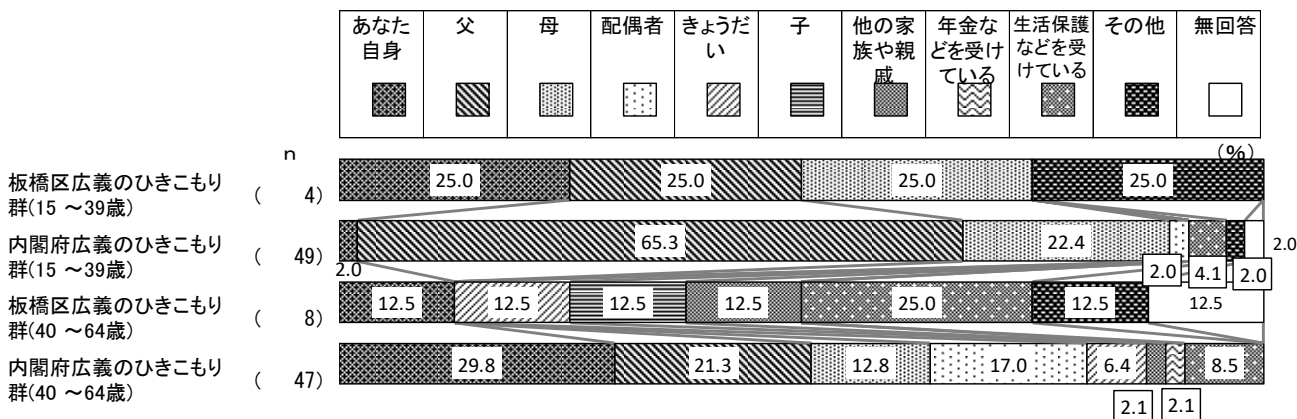
Q5 あなたの家の生計を立てているのは、主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。（〇はひとつだけ）



回答者の主生計者について、広義のひきこもり群は、「あなた自身」「生活保護などを受けている」「その他」（すべて 14.3%）の割合が高くなっている。なお、「その他」では、「母の年金と自分の貯金の切り崩し」、「二世帯住宅で一つ部屋をかしている（家賃）」等があげられている。

一方、広義のひきこもり群以外では、「あなた自身」（48.8%）、「配偶者」（31.4%）、「父」（9.1%）の順となっている。

【内閣府調査との比較】

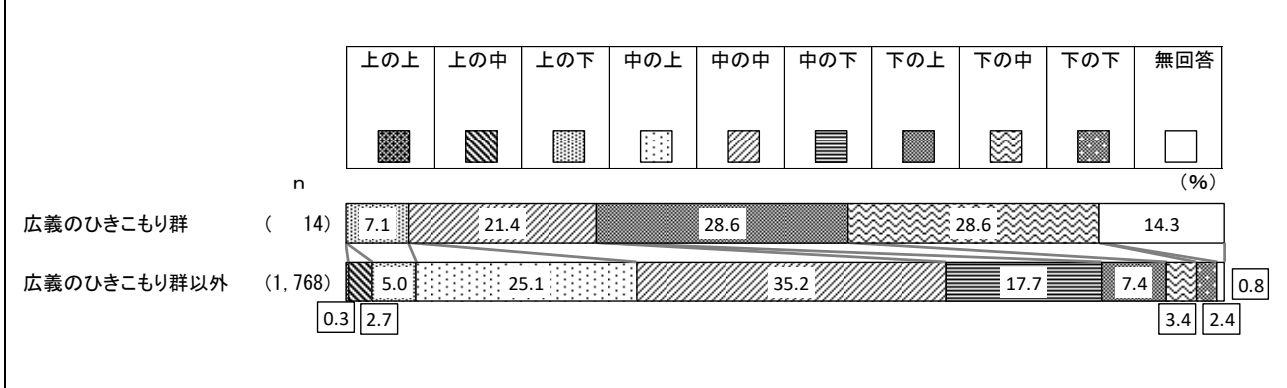


内閣府調査と比較すると、【15～39歳】において、板橋区は「あなた自身」「父」「母」「その他」（すべて 25.0%）、内閣府調査では「父」（65.3%）の割合が最も高くなっている。

一方、【40～64歳】では、板橋区は「生活保護などを受けている」（25.0%）、内閣府調査では「あなた自身」（29.8%）の割合が最も高くなっている。

(6) 暮らし向き

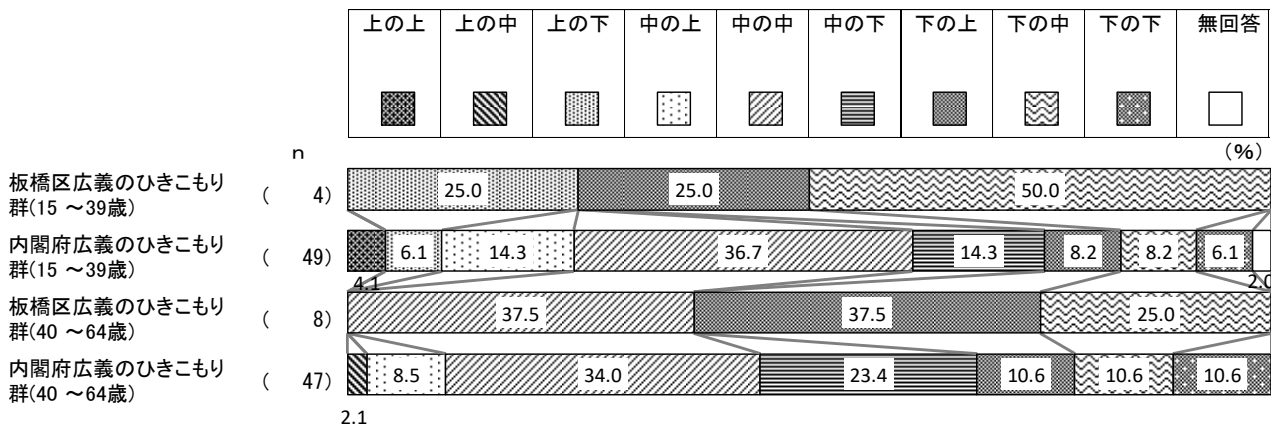
Q6 あなたの家の暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べてみて、上の上から下の下までのどれにあたると思われますか。あなたの実感でお答えください。（○はひとつだけ）



暮らし向きについて、広義のひきこもり群は、「下の上」「下の中」（ともに 28.6%）、「中の中」（21.4%）、「上の下」（7.1%）の順に割合が高くなっている。

一方、広義のひきこもり群以外では、「中の中」（35.2%）、「中の上」（25.1%）、「中の下」（17.7%）の順となっている。

【内閣府調査との比較】

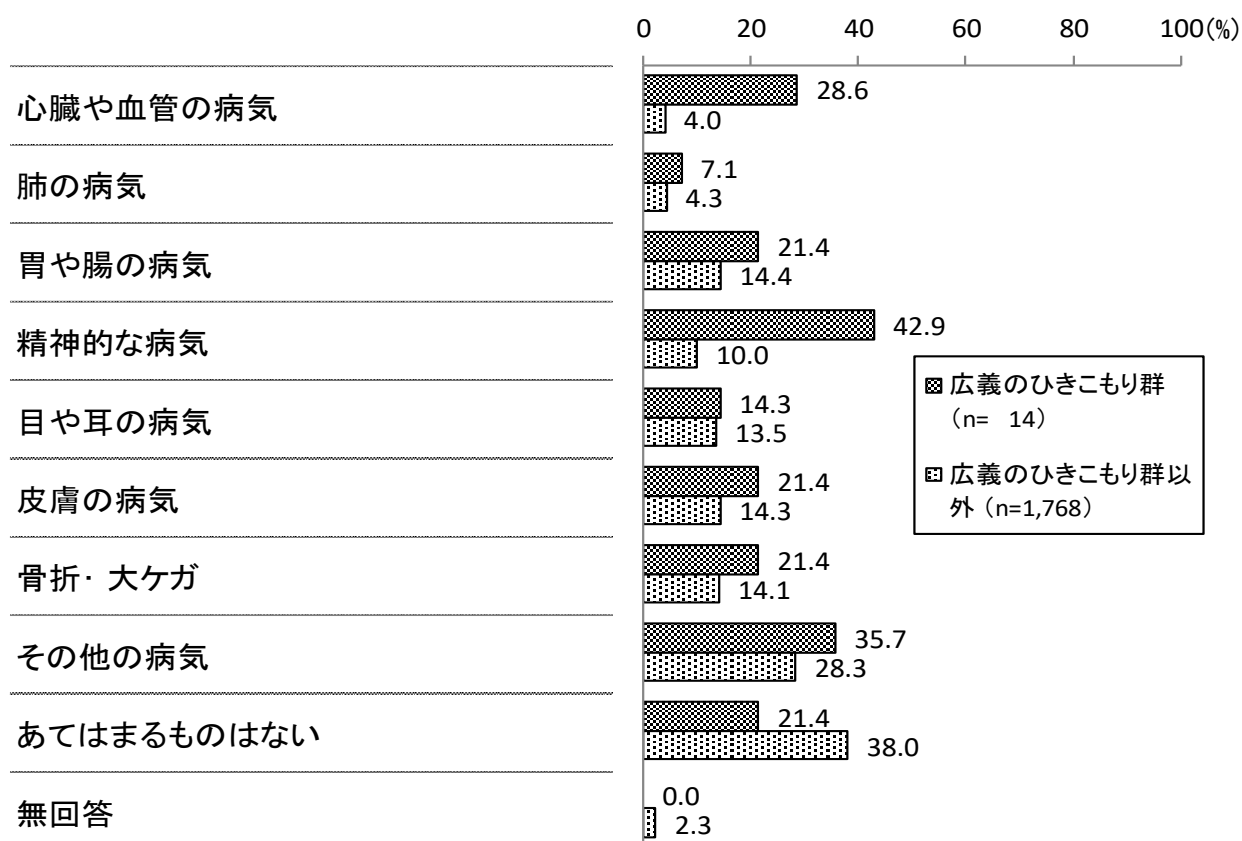


内閣府調査と比較すると、『15～39歳』において、板橋区は「下の中」（50.0%）、内閣府調査では「中の中」（36.7%）の割合が最も高くなっている。

一方、『40～64歳』では、板橋区は「中の中」「下の上」（ともに 37.5%）、内閣府調査は「中の中」（34.0%）の割合が最も高くなっている。

(7) 通院・入院経験のある病気

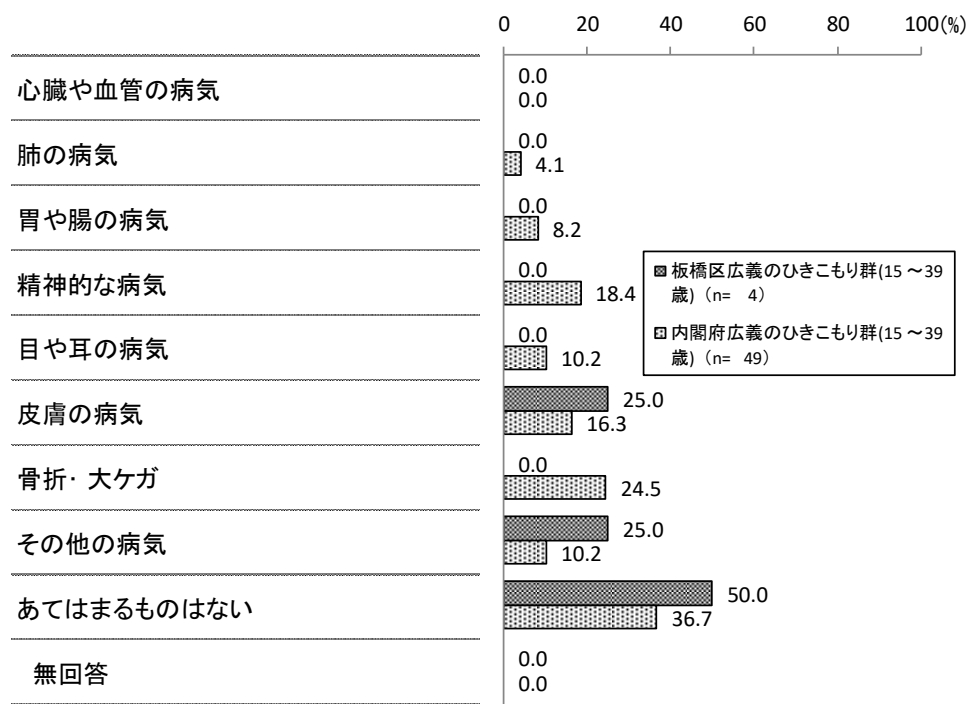
Q7 これまでに、以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。
通院・入院したことがある病気に○をつけてください。（○はいくつでも）



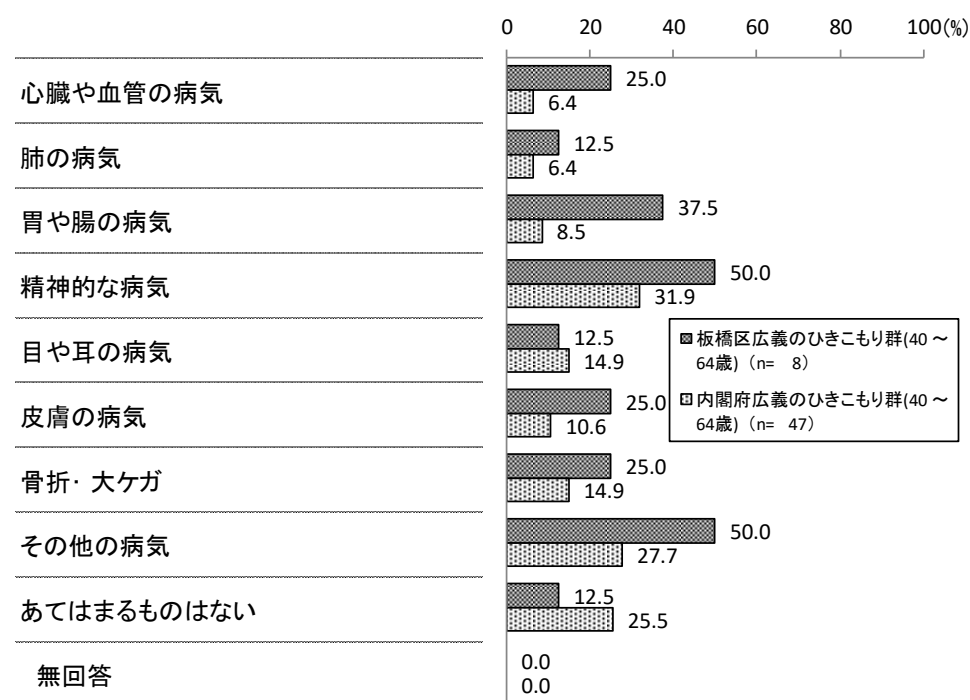
通院・入院経験のある病気について、広義のひきこもり群は、「精神的な病気」(42.9%)、「その他の病気」(35.7%)、「心臓や血管の病気」(28.6%)の順に割合が高くなっている。

一方、広義のひきこもり群以外では、「あてはまるものはない」を除くと、「その他の病気」(28.3%)、「胃や腸の病気」(14.4%)、「皮膚の病気」(14.3%)の順となっている。

【内閣府調査との比較（15～39 歳）】



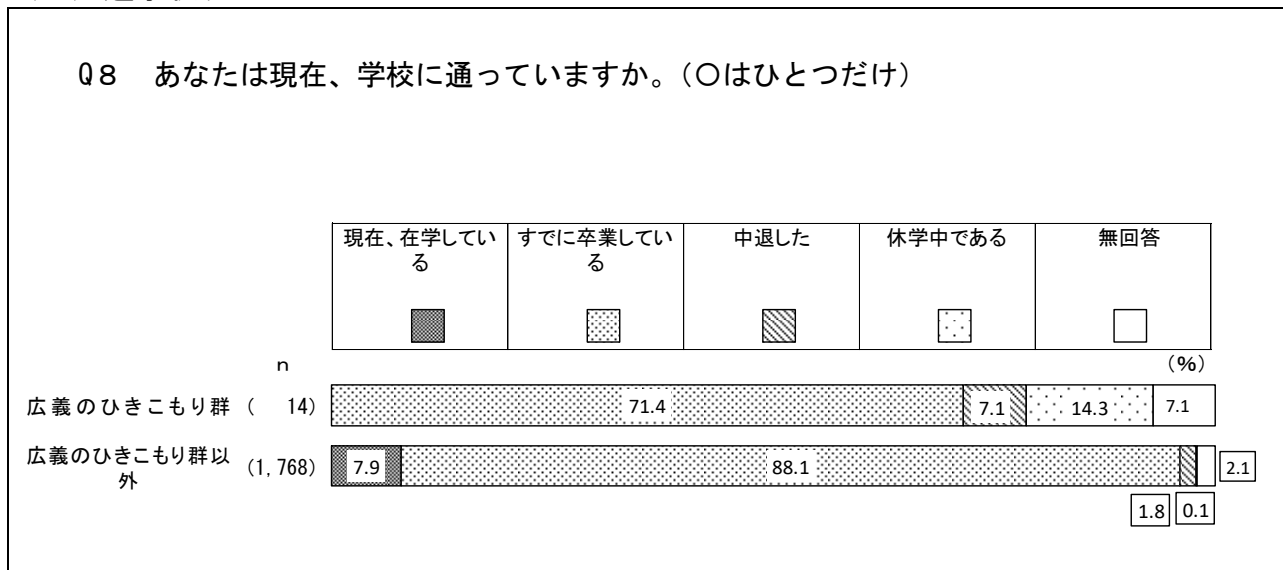
【内閣府調査との比較（40～64 歳）】



内閣府調査と比較すると、【15～39 歳】は、板橋区の方が「あてはまるものはない」(50.0%)、「皮膚の病気」「その他の病気」(ともに 25.0%)の割合が高くなっている。

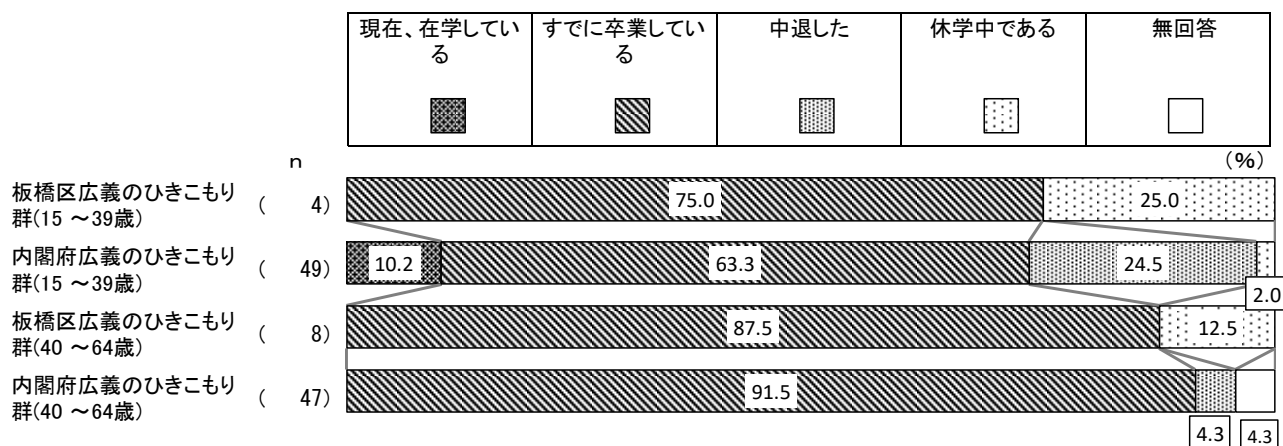
また、【40～64 歳】では、「目や耳の病気」「あてはまるものはない」を除いたすべての項目で、板橋区の方が高い割合となっている。

(8) 通学状況



通学状況について、「すでに卒業している」は、広義のひきこもり群(71.4%)・広義のひきこもり群以外(88.1%)と、16.7ポイントの差で広義のひきこもり群以外の方が、割合が高くなっている。一方、「中退した」「休学中である」では、広義のひきこもり群の方が高くなっている。

【内閣府調査との比較】



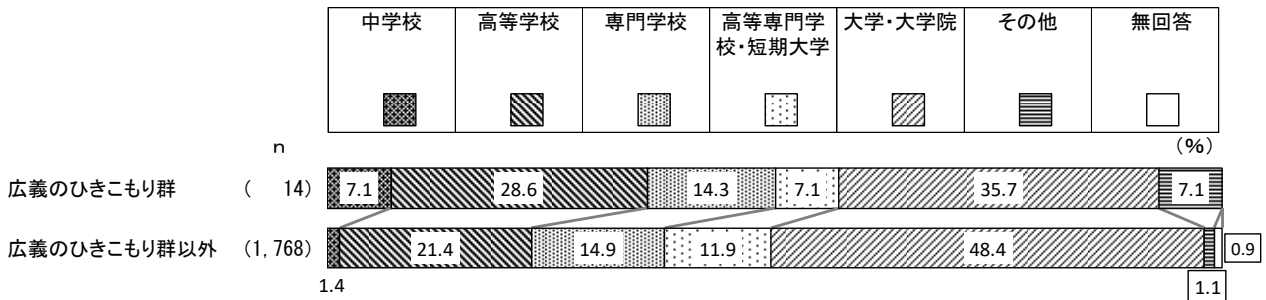
板橋区・内閣府調査ともに、全ての年齢区分で「すでに卒業している」の割合が最も高くなっている。

次いで、【15～39歳】では、板橋区は「休学中である」(25.0%)、内閣府調査は「中退した」(24.5%)が高い割合となっている。

また、【40～64歳】では、板橋区は「休学中である」(12.5%)、内閣府調査は「中退した」(4.3%)が高い割合となっている。

(9) 卒業・在学中の学校

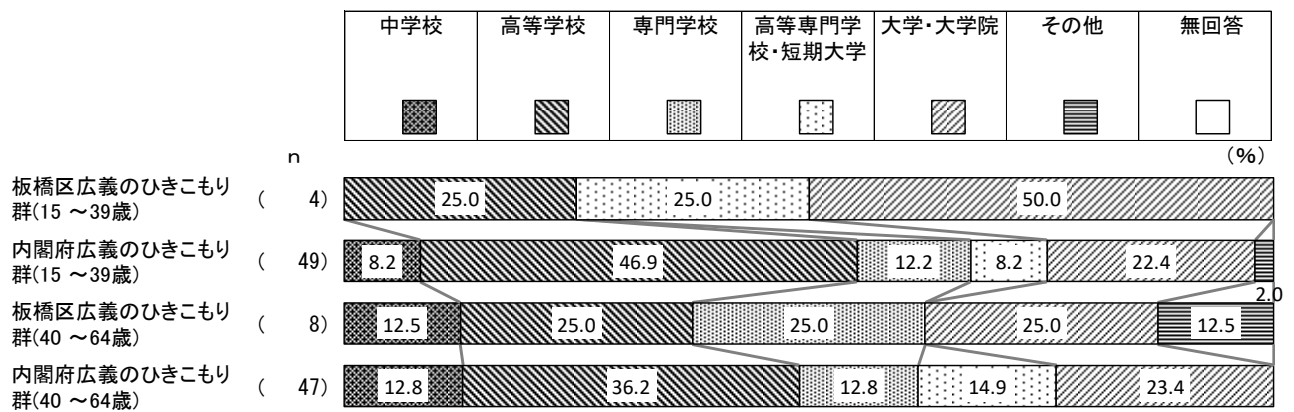
Q9 あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在、在学している学校はどれですか。（○はひとつだけ）



卒業・在学中の学校について、いずれの群も「大学・大学院」が最も高い割合となっており、広義のひきこもり群(35.7%)・広義のひきこもり群以外(48.4%)と 12.7 ポイントの差で、広義のひきこもり群以外の方が高くなっている。

次いでどちらの群も割合の高い「高等学校」では、広義のひきこもり群(28.6%)・広義のひきこもり群以外(21.4%)と 7.2 ポイントの差で、広義のひきこもり群の方が高い割合となっている。

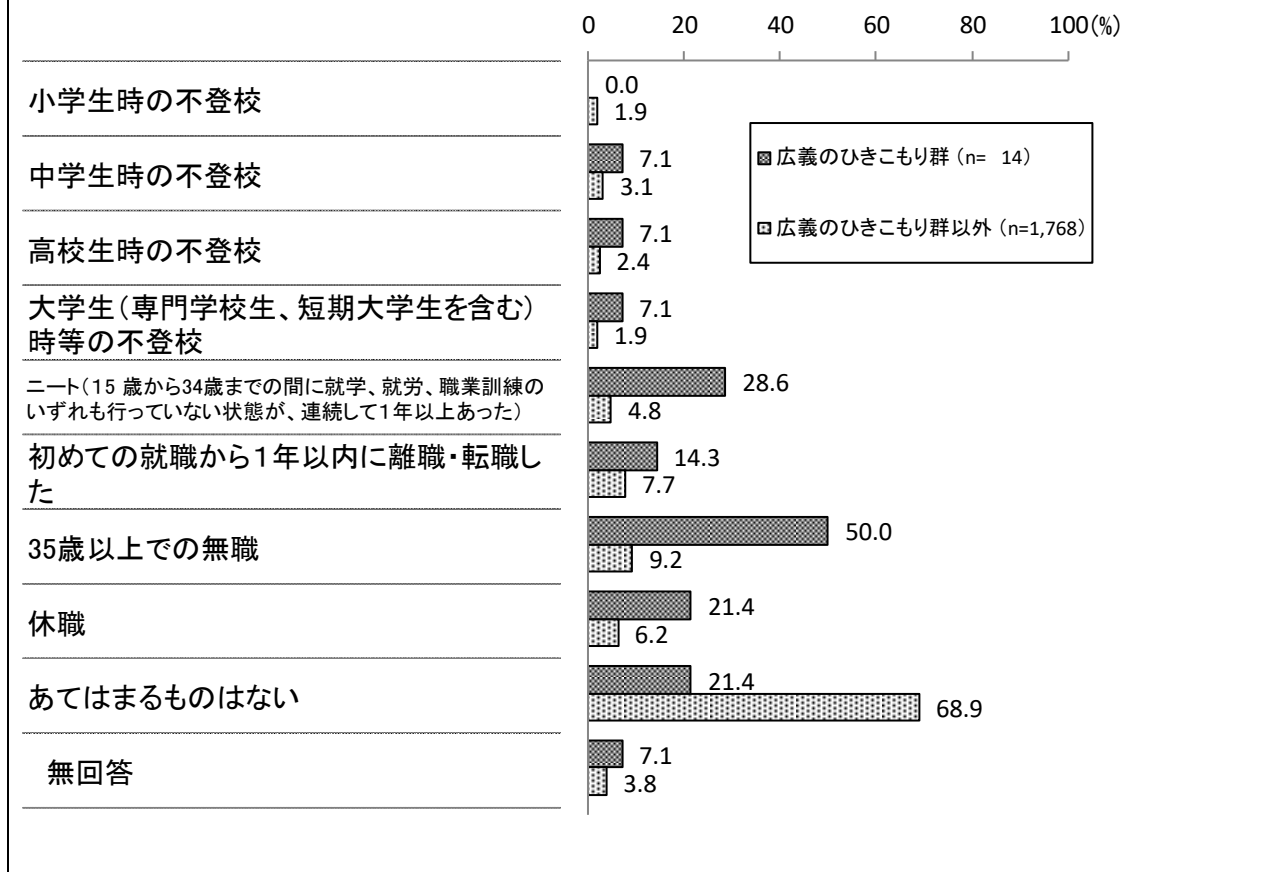
【内閣府調査との比較】



内閣府調査と比較すると、『15～39歳』で「大学・大学院」「高等専門学校・短期大学」は板橋区の方が、「中学校」「高等学校」「専門学校」は内閣府調査の方が高い割合となっている。

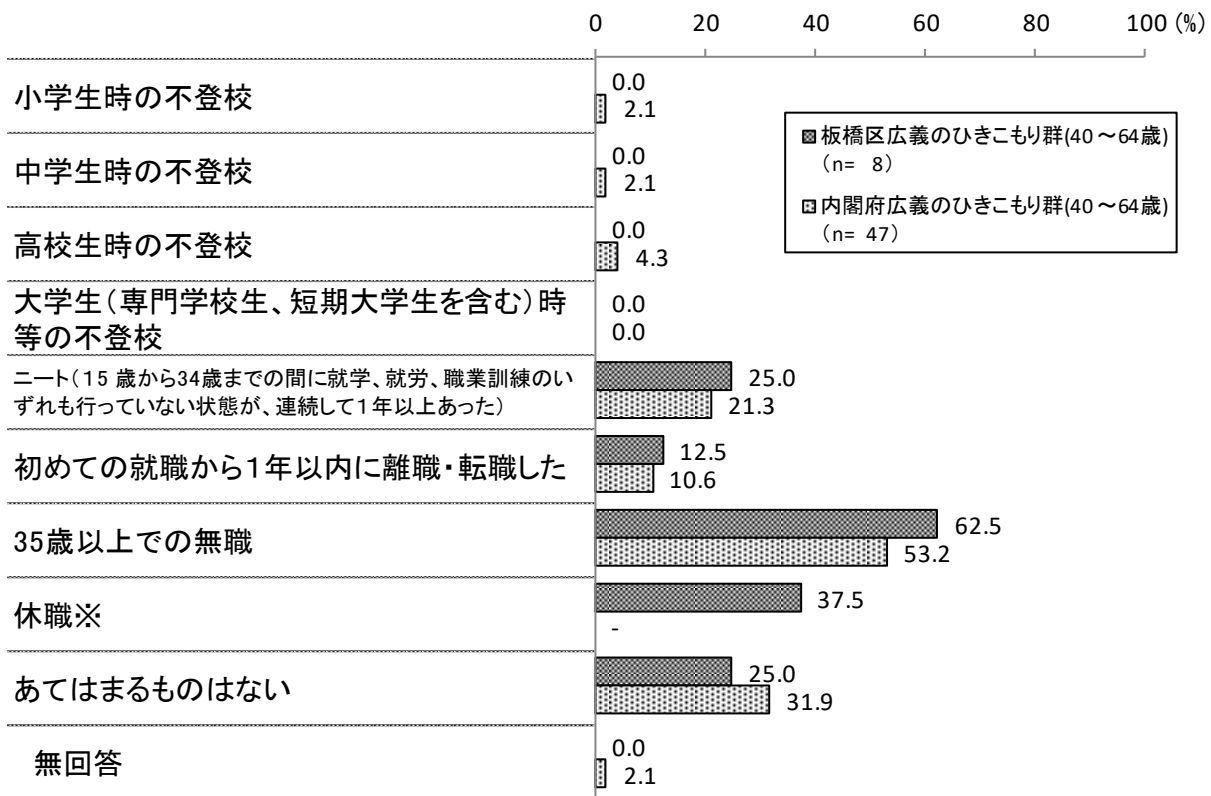
(10) これまでの経験

Q10 これまでに、以下のようなことを経験したことがありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）



これまでの経験について、「あてはまるものはない」を除くと、広義のひきこもり群は「35歳以上での無職」(50.0%)、「ニート」(28.6%)、「休職」(21.4%)の順に高い割合となっているのに対し、広義のひきこもり群以外では、「35歳以上での無職」(9.2%)、「初めての就職から1年以内に離職・転職した」(7.7%)、「休職」(6.2%)の順となっている。

【内閣府調査との比較（40～64歳）】



※「休職」は板橋区だけの項目。

※内閣府「ニート（15歳から34歳までの間に就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない状態があった）」を、板橋区は「ニート（15歳から34歳までの間に就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない状態が連続して1年以上あった）」

内閣府調査と比較すると、「35歳以上での無職」「ニート」「初めての就職から1年以内に離職・転職した」について、いずれも板橋区の割合の方が高くなっている。

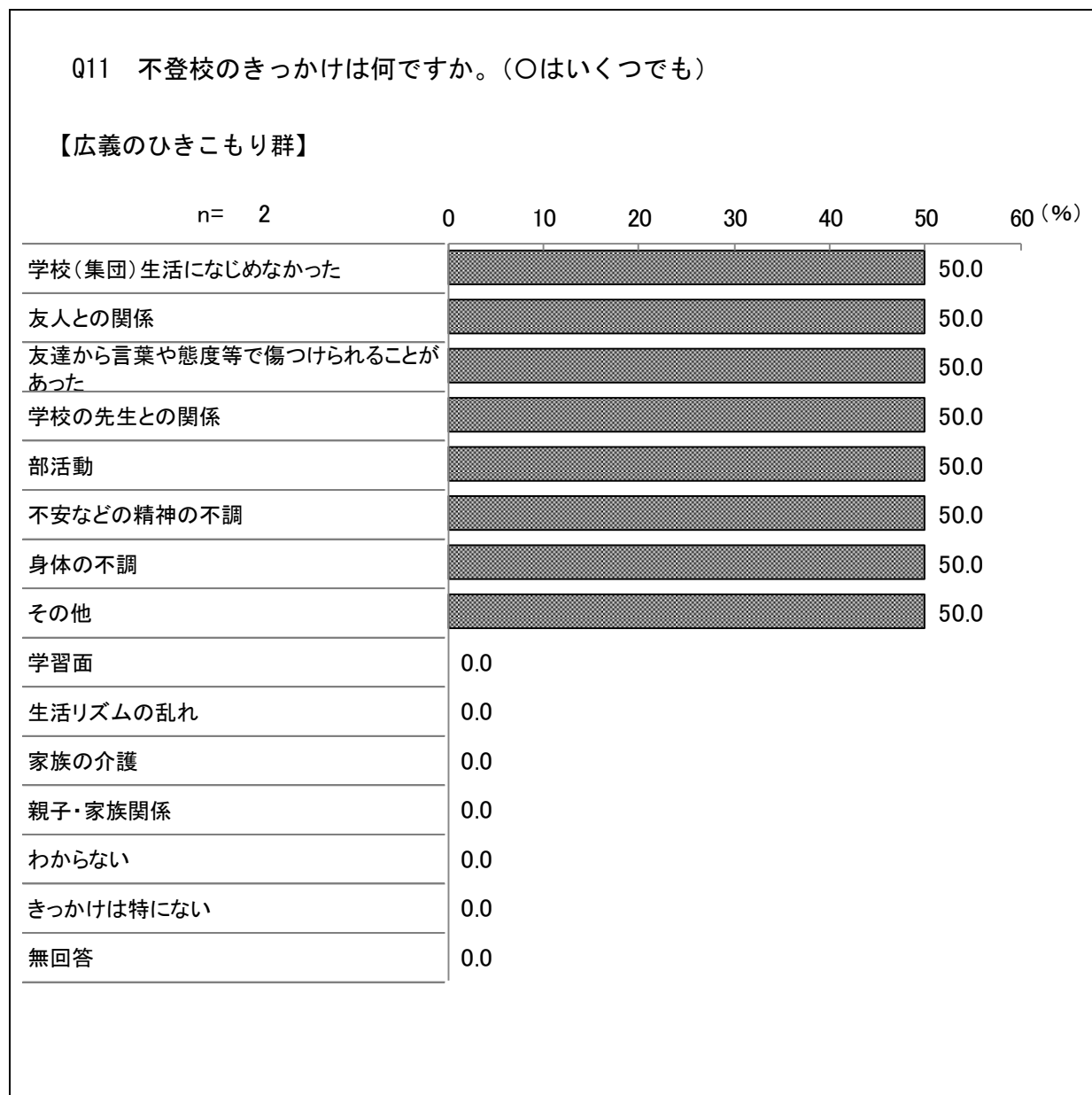
また、板橋区では、「小学生時の不登校」「中学生時の不登校」「高校生時の不登校」「大学生（専門学校生、短期大学生を含む）時の不登校」の該当者がいなかった。

※内閣府調査 広義のひきこもり群（15～39歳） 設問なし

(11) 不登校のきっかけ

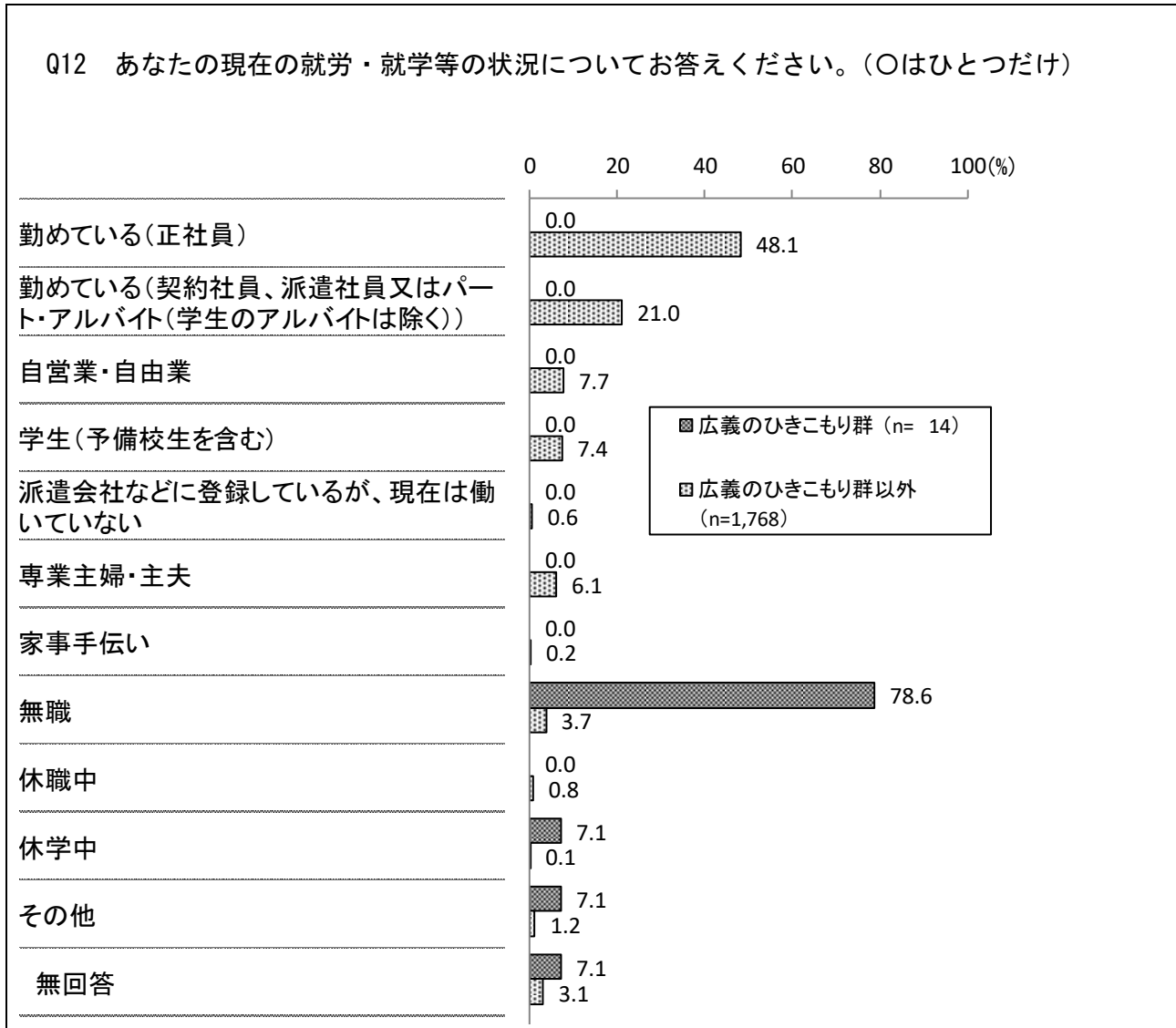
※ Q11 は、Q10 において不登校の経験がある者（Q10 において「小学生時の不登校」「中学生時の不登校」「高校生時の不登校」「大学生（専門学校生、短期大学生を含む）時等の不登校」を選択した者）のみが回答する項目となっている。

本報告書では、その中でも広義のひきこもり群に該当する者の結果について記載する。



不登校のきっかけについて、サンプル数が少ないため参考掲載とする。

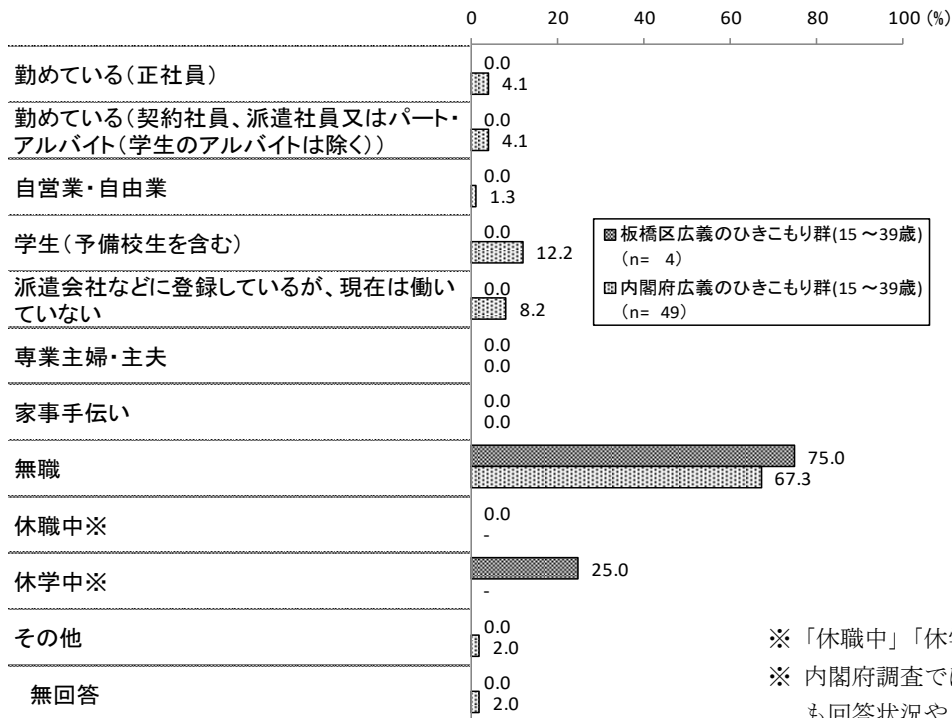
(12) 現在の就労・就学等の状況



現在の就労・就学等の状況について、広義のひきこもり群は、「無職」(78.6%)の割合が顕著に高く、次いで「休学中」「その他」(ともに7.1%)の順となっている。

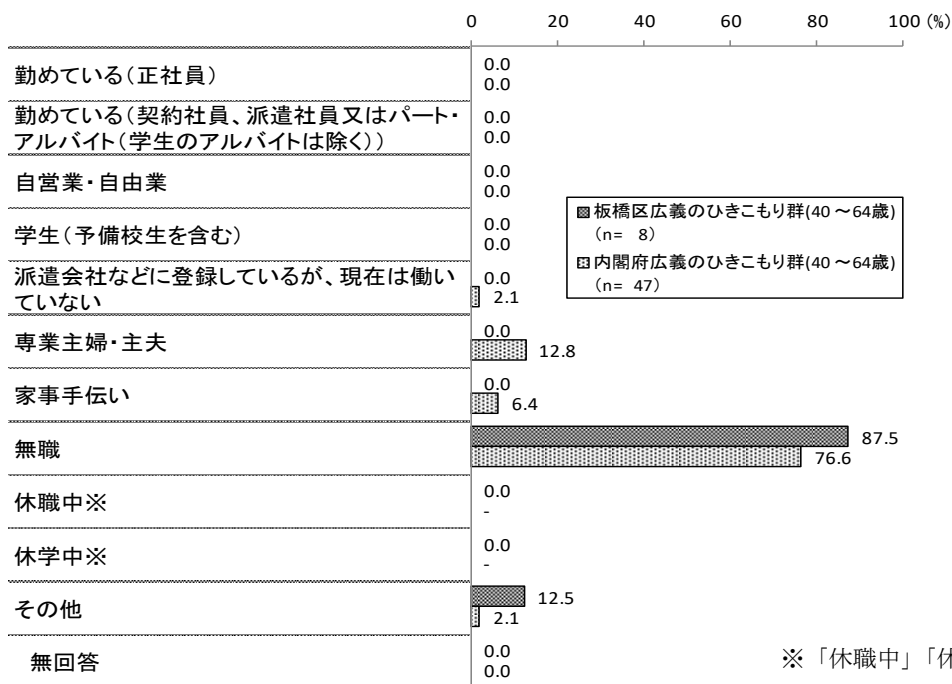
一方、広義のひきこもり群以外は、「勤めている(正社員)」(48.1%)、「勤めている(契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト(学生のアバイトは除く))」(21.0%)、「自営業・自由業」(7.7%)の順となっている。

【内閣府調査との比較（15～39 歳）】



※「休職中」「休学中」は板橋区だけの項目。
 ※内閣府調査では、「勤めている」と回答した者も回答状況や自由記述の内容により判断し、広義のひきこもり群に含めている。

【内閣府調査との比較（40～64 歳）】



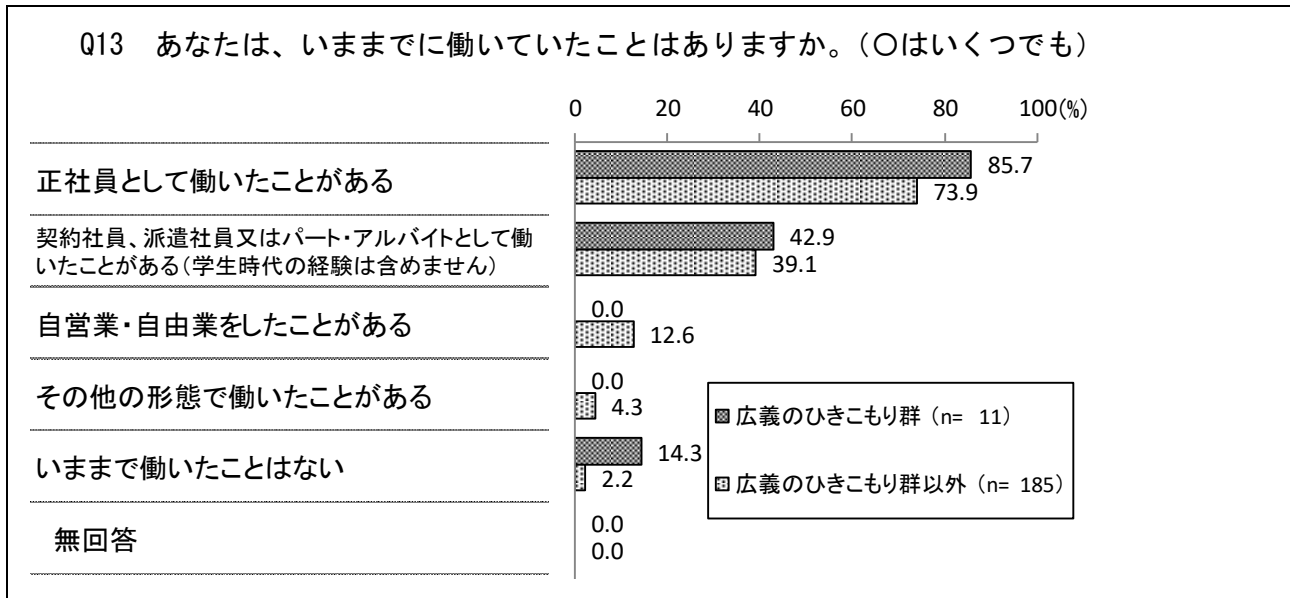
※「休職中」「休学中」は板橋区だけの項目。

内閣府調査と比較すると、「無職」について、【15～39 歳】板橋区（75.0%）・内閣府調査（67.3%）、【40～64 歳】板橋区（87.5%）・内閣府調査（76.6%）と、いずれの年齢区分でも板橋区の方が高い割合となっている。

また、内閣府調査では該当者がいた「学生」「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」「専業主婦・主夫」「家事手伝い」について、板橋区では該当者がいなかった。

※ Q13～Q15 は、Q12（現在の就労・就学等の状況）において「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」「専業主婦・主夫」「家事手伝い」「無職」を選択した者のみが回答する項目となっている。

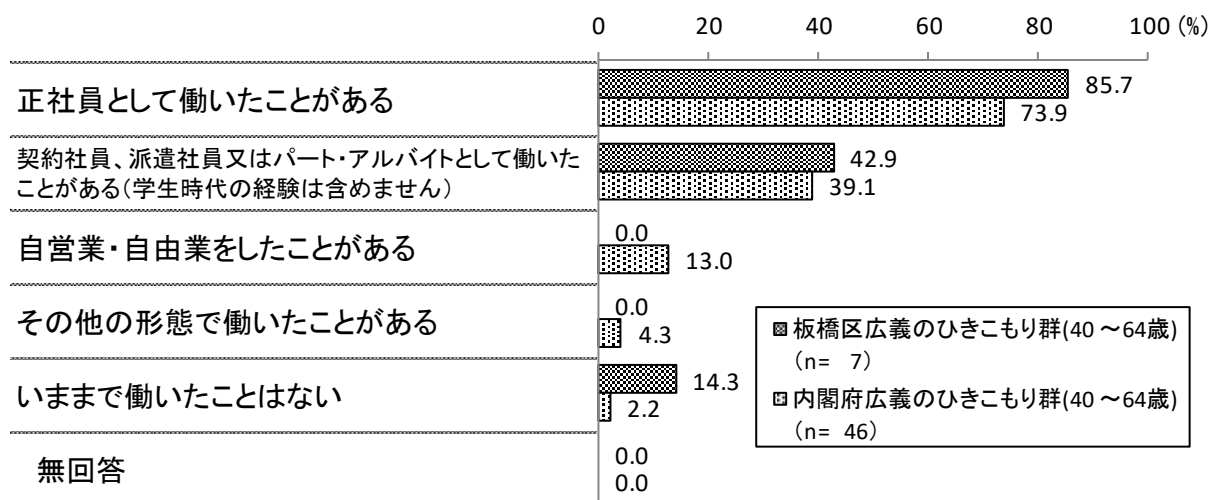
(13) 働いた経験



働いた経験について、「正社員として働いたことがある」が、広義のひきこもり群(85.7%)・広義のひきこもり群以外(73.9%)ともに、最も割合が高くなっている。

また、広義のひきこもり群は「自営業・自由業をしたことある」「その他の形態で働いたことがある」の該当者はいなかった。

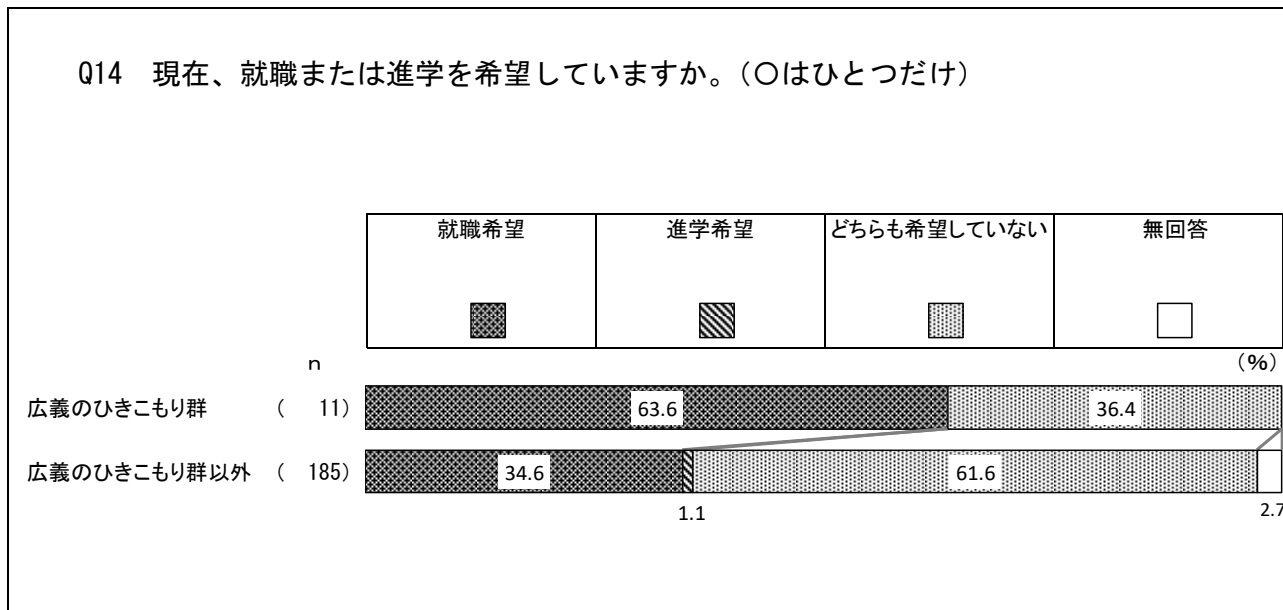
【内閣府調査との比較(40～64歳)】



内閣府調査と比較すると、「正社員として働いたことがある」「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いたことがある(学生時代の経験は含めません)」「いままで働いたことがない」について、板橋区の割合の方が高くなっている。

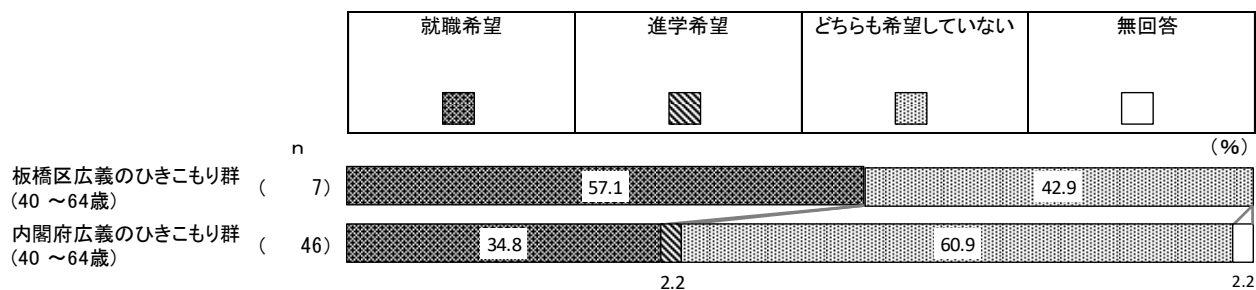
※ 内閣府調査 広義のひきこもり群(15～39歳) 設問なし

(14) 就職又は進学希望



就職又は進学希望について、広義のひきこもり群では、「就職希望」の割合(63.6%)が高くなっている。一方、広義のひきこもり群以外では、「どちらも希望していない」の割合(61.6%)が高くなっている。

【内閣府調査との比較(40～64歳)】

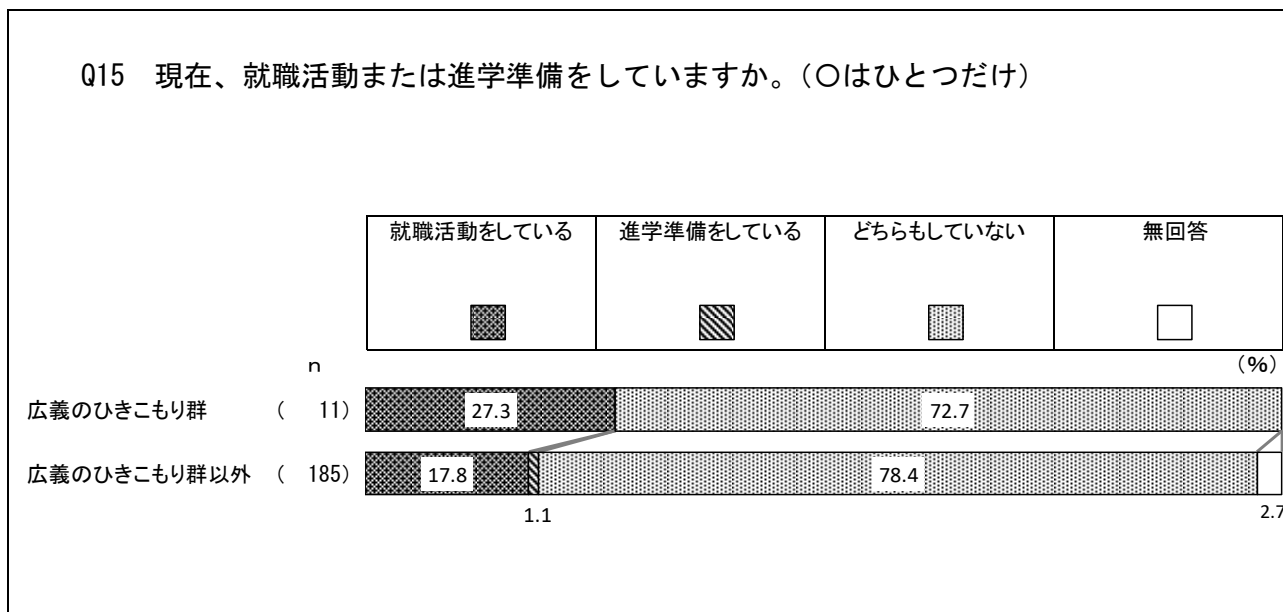


内閣府調査と比較すると、「就職希望」について、板橋区(57.1%)・内閣府調査(34.8%)と22.3ポイント差で、板橋区の割合の方が高くなっている。

一方、「どちらも希望していない」では、板橋区(42.9%)・内閣府調査(60.9%)と、内閣府調査の方が高くなっている。

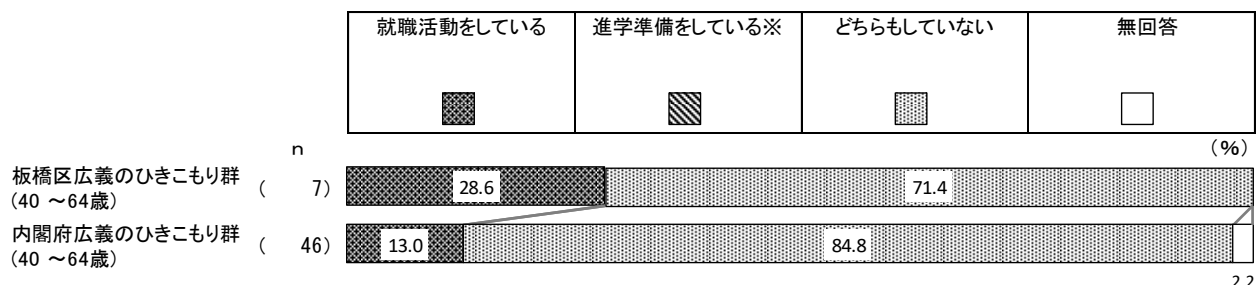
※ 内閣府調査 広義のひきこもり群(15～39歳) 設問なし

(15) 就職活動・進学準備



就職活動・進学準備について、「就職活動をしている」は、広義のひきこもり群(27.3%)・広義のひきこもり群以外(17.8%)と9.5ポイント差で、広義のひきこもり群の割合の方が高くなっている。

【内閣府調査との比較(40～64歳)】



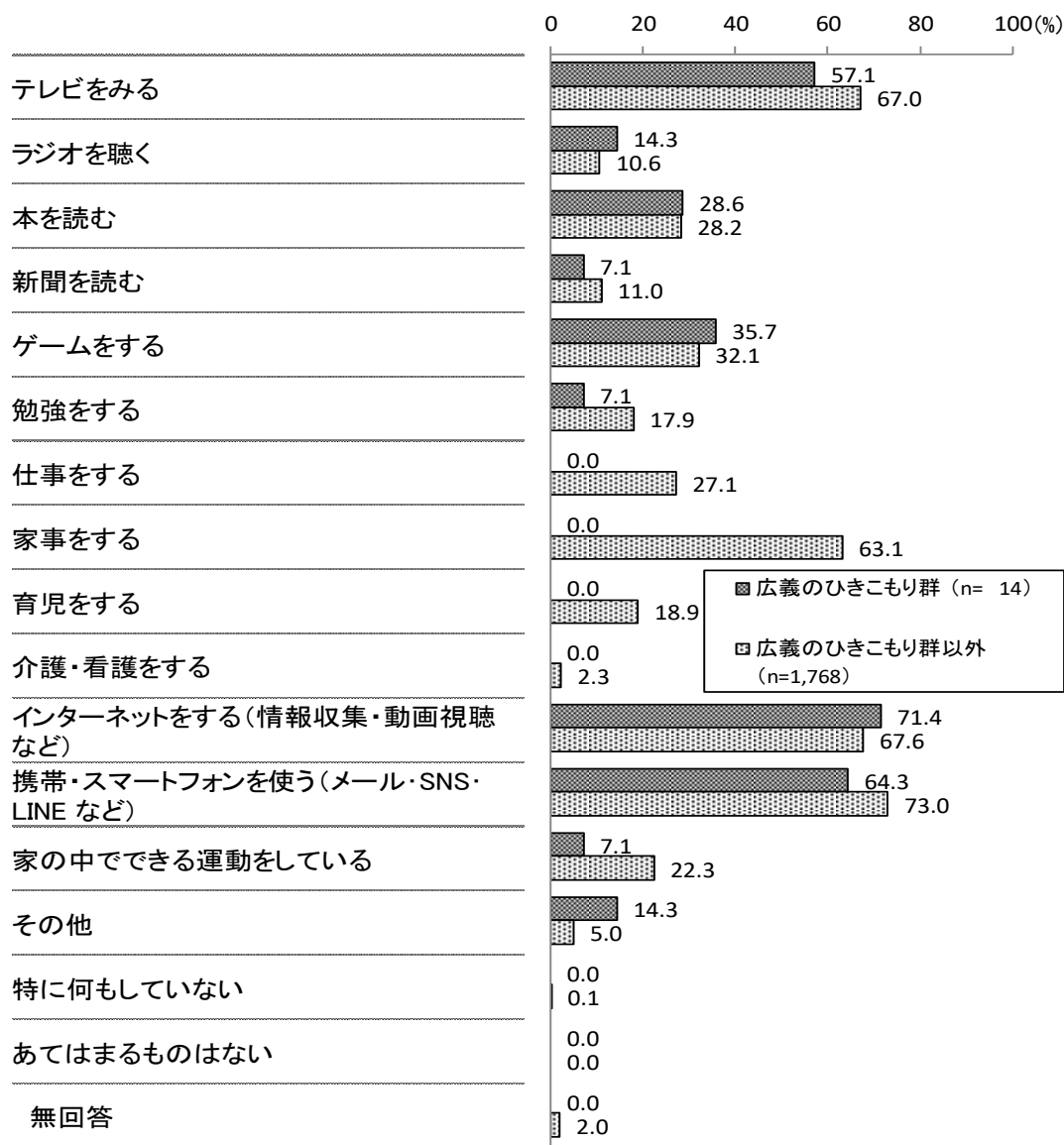
※「進学準備をしている」は板橋区だけの項目。

内閣府調査と比較すると、「就職活動をしている」について、板橋区(28.6%)・内閣府調査(13.0%)と15.6ポイント差で、板橋区の割合の方が高くなっている。

※ 内閣府調査 広義のひきこもり群(15～39歳) 設問なし

(16) ふだん自宅をよくしていること

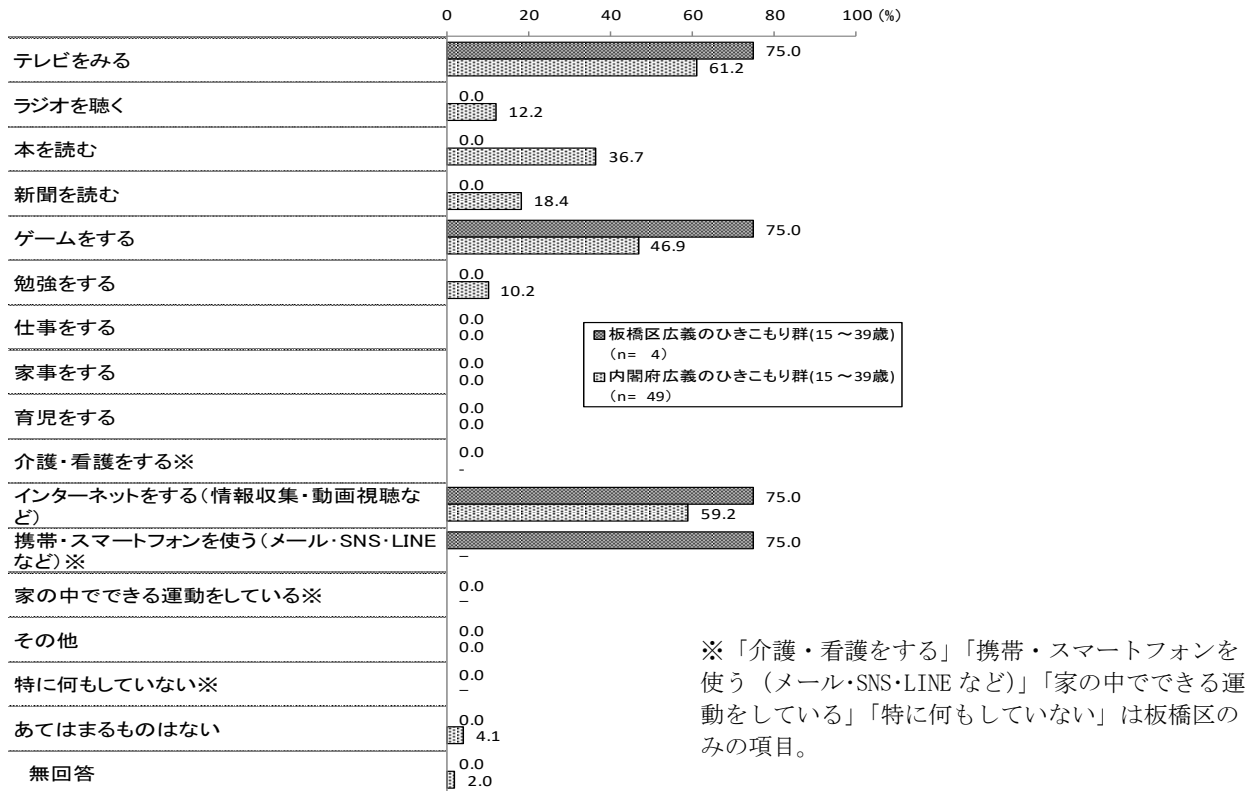
Q16 ふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。
 (○はいくつでも)



ふだん自宅をよくしていることについて、広義のひきこもり群は、「インターネットをする（情報収集・動画視聴など）」(71.4%)、「携帯・スマートフォンを使う（メール・SNS・LINE など）」(64.3%)、「テレビをみる」(57.1%)、「ゲームをする」(35.7%)の順に割合が高くなっている。

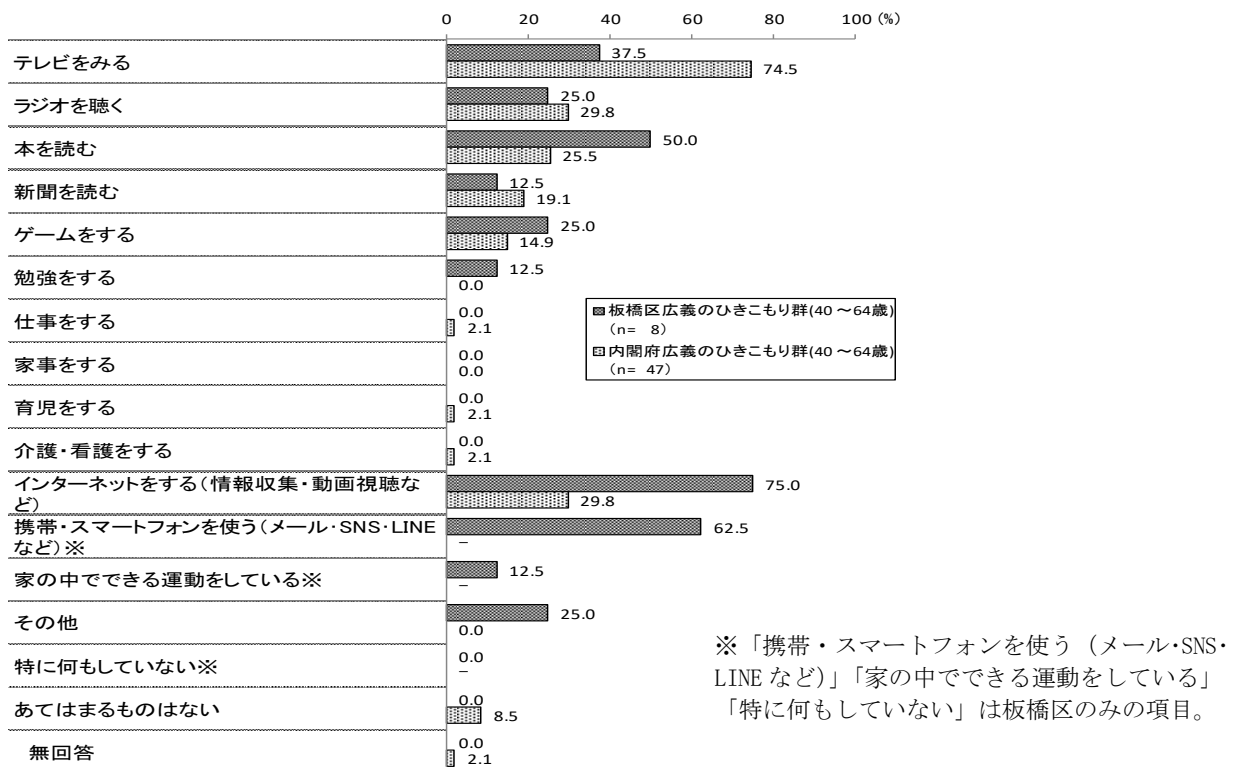
一方、広義のひきこもり群以外では、「携帯・スマートフォンを使う（メール・SNS・LINE など）」(73.0%)、「インターネットをする（情報収集・動画視聴など）」(67.6%)、「テレビをみる」(67.0%)、「家事をする」(63.1%)の順となっている。

【内閣府調査との比較(15～39歳)】



内閣府調査と比較すると、「テレビをみる」「ゲームをする」「インターネットをする(情報収集・動画視聴など)」について、板橋区の割合(すべて75.0%)の方が高くなっている。

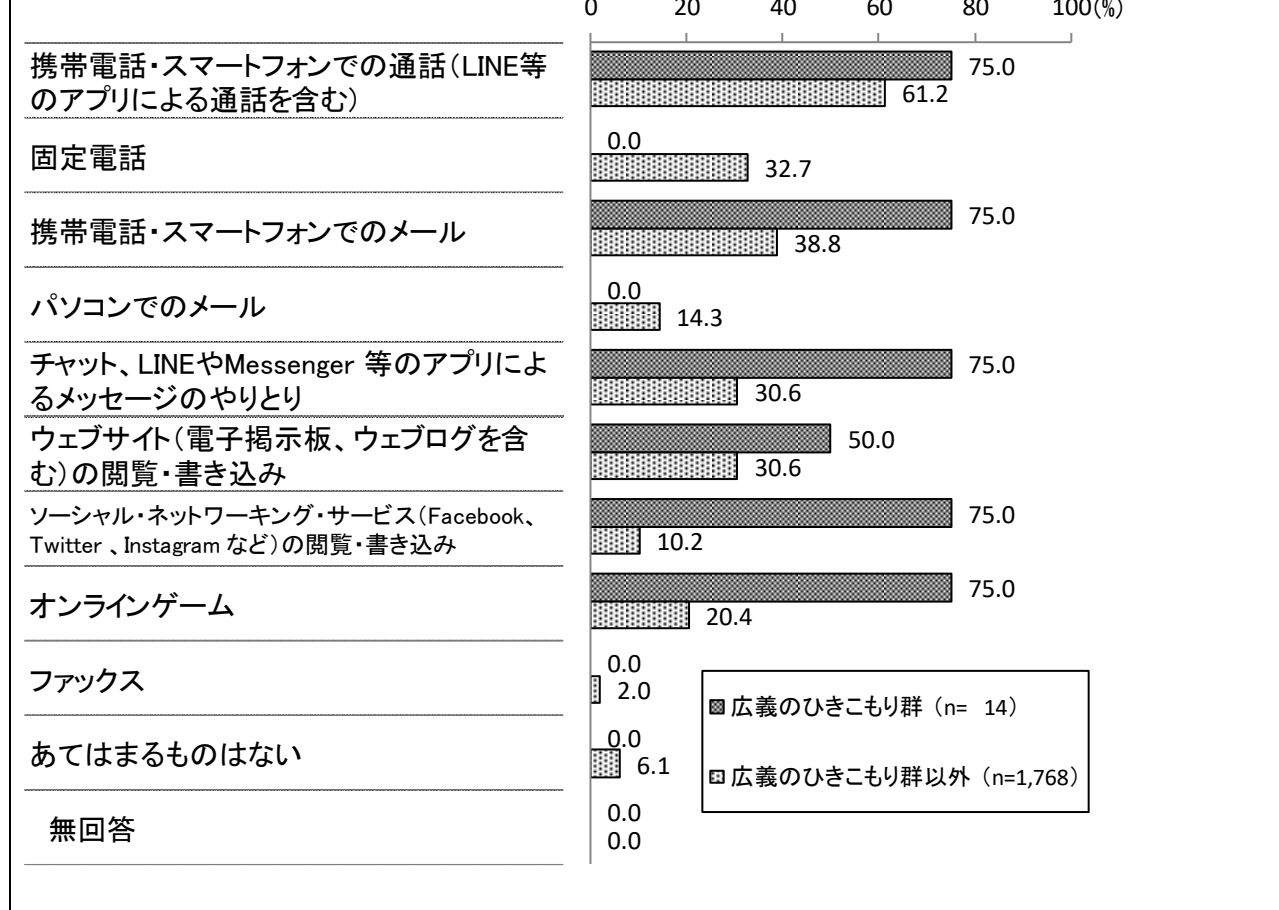
【内閣府調査との比較(40～64歳)】



内閣府調査と比較すると、「インターネットをする(情報収集・動画視聴など)」「本を読む」について、板橋区の割合の方が高くなっている。一方、「テレビをみる」は、内閣府調査の割合の方が高くなっている。

(17) 通信手段でふだん利用しているもの

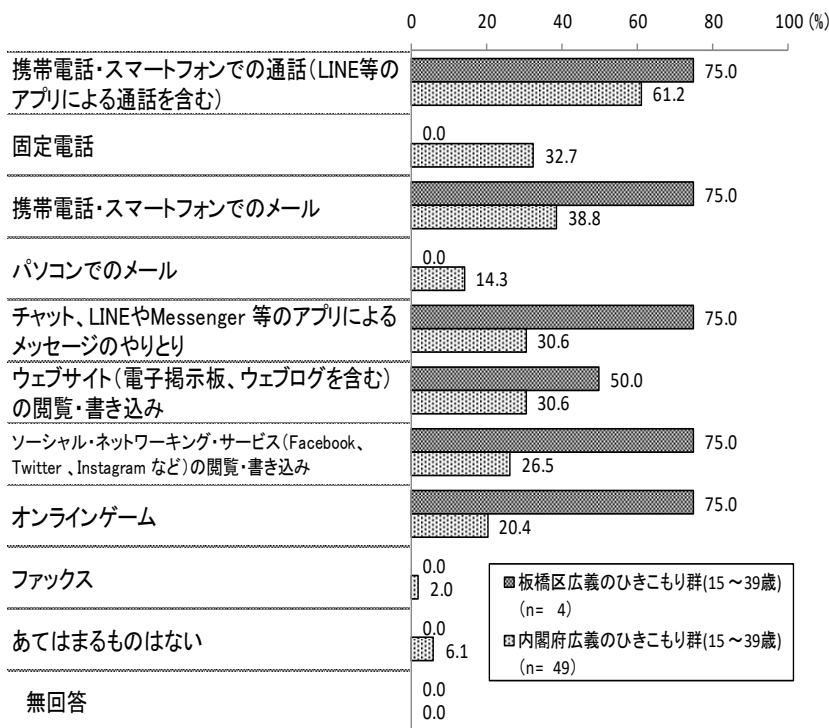
Q17 以下に挙げられた通信手段の中で、ふだん利用しているものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）



通信手段でふだん利用しているものについて、広義のひきこもり群は、「携帯電話・スマートフォンでの通話（LINE 等のアプリによる通話を含む）」「携帯電話・スマートフォンでのメール」「チャット、LINE や Messenger 等のアプリによるメッセージのやりとり」「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Facebook、Twitter、Instagram など）の閲覧・書き込み」「オンラインゲーム」の割合（すべて 75.0%）が高くなっている。

一方、広義のひきこもり群以外では、「携帯電話・スマートフォンでの通話（LINE 等のアプリによる通話を含む）」（61.2%）、「携帯電話・スマートフォンでのメール」（38.8%）、「チャット、LINE や Messenger 等のアプリによるメッセージのやりとり」「ウェブサイト（電子掲示板、ウェブログを含む）の閲覧・書き込み」（ともに 30.6%）の順に高い割合となっている。

【内閣府調査との比較（15～39 歳）】



※内閣府「携帯電話での通話」を、板橋区「携帯電話・スマートフォンでの通話（LINE等のアプリによる通話を含む）」

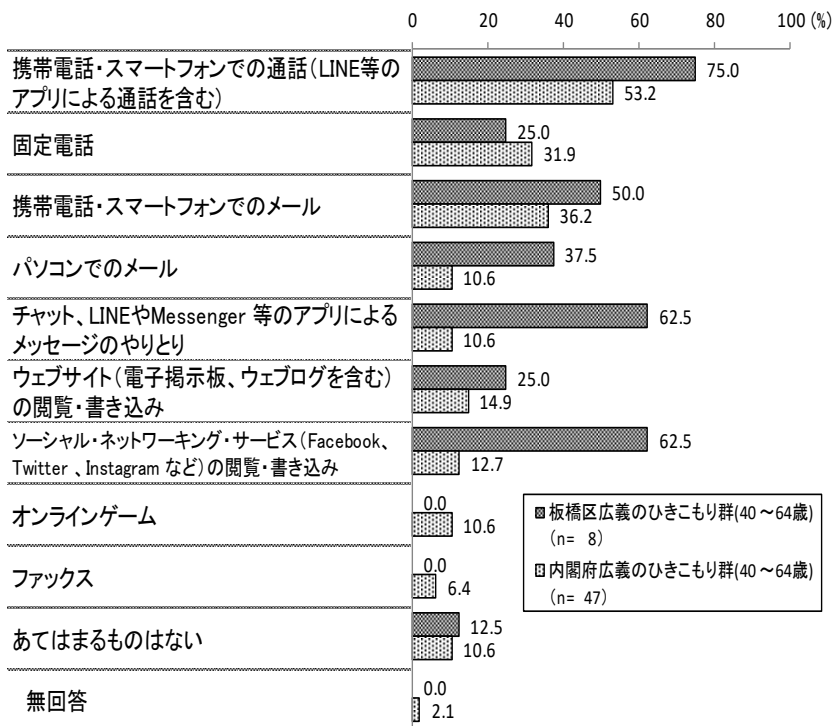
※内閣府「携帯電話でのメール」を、板橋区「携帯電話・スマートフォンでのメール」

※内閣府「チャットまたはメッセージング」を、板橋区「チャット、LINEやMessenger等のアプリによるメッセージのやりとり」

※内閣府「ウェブサイトの閲覧・書き込み」を、板橋区「ウェブサイト（電子掲示板、ウェブログを含む）の閲覧・書き込み」

※内閣府「ツイッター（Twitter）」「ソーシャル・ネットワーキング・サービスの閲覧・書き込み」を、板橋区「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Facebook、Twitter、Instagramなど）の閲覧・書き込み」

【内閣府調査との比較（40～64 歳）】



※内閣府「携帯電話での通話（LINE等のアプリによる通話を含む）」を、板橋区「携帯電話・スマートフォンでの通話（LINE等のアプリによる通話を含む）」

※内閣府「携帯電話でのメール」を、板橋区「携帯電話・スマートフォンでのメール」

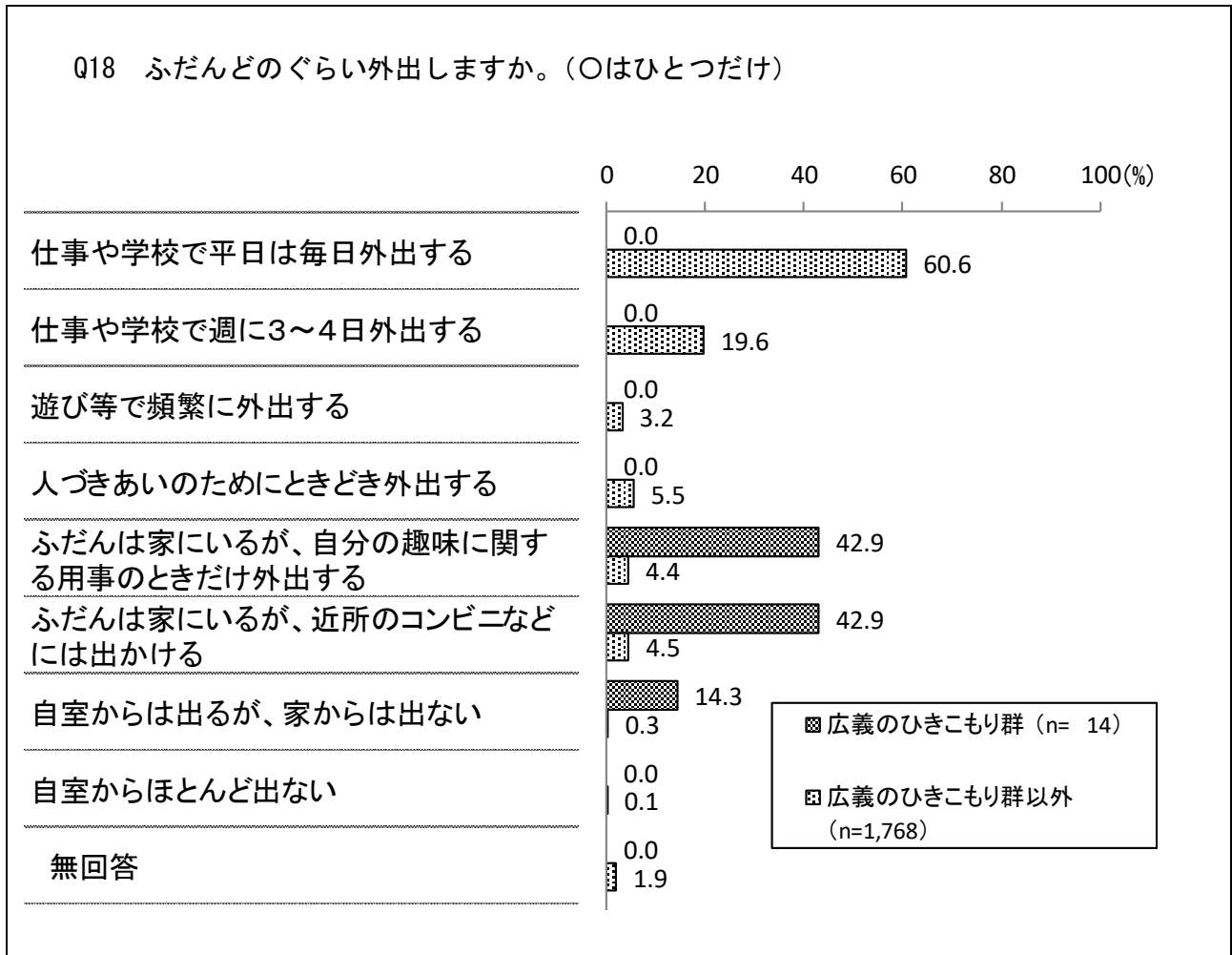
※内閣府「チャットまたはメッセージング」を、板橋区「チャット、LINEやMessenger等のアプリによるメッセージのやりとり」

※内閣府「ツイッター（Twitter）」「ソーシャル・ネットワーキング・サービスの閲覧・書き込み」を、板橋区「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Facebook、Twitter、Instagramなど）の閲覧・書き込み」

内閣府調査と比較すると、板橋区の方が、【15～39 歳】は「固定電話」「パソコンでのメール」「ファックス」以外の項目、【40～64 歳】では「固定電話」「オンラインゲーム」「ファックス」以外の項目での割合が高くなっている。

※ Q18 の設問は、「広義のひきこもり群」を定義するために使用した。

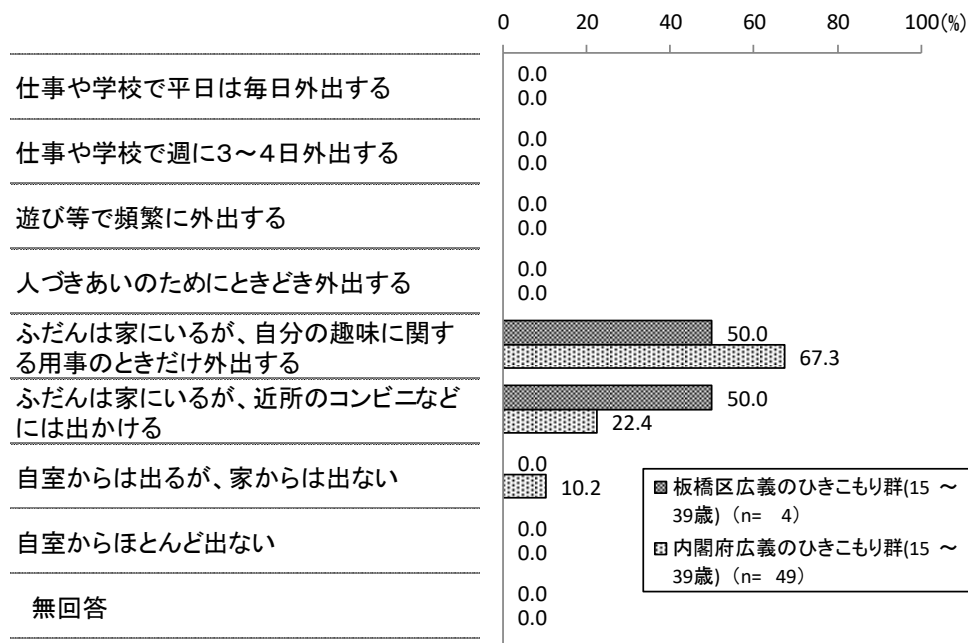
(18) ふだんの外出頻度



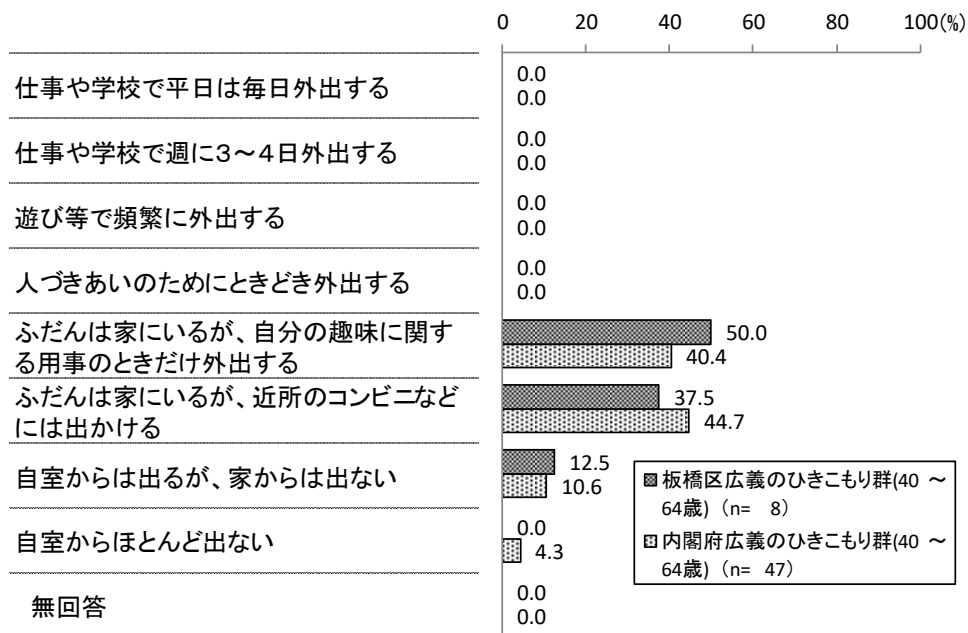
ふだんの外出頻度について、広義のひきこもり群は、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」の割合(ともに 42.9%)が最も高くなっている。

一方、広義のひきこもり群以外では、「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合(60.6%)が最も高くなっている。

【内閣府調査との比較（15～39 歳）】



【内閣府調査との比較（40～64 歳）】



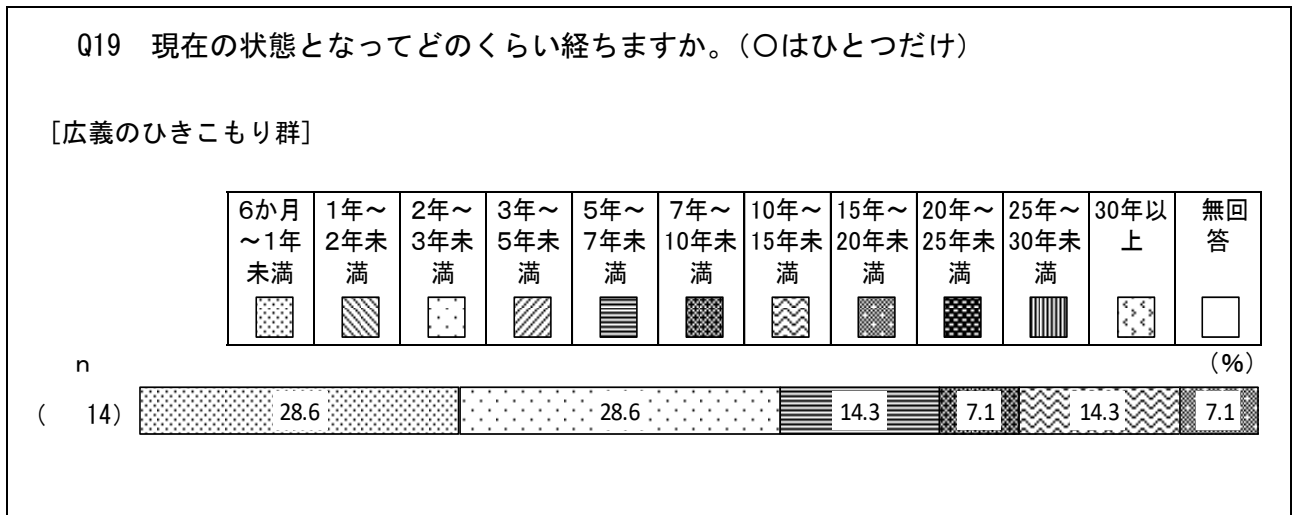
内閣府調査と比較すると、【15～39 歳】において、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」は内閣府調査の割合の方が、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」では板橋区の割合の方が高くなっている。

また、【40～64 歳】では、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「自室からは出るが、家からは出ない」が、板橋区の割合の方が高くなっている。

※ Q19～Q28 は、Q18（ふだんの外出頻度）において外出頻度が低かった者（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」を選択した者）のみが回答する項目となっている。

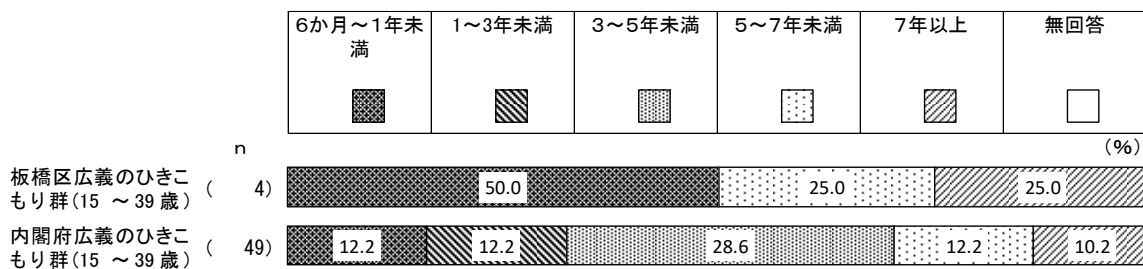
本報告書では、その中でも「広義のひきこもり群」に該当する者の結果について記載する。

(19) ひきこもりの状態になってからの期間



ひきこもりの状態になってからの期間について、「6か月～1年未満」「2年～3年未満」の割合（ともに 28.6%）が最も高く、次いで「5年～7年未満」「10年～15年未満」（ともに 14.3%）、「7年～10年未満」「15年～20年未満」（ともに 7.1%）の順となっている。

【内閣府調査との比較(15～39歳)】

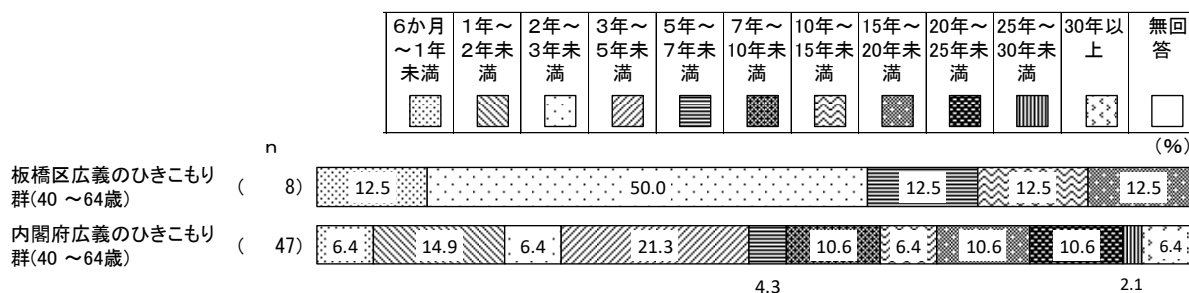


※内閣府調査「1～3年」＝板橋区「1～2年未満」「2～3年未満」

※内閣府調査「7年以上」＝板橋区「7～10年未満」「10～15年未満」「15～20年未満」「20～25年未満」「25～30年未満」「30年以上」

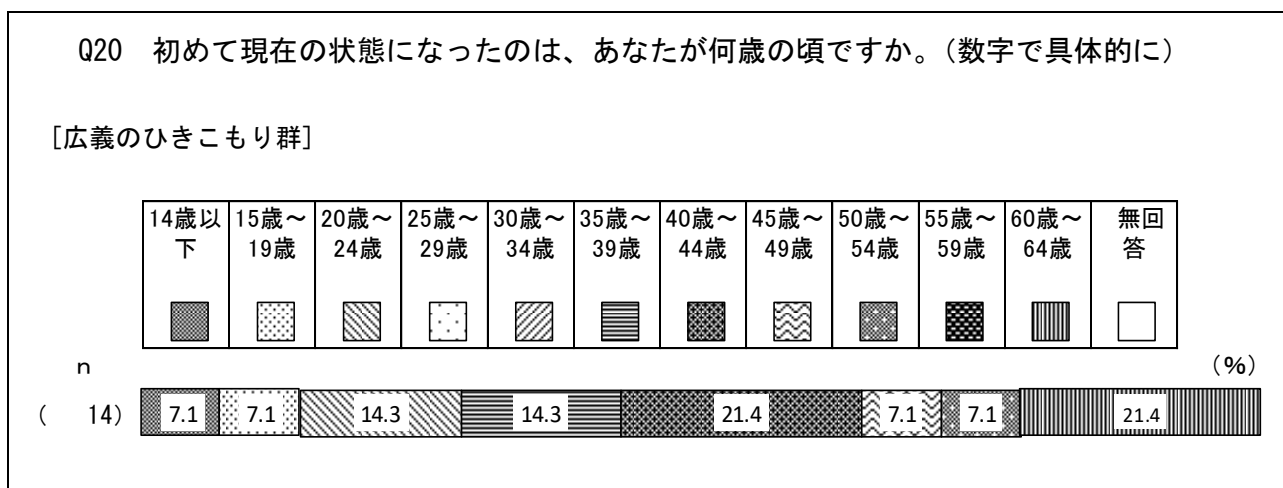
内閣府調査と比較すると、「6か月～1年未満」が、板橋区(50.0%)・内閣府調査(12.2%)と、板橋区の割合の方が顕著に高くなっている。

【内閣府調査との比較（40～64歳）】



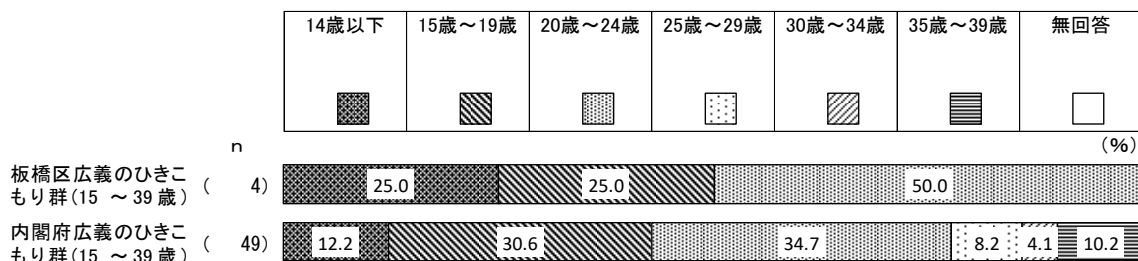
内閣府調査と比較すると、「2年～3年未満」が、板橋区（50.0%）・内閣府調査（6.4%）と、板橋区の割合の方が顕著に高くなっている。

(20) 初めてひきこもりの状態になった年齢



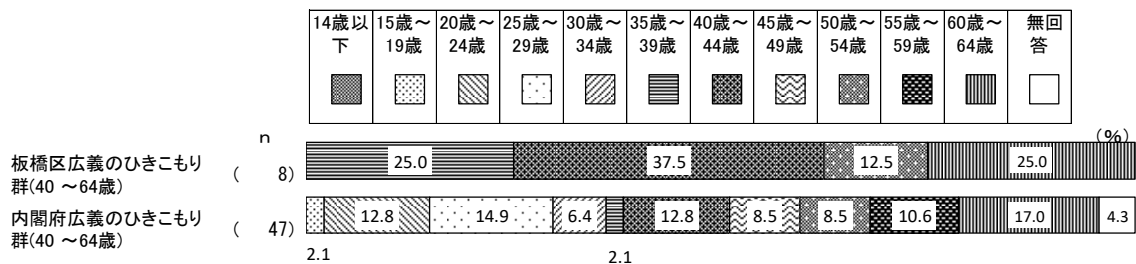
初めてひきこもりの状態になった年齢について、「40歳～44歳」「60歳～64歳」の割合（ともに21.4%）が最も高く、次いで「20歳～24歳」「35歳～39歳」（ともに14.3%）、「14歳以下」「15歳～19歳」「45歳～49歳」「50歳～54歳」（すべて7.1%）の順となっている。

【内閣府調査との比較（15～39歳）】



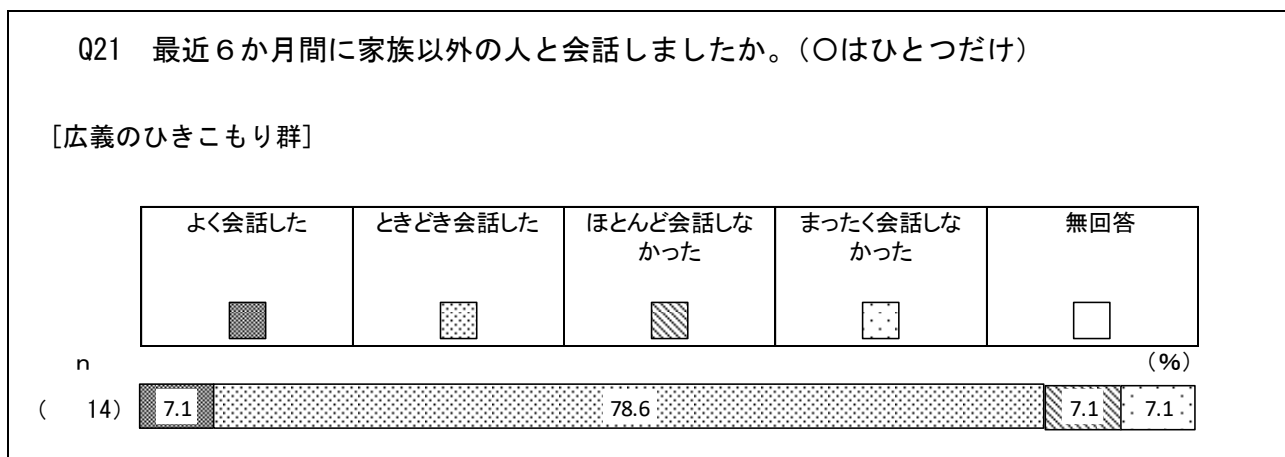
内閣府調査と比較すると、板橋区では24歳以下のみであるのに対し、内閣府調査では24歳以下の割合が高いものの、25歳以上[（25～29歳（8.2%）・30～34歳（4.1%）・35～39歳（10.2%）]もみられる。

【内閣府調査との比較（40～64歳）】



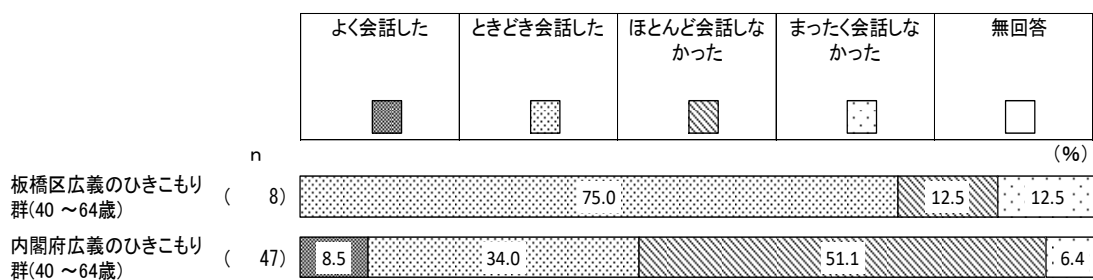
内閣府調査と比較すると、内閣府調査では15歳から64歳まで幅広い年齢層が見られたのに対し、板橋区では「40歳～44歳」（37.5%）、「35歳～39歳」「60歳～64歳」（ともに25.0%）と中高年層が高い割合を占めている。

(21) 家族以外との会話の状況



家族以外との会話の状況について、「ときどき会話した」の割合（78.6%）が最も高く、「よく会話した」「ほとんど会話しなかった」「まったく会話しなかった」はすべて（7.1%）となっている。

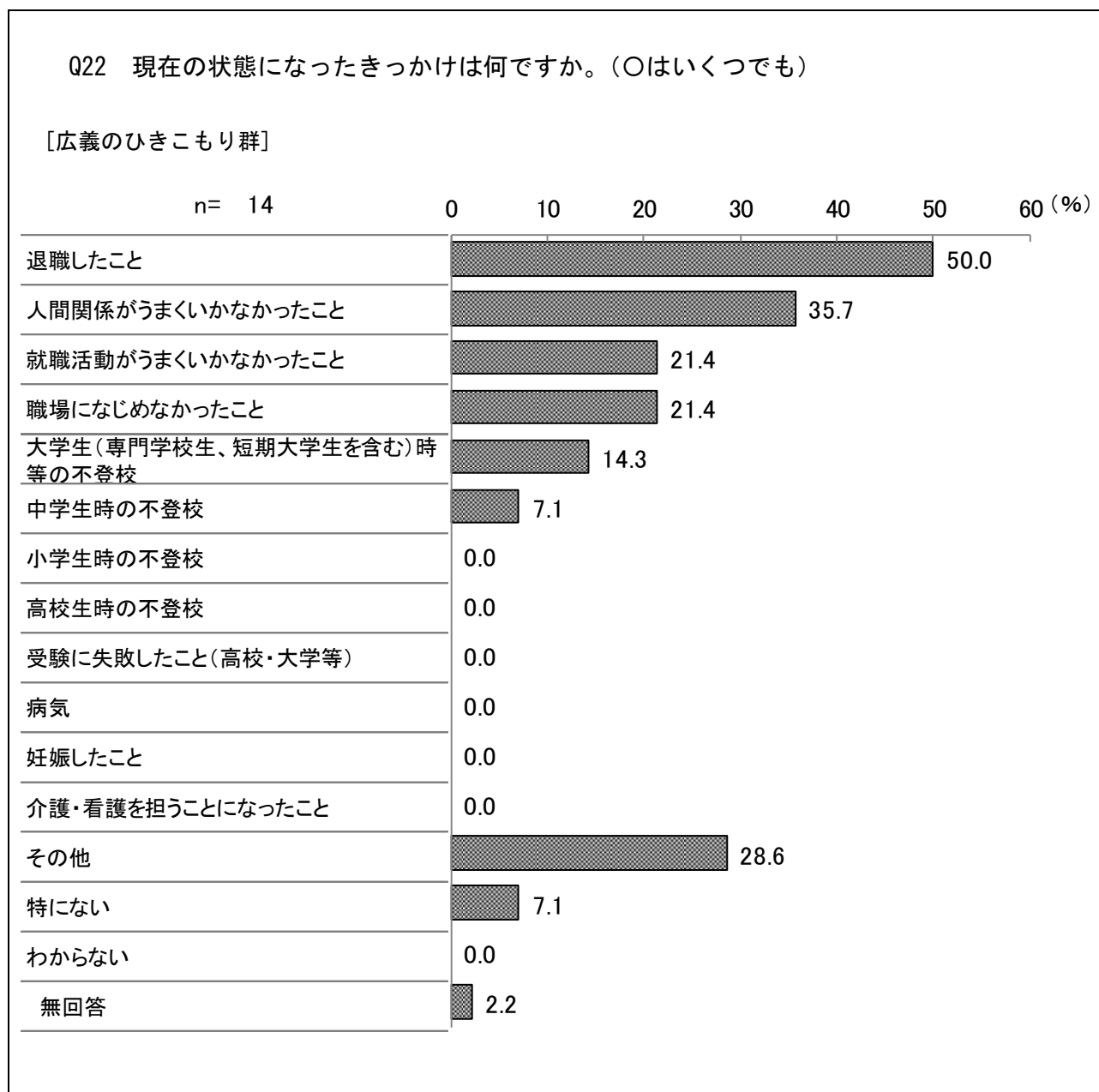
【内閣府調査との比較（40～64歳）】



内閣府調査と比較すると、板橋区は「ときどき会話した」（75.0%）、内閣府調査では「ほとんど会話しなかった」（51.1%）の割合が最も高くなっている。

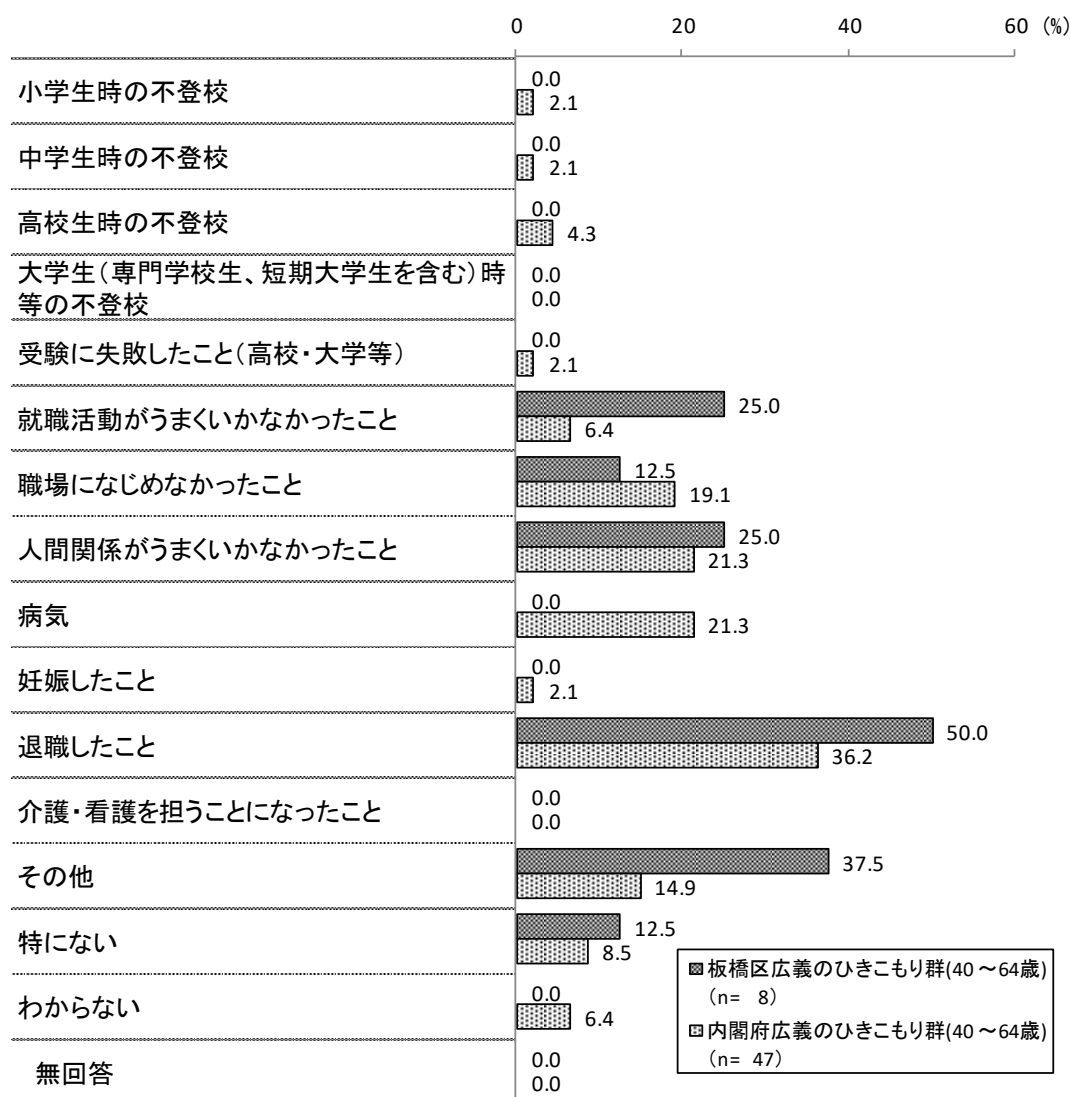
※ 内閣府調査 広義のひきこもり群（15～39歳） 設問なし

(22) ひきこもりの状態になったきっかけ



ひきこもりの状態になったきっかけについて、「その他」を除くと、「退職したこと」の割合(50.0%)が最も高く、次いで「人間関係がうまくいかなかったこと」(35.7%)、「就職活動がうまくいかなかったこと」「職場になじめなかったこと」(ともに21.4%)、「大学生(専門学校生、短期大学生を含む)時等の不登校」(14.3%)、「中学生時の不登校」「特にない」(ともに7.1%)の順となっている。

【内閣府調査との比較(40～64歳)】

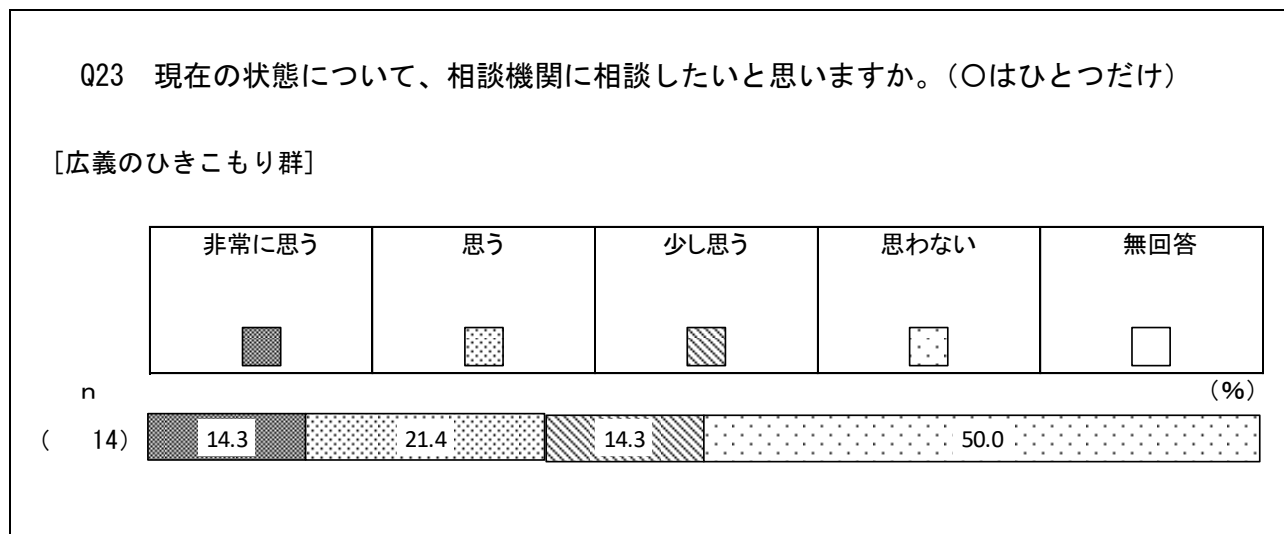


内閣府調査と比較すると、板橋区の方が「退職したこと」(50.0%)、「その他」(37.5%)、「就職活動がうまくいかなかったこと」「人間関係がうまくいかなかったこと」(ともに25.0%)の順に割合が高くなっている。

一方、内閣府調査では「退職したこと」(36.2%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」「病気」(ともに21.3%)、「職場になじめなかったこと」(19.1%)の順となっている。

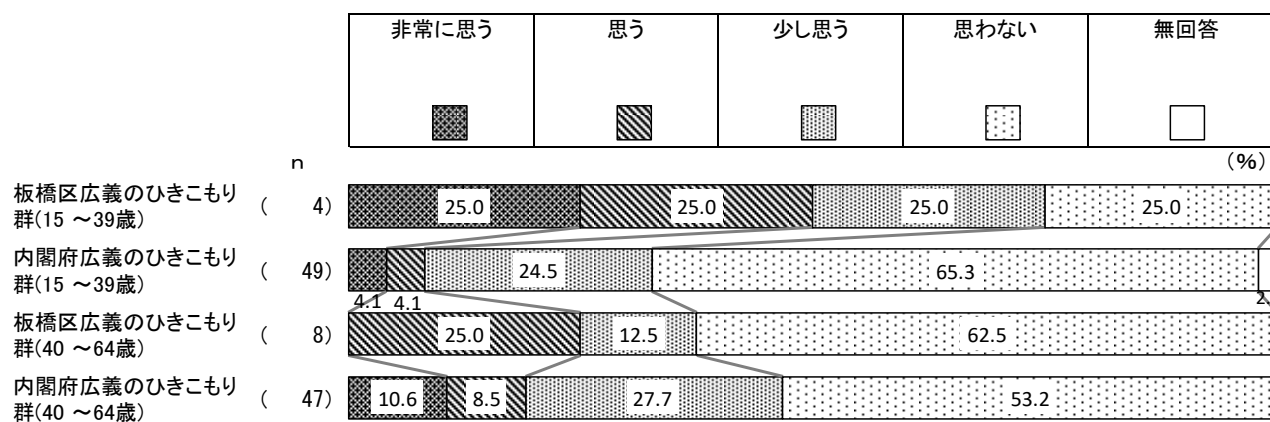
※ 内閣府調査 広義のひきこもり群(15～39歳) 設問なし

(23) ひきこもりの状態について、相談機関に相談したいか



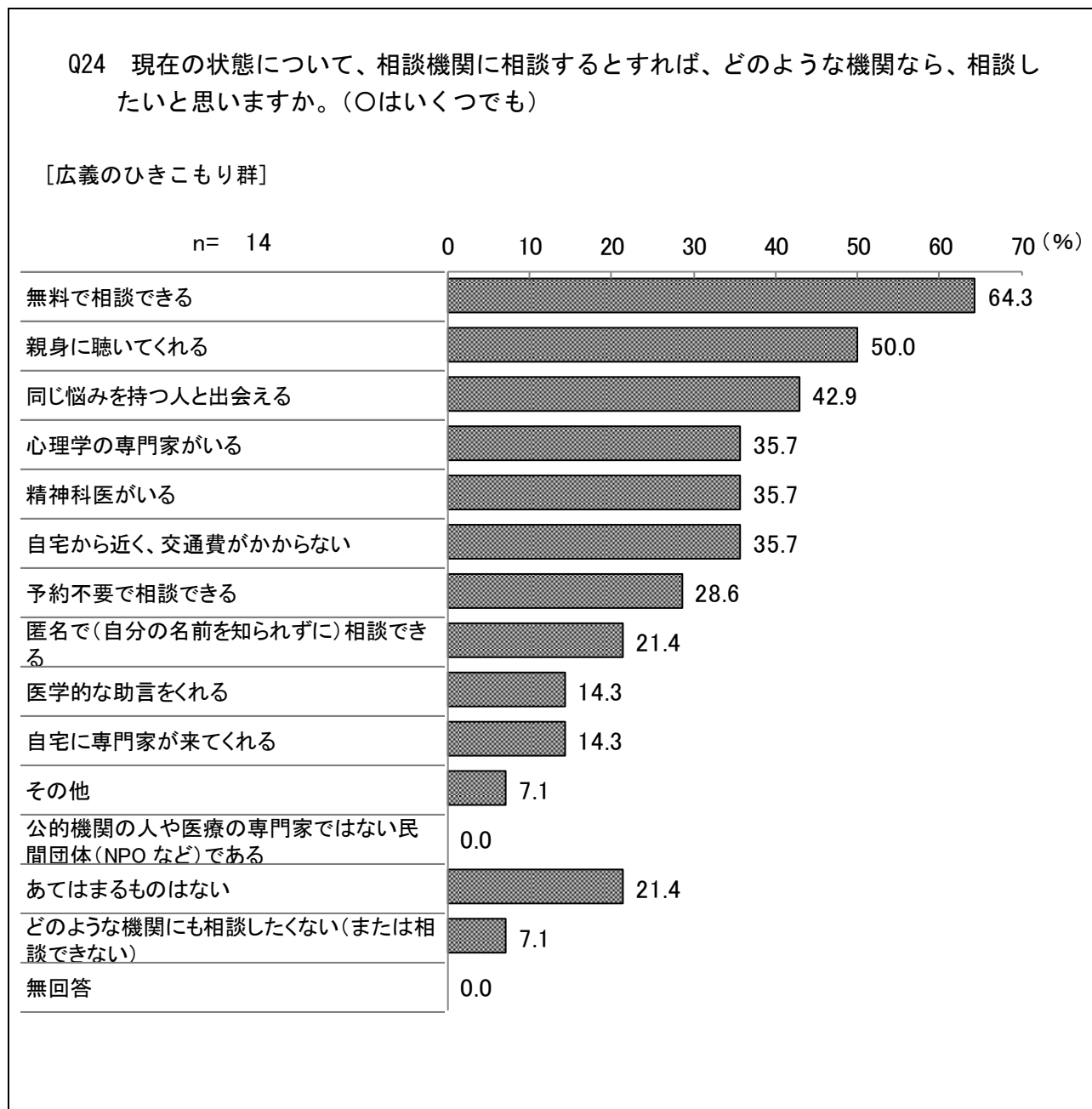
ひきこもりの状態を相談機関に相談したいかについて、「思わない」の割合が半数（50.0%）を占め、次いで「思う」（21.4%）、「非常に思う」「少し思う」（ともに14.3%）の順となっている。

【内閣府調査との比較】



内閣府調査と比較すると、「相談したいと思う（「非常に思う」「思う」「少し思う」の合計）」について、【15～39歳】は板橋区（75.0%）・内閣府調査（32.7%）と、板橋区の方が42.3ポイント高くなっているのに対し、【40～64歳】では板橋区（37.5%）・内閣府調査（46.8%）と、内閣府調査の方が9.3ポイント高くなっている。

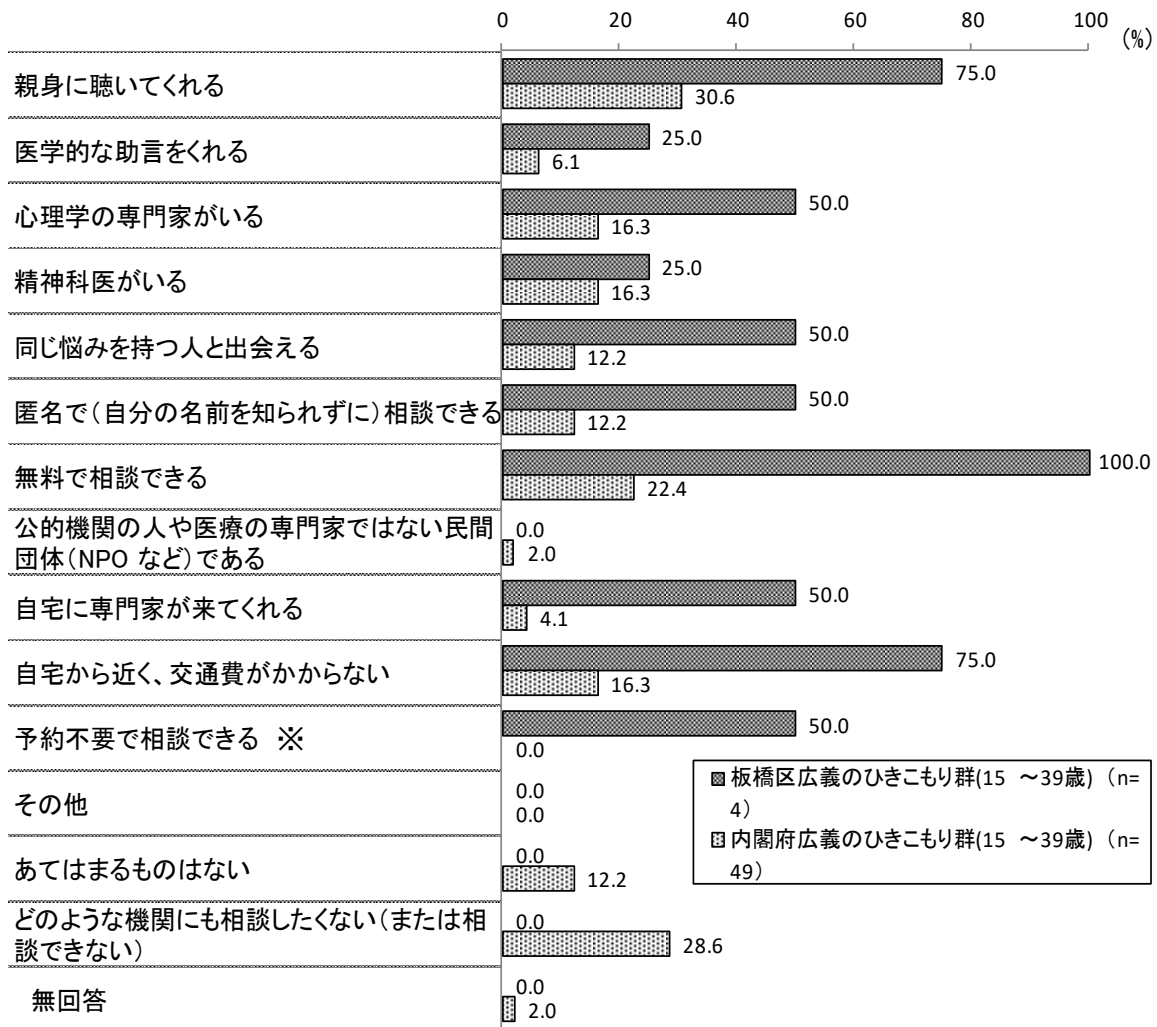
(24) ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか



ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいかについて、「無料で相談できる」の割合(64.3%)が最も高く、次いで「親身に聴いてくれる」(50.0%)、「同じ悩みを持つ人と出会える」(42.9%)、「心理学の専門家がいる」「精神科医がいる」「自宅から近く、交通費がかからない」(すべて35.7%)の順となっている。

なお、「その他」(7.1%)には、「金融機関や公的機関」「シニア個人の特性に合った親身な就職相談ができる」等の回答があった。

【内閣府調査との比較（15～39歳）】



※内閣府「匿名で相談できる」を、板橋区「匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる」

※内閣府「民間団体（NPO など）である」を、板橋区「公的機関の人や医療の専門家ではない民間団体（NPO など）である」

※内閣府「自宅から近い」を、板橋区「自宅から近く、交通費がかからない」

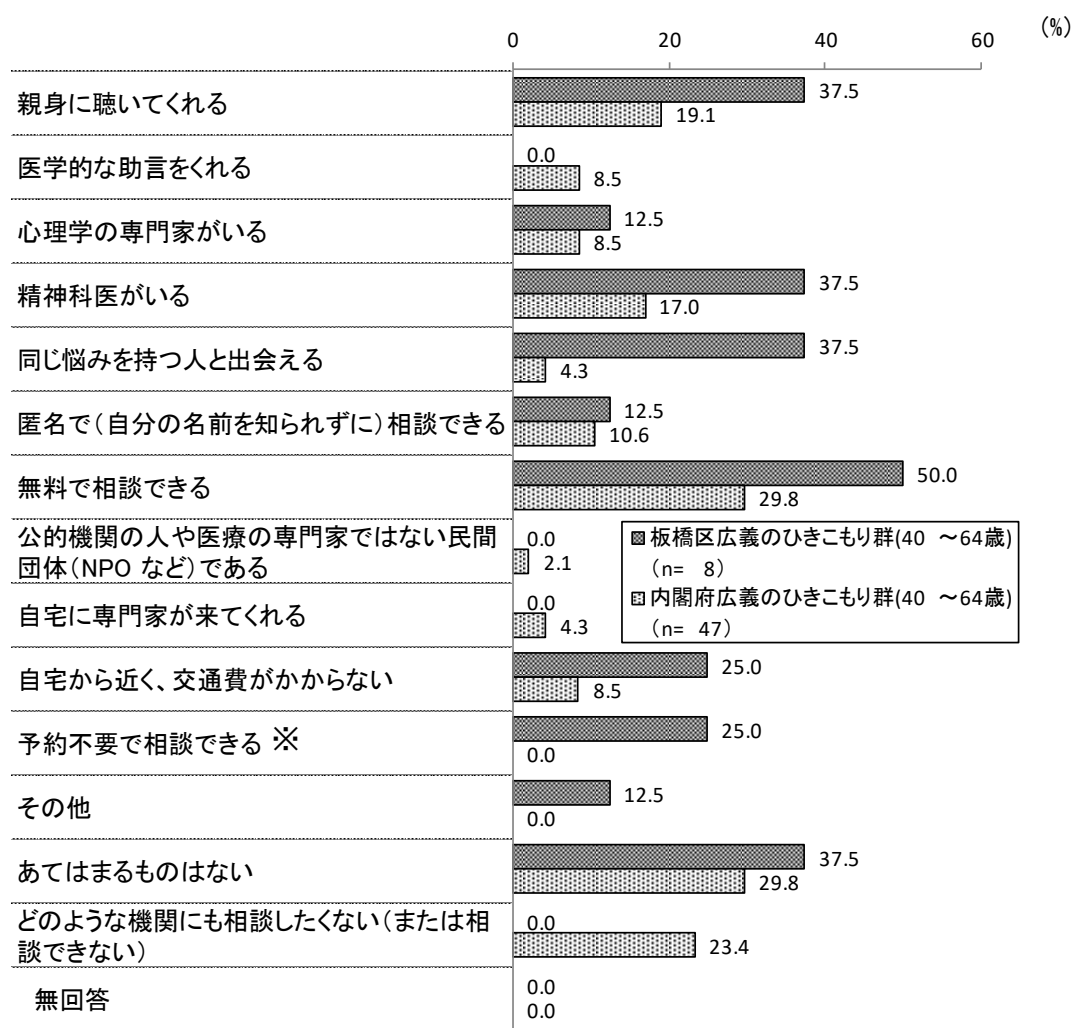
※内閣府「相談したくない」を、板橋区「どのような機関にも相談したくない（または相談できない）」

※「予約不要で相談できる」は板橋区のみ項目。

内閣府調査と比較すると、板橋区は「無料で相談できる」（100.0%）、「親身に聴いてくれる」「自宅から近く、交通費がかからない」（ともに 75.0%）、「心理学の専門家がいる」「同じ悩みを持つ人と出会える」「匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる」「自宅に専門家が来てくれる」「予約不要で相談できる」（すべて 50.0%）の順に割合が高くなっている。

対して、内閣府調査では、「親身に聴いてくれる」（30.6%）、「どのような機関にも相談したくない（または相談できない）」（28.6%）、「無料で相談できる」（22.4%）の順となっている。

【内閣府調査との比較(40～64歳)】



※内閣府「匿名で相談できる」を、板橋区「匿名で(自分の名前を知られずに)相談できる」

※内閣府「自宅から近い」を、板橋区「自宅から近く、交通費がかからない」

※内閣府「どのような機関にも相談したくない」を、板橋区「どのような機関にも相談したくない(または相談できない)」

※「予約不要で相談できる」は板橋区だけの項目。

内閣府調査と比較すると、板橋区は「無料で相談できる」(50.0%)、「親身に聴いてくれる」「精神科医がいる」「同じ悩みを持つ人と出会える」「あてはまるものはない」(すべて37.5%)、「自宅から近く、交通費がかからない」「予約不要で相談できる」(ともに25.0%)の順に割合が高くなっている。

対して、内閣府調査では「無料で相談できる」「あてはまるものはない」(ともに29.8%)、「どのような機関にも相談したくない(または相談できない)」(23.4%)、「親身に聴いてくれる」(19.1%)の順となっている。

(25) 相談したくない理由

※ Q25 は、Q24 において「どのような機関にも相談したくない（または相談できない）」を選択した者のみが回答する項目となっている。

Q25 相談したくない（または相談できない）と思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

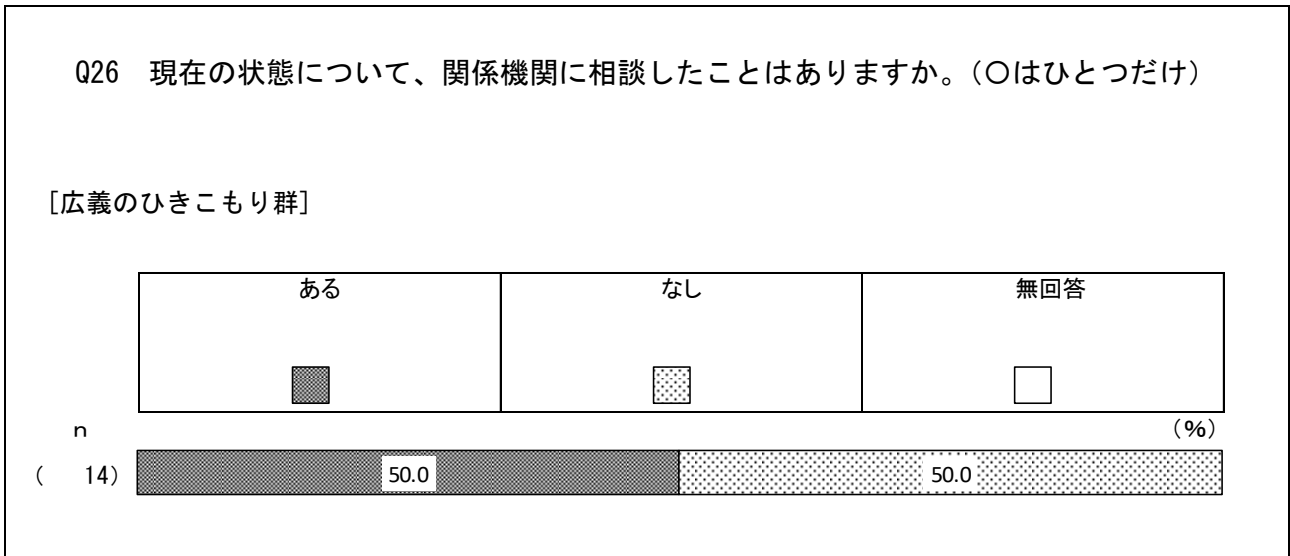
[広義のひきこもり群]



相談したくない理由について、「特になし、相談することがない」(100.0%)であった。

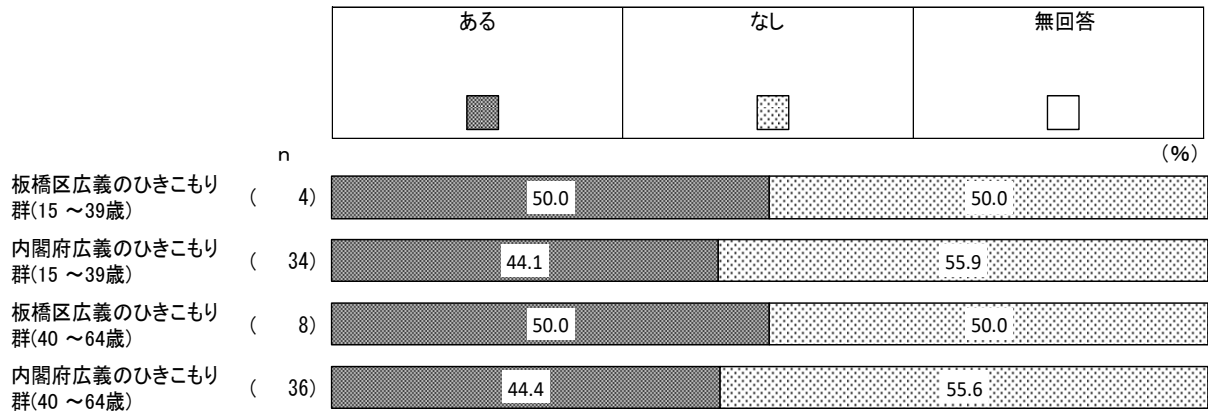
※ n（回答者）= 1 のため、内閣府調査との比較なし。

(26) 関係機関に相談した経験



関係機関に相談した経験について、「ある」と「なし」は半々（50.0%）であった。

【内閣府調査との比較】



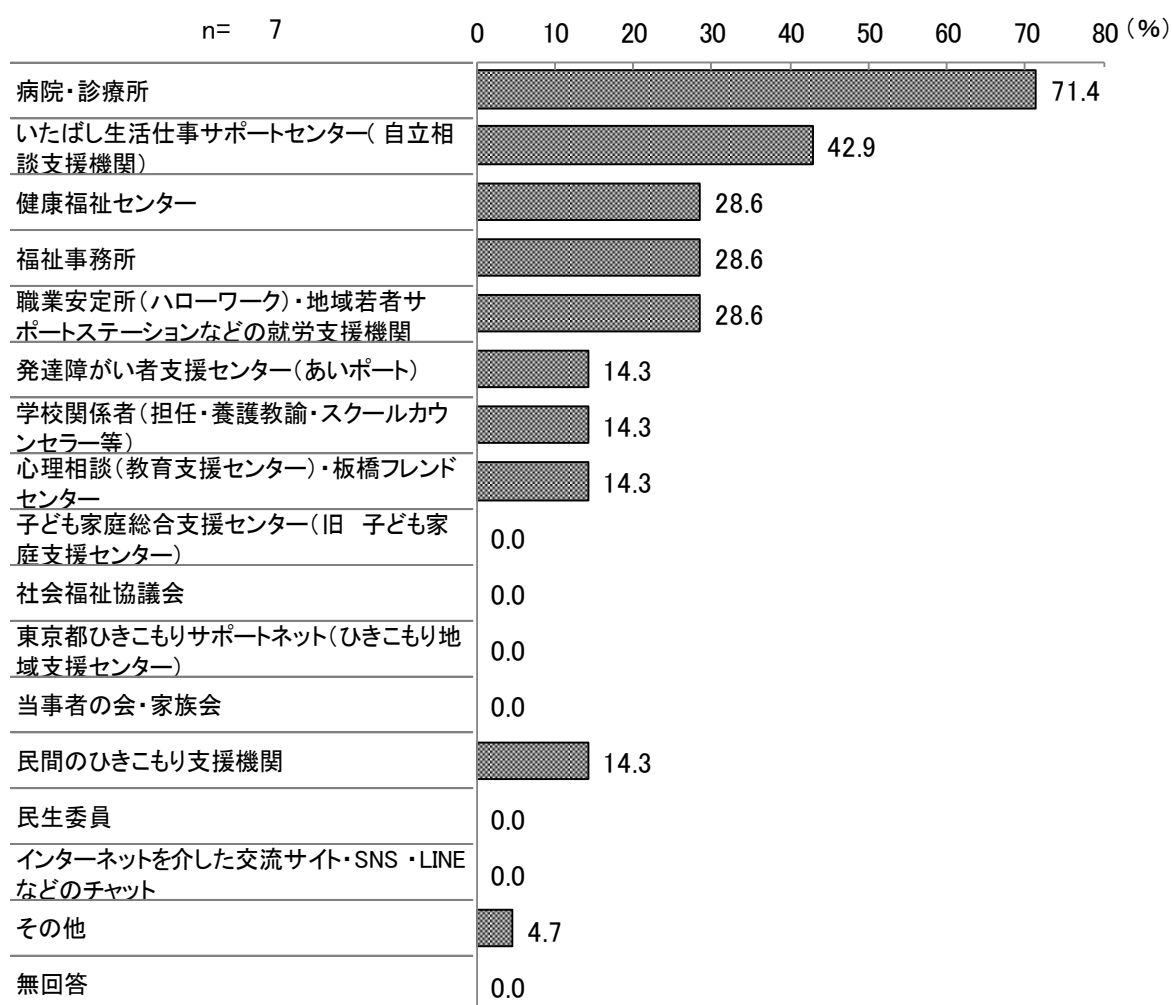
内閣府調査と比較すると、「ある」について、【15～39歳】は、板橋区（50.0%）・内閣府調査（44.1%）で、板橋区の方が高い割合となっている。また、【40～64歳】も、板橋区（50.0%）・内閣府調査（44.4%）で、板橋区の方が高い割合となっている。

(27) 相談した機関

※ Q27 は、Q26（現在の状況について関係機関に相談した経験）において「ある」を選択した者のみが回答する項目となっている。

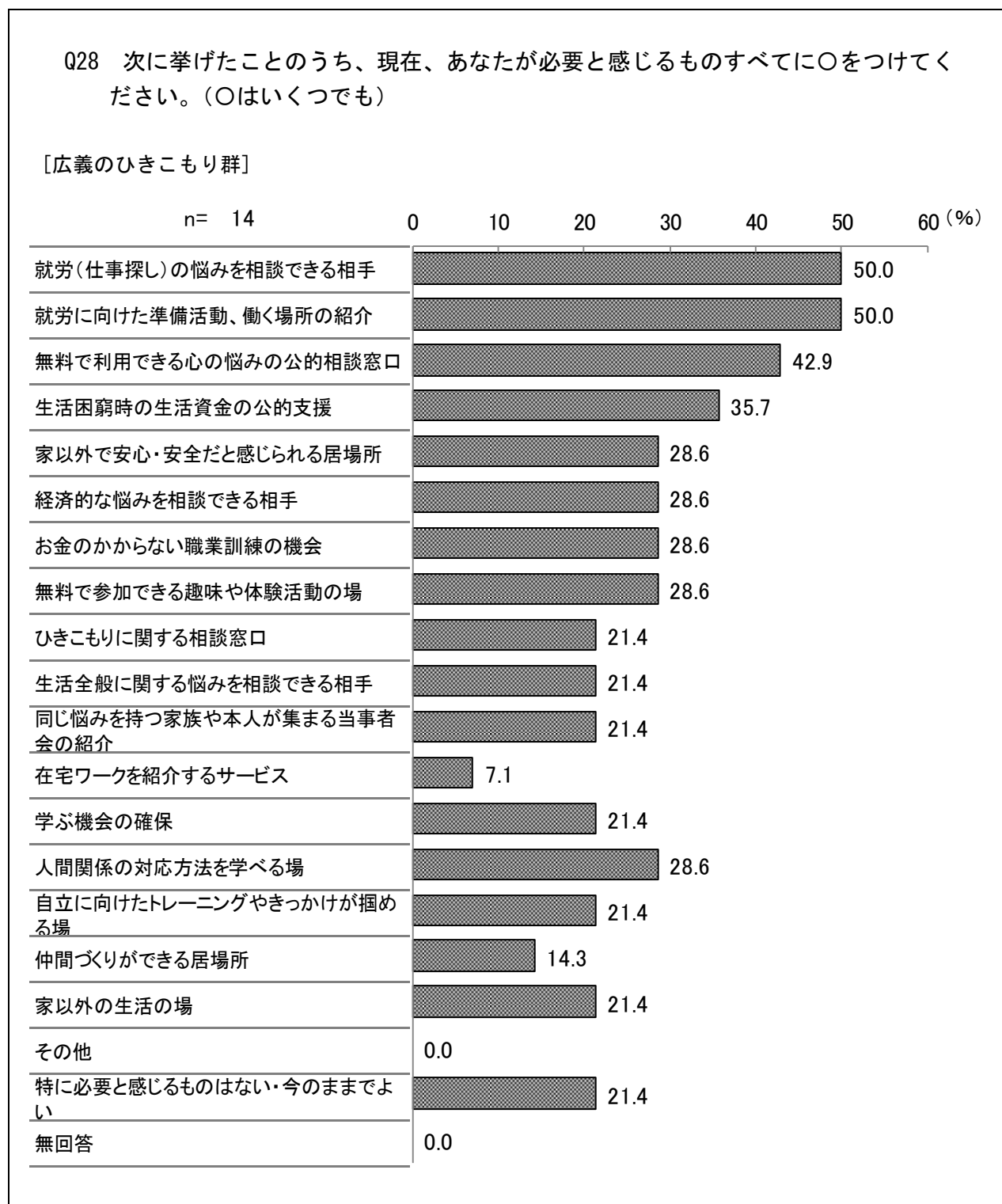
Q27 どのような相談機関等に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。（○はいくつでも）

[広義のひきこもり群]



相談した機関について、「病院・診療所」の割合(71.4%)が最も高く、次いで「いたばし生活仕事サポートセンター(自立相談支援機関)」(42.9%)、「健康福祉センター」「福祉事務所」「職業安定所(ハローワーク)・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」(すべて28.6%)の順となっている。

(28) 現在、必要と感ずるもの

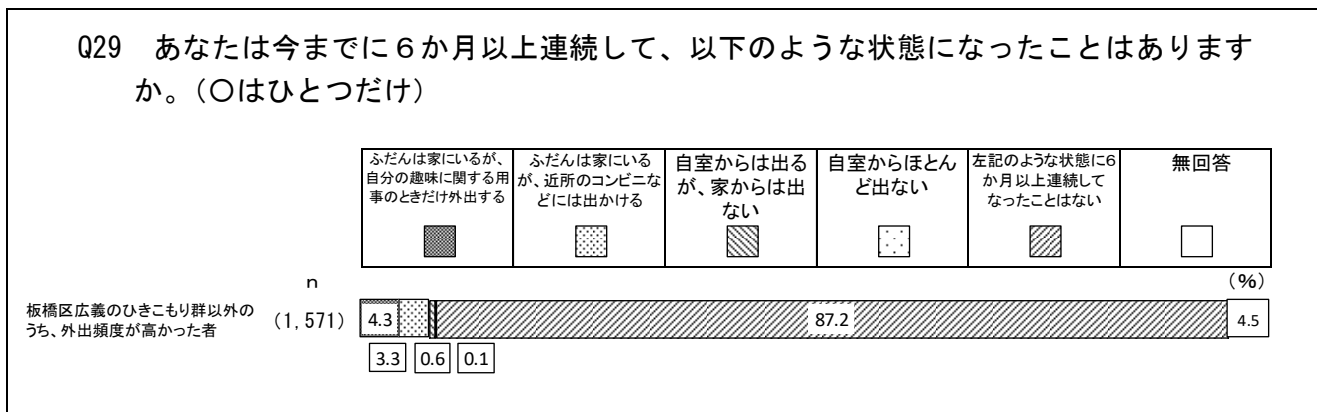


現在、必要と感ずるものについて、「就労（仕事探し）の悩みを相談できる相手」「就労に向けた準備活動、働く場所の紹介」の割合（ともに 50.0%）が最も高く、次いで「無料で利用できる心の悩みの公的相談窓口」（42.9%）、「生活困窮時の生活資金の公的支援」（35.7%）の順となっている。

※ Q29 は、Q18（ふだんの外出頻度）において外出頻度が高かった者（「仕事や学校で平日は毎日外出する」「仕事や学校で週に3～4日外出する」「遊び等で頻繁に外出する」「人づきあいのためにとどき外出する」を選択した者）のみが回答する項目となっている。

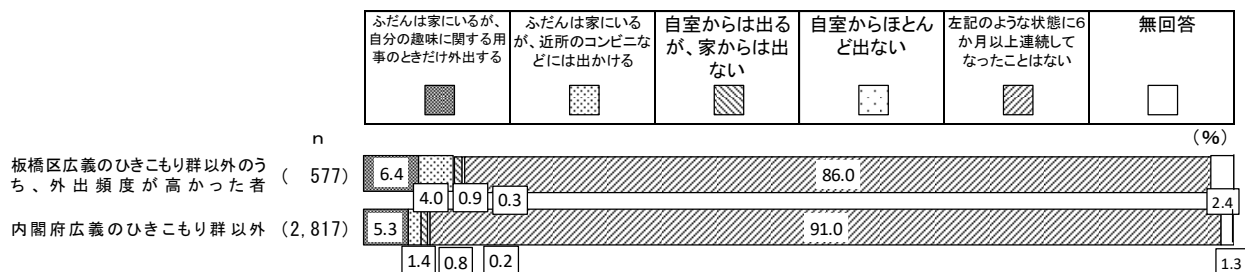
※ Q29 の設問は、「過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群」を定義するために使用した。

(29) 過去の外出頻度



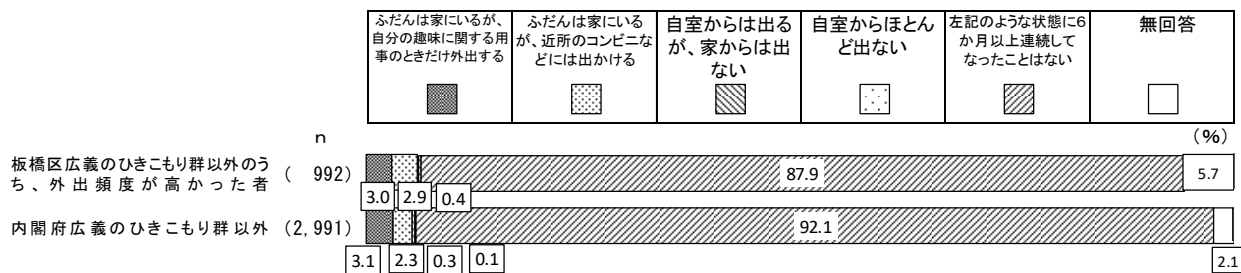
過去の外出頻度について、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」(4.3%)、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」(3.3%)となっている。一方、「左記のような状態に6か月以上連続してなったことはない」(87.2%)となっている。

【内閣府調査との比較(15～39歳)】



「左記のような状態に6か月以上連続してなったことはない」は板橋区(86.0%)、内閣府(91.0%)となっている。

【内閣府調査との比較(40～64歳)】

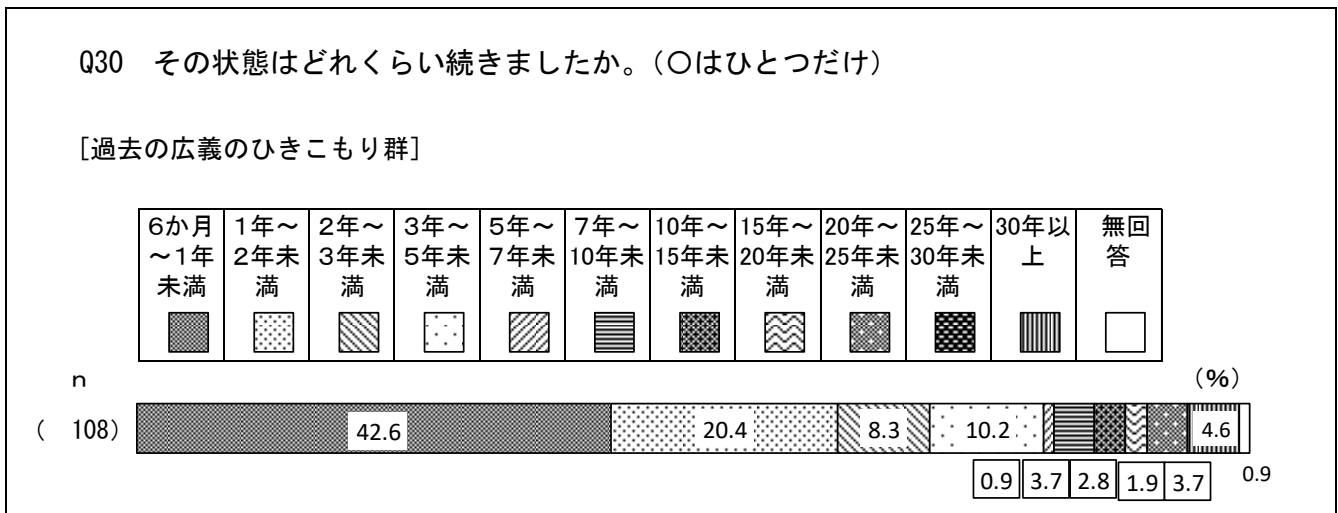


「左記のような状態に6か月以上連続してなったことはない」は板橋区(87.9%)、内閣府(92.1%)となっている。

※ Q30～Q33 は、Q18（ふだんの外出頻度）において外出頻度が高かった者で、かつ、Q29（過去の外出頻度）において、外出頻度が低かった者（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」を選択した者）のみが回答する項目となっている。

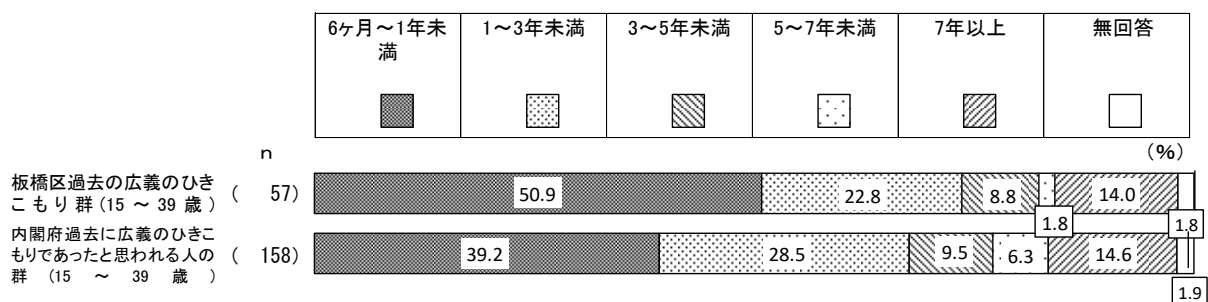
本報告書では、その中でも「過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群」に該当する者の結果について記載する。

(30) 過去にひきこもりの状態だった期間



過去にひきこもりの状態だった期間について、「6か月～1年未満」の割合(42.6%)が最も高く、次いで「1年～2年未満」(20.4%)、「3年～5年未満」(10.2%)の順となっている。

【内閣府調査との比較(15～39歳)】

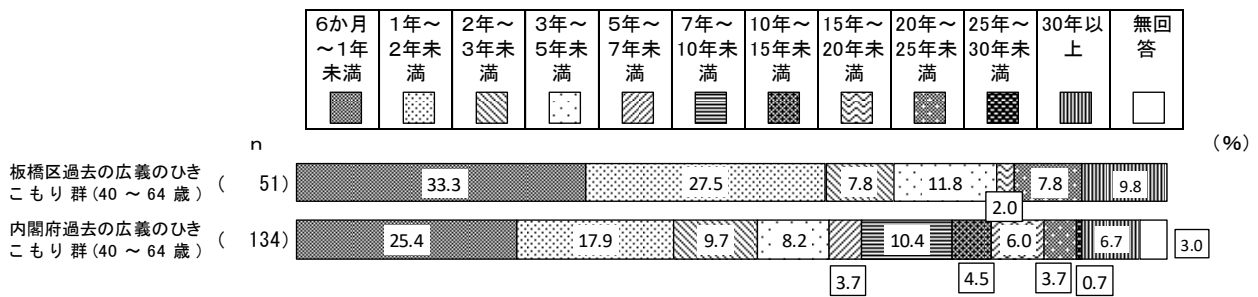


※内閣府調査「1～3年」＝板橋区「1～2年未満」「2～3年未満」

※内閣府調査「7年以上」＝板橋区「7～10年未満」「10～15年未満」「15～20年未満」「20～25年未満」「25～30年未満」「30年以上」

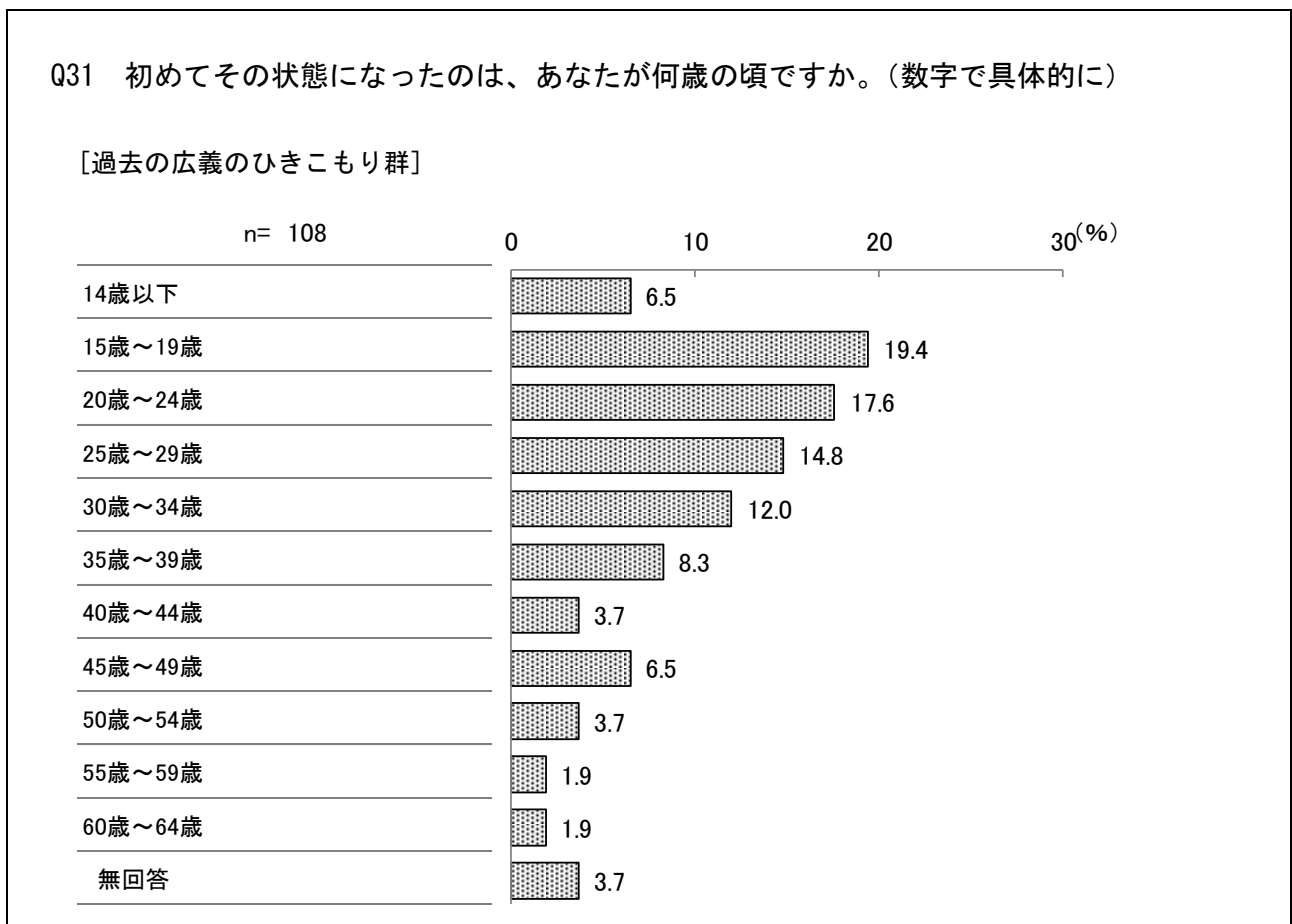
内閣府調査と比較すると、「6か月～1年未満」は板橋区(50.9%)・内閣府調査(39.2%)と板橋区の方が高い割合となっている。

【内閣府調査との比較(40～64歳)】



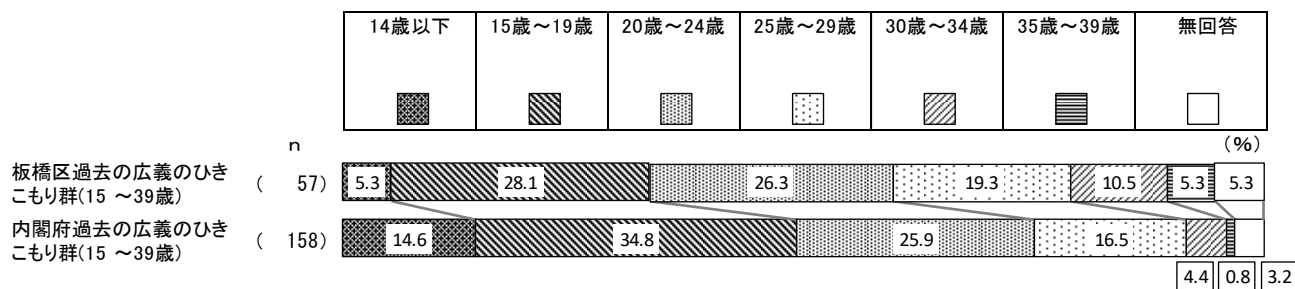
内閣府調査と比較すると、「6か月～1年未満」は板橋区(33.3%)・内閣府調査(25.4%)、「1年～2年未満」は板橋区(27.5%)・内閣府調査(17.9%)と、いずれも板橋区の方が高い割合となっている。

(31) 過去に初めてひきこもりの状態になった年齢



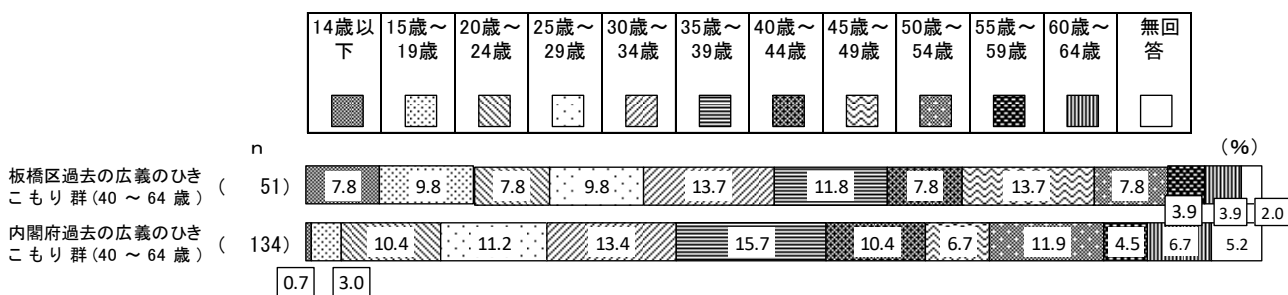
過去に初めてひきこもりの状態になった年齢について、「15歳～19歳」の割合(19.4%)が最も高く、次いで「20歳～24歳」(17.6%)、「25歳～29歳」(14.8%)の順となっている。

【内閣府調査との比較（15～39歳）】



内閣府調査と比較すると、どちらも「15歳～19歳」が最も高い割合となっており、板橋区(28.1%)・内閣府調査(34.8%)と、内閣府調査の方が高くなっている。

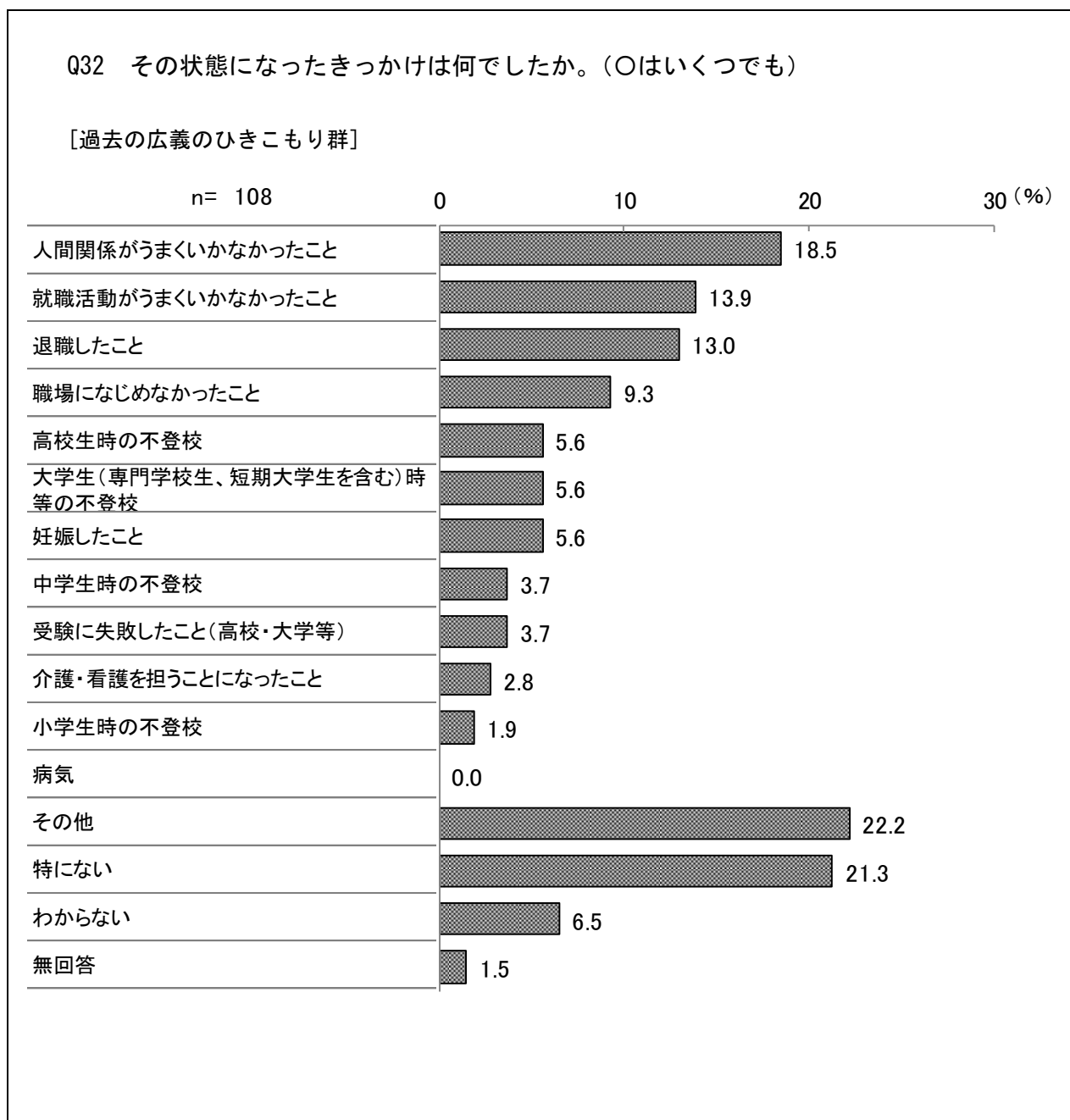
【内閣府調査との比較（40～64歳）】



内閣府調査と比較すると、年代別では10代以下[板橋区(17.6%)・内閣府調査(3.7%)]と40代[板橋区(21.5%)・内閣府調査(17.1%)]は、板橋区の割合の方が高くなっている。

一方、20代[板橋区(17.6%)・内閣府調査(21.6%)]と30代[板橋区(25.5%)・内閣府調査(29.1%)]50代[板橋区(11.7%)・内閣府調査(16.4%)]は、内閣府調査の方が高くなっている。

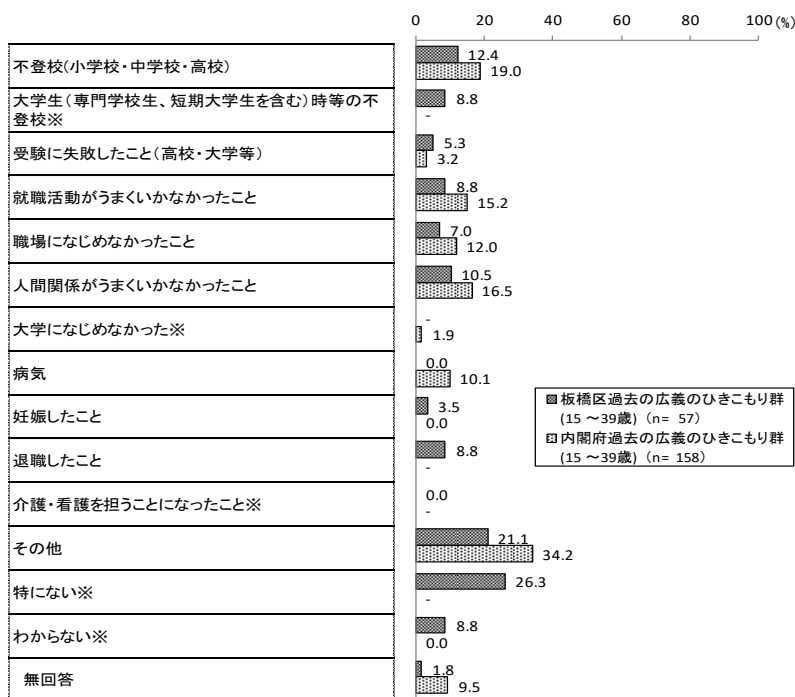
(32) 過去にひきこもりの状態になったきっかけ



過去にひきこもりの状態になったきっかけについて、「その他」「特にない」を除くと、「人間関係がうまくいかなかったこと」の割合(18.5%)が最も高く、次いで「就職活動がうまくいかなかったこと」(13.9%)、「退職したこと」(13.0%)の順となっている。

また、「その他」の割合(22.2%)では、「コロナウイルスの影響」「受験時のストレス」「長時間労働」等の意見があげられた。

【内閣府調査との比較（15～39 歳）】



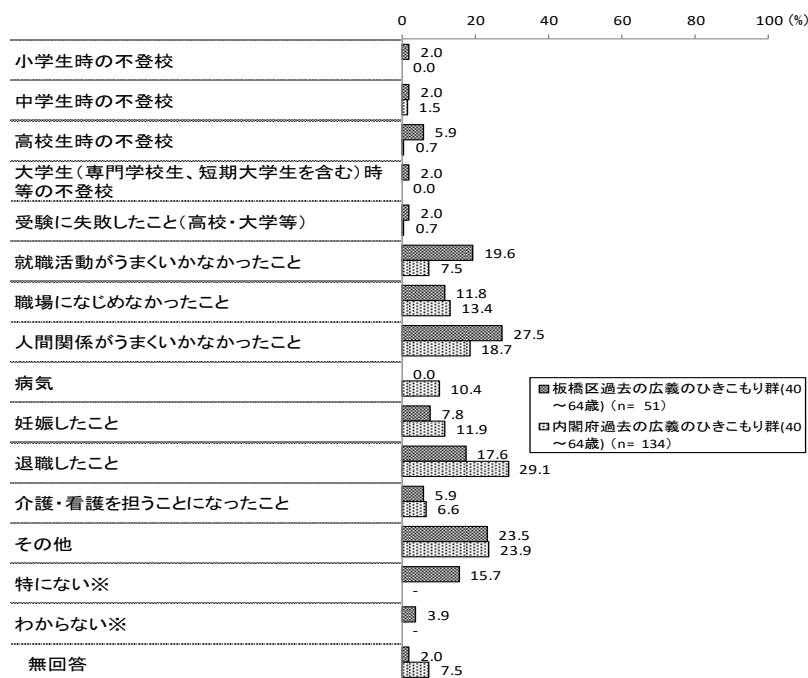
※ 内閣府「不登校（小学校・中学校・高校）」を、板橋区「小学生時の不登校」「中学生時の不登校」「高校生時の不登校」

※「大学になじめなかった」は、内閣府調査のみの項目。

※「大学生（専門学校生、短期大学生を含む）時等の不登校」「介護・看護を担うことになったこと」「特にない」「わからない」は、板橋区のみ項目。

内閣府調査と比較すると、「その他」を除くと、板橋区は「不登校」（12.4%）、「人間関係がうまくいかなかったこと」（10.5%）、「就職活動がうまくいかなかったこと」「退職したこと」（ともに8.8%）に対し、内閣府調査では「不登校」（19.0%）、「人間関係がうまくいかなかったこと」（16.5%）、「就職活動がうまくいかなかったこと」（15.2%）の順に割合が高くなっている。

【内閣府調査との比較（40～64 歳）】



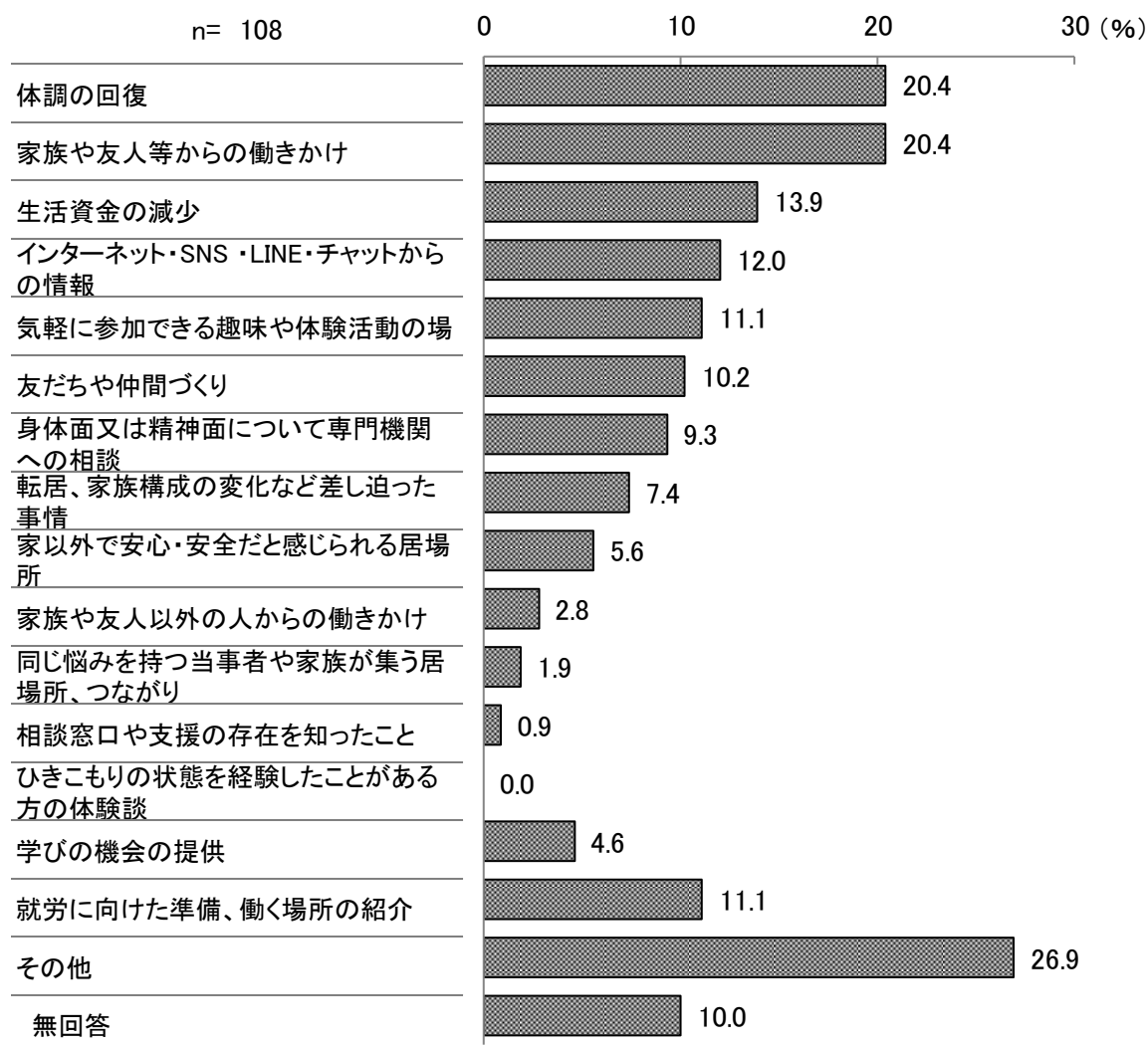
※「特にない」「わからない」は、板橋区のみ項目。

内閣府調査と比較すると、「その他」を除くと、板橋区は「人間関係がうまくいかなかったこと」（27.5%）、「就職活動がうまくいかなかったこと」（19.6%）、「退職したこと」（17.6%）に対し、内閣府調査では「退職したこと」（29.1%）、「人間関係がうまくいかなかったこと」（18.7%）、「職場になじめなかったこと」（13.4%）の順に割合が高くなっている。

(33) ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったこと

Q33 その状態から、Q18で回答した現在の状態（外出状況）になったきっかけや役立ったことは何ですか。あてはまるものすべてに○をしてください。（○はいくつでも）

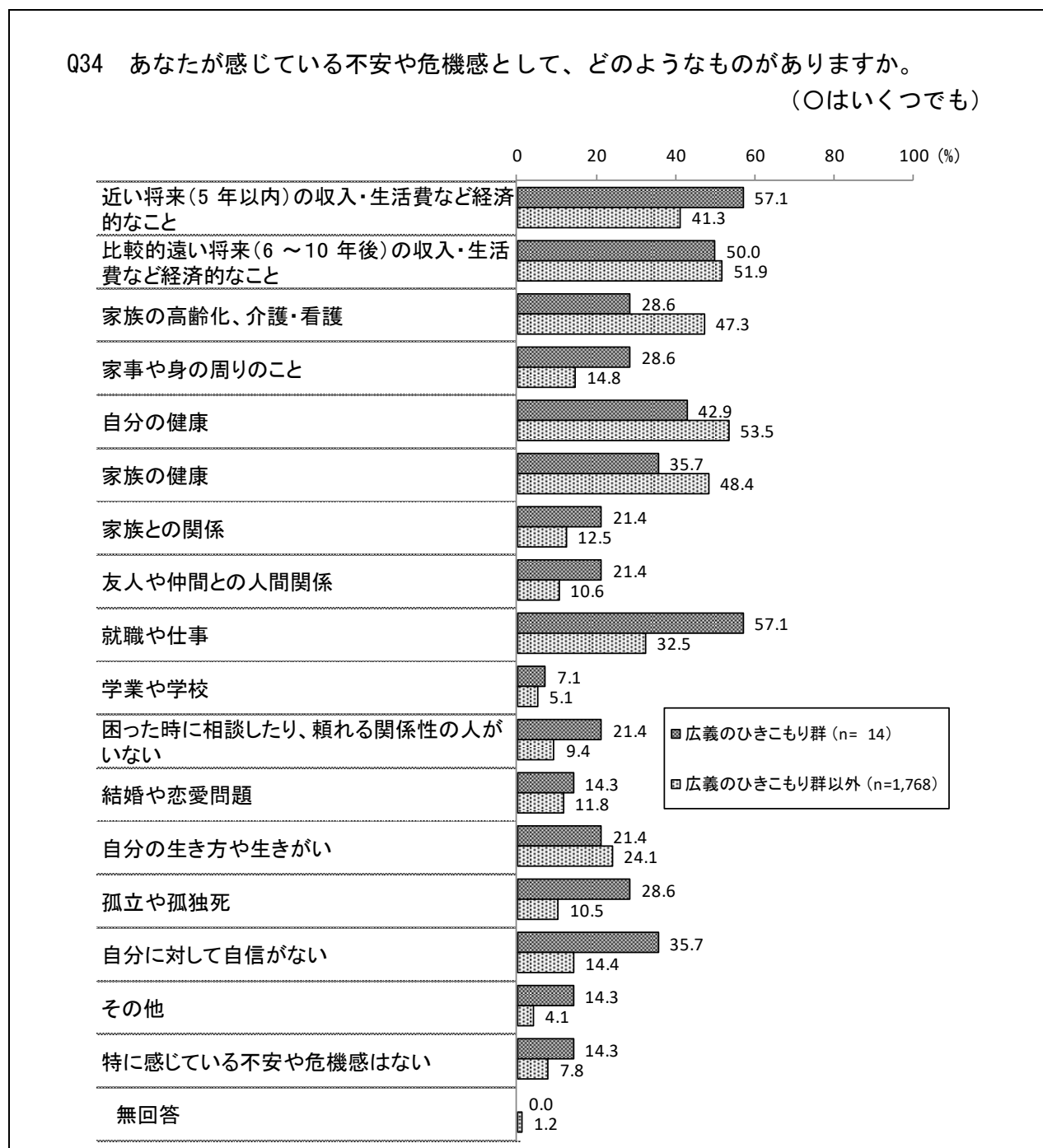
[過去の広義のひきこもり群]



ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったことについて、「その他」を除くと、「体調の回復」「家族や友人等からの働きかけ」の割合（ともに20.4%）が最も高く、次いで「生活資金の減少」（13.9%）、「インターネット・SNS・LINE・チャットからの情報」（12.0%）の順となっている。

また、「その他」では「子供が産まれて、子供を通して社会と関わるようになった」「趣味の為の資金作り」「仕事の環境を変えた」等の意見があげられた。

(34) 感じている危機感や不安なこと



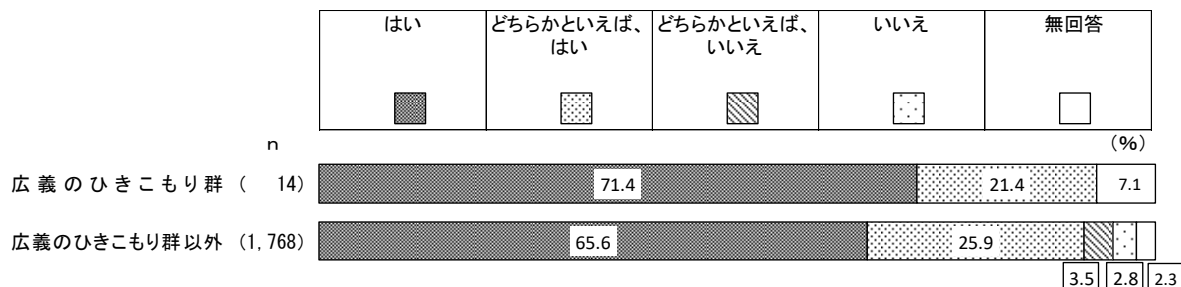
感じている危機感や不安なことについて、広義のひきこもり群は、「近い将来(5年以内)の収入・生活費など経済的なこと」「就職や仕事」の割合(ともに57.1%)が最も高く、次いで「比較的遠い将来(6～10年後)の収入・生活費など経済的なこと」(50.0%)、「自分の健康」(42.9%)の順となっている。

一方、広義のひきこもり群以外では「自分の健康」(53.5%)、「比較的遠い将来(6～10年後)の収入・生活費など経済的なこと」(51.9%)、「家族の健康」(48.4%)の順となっている。

(35) ひきこもりの社会的支援について

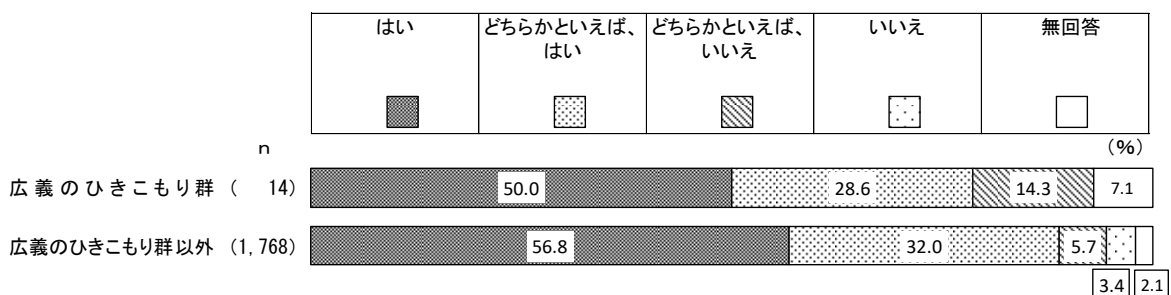
Q35 ひきこもりの社会的支援について、あなたの考えに近いものに○をしてください。
 (○はそれぞれにひとつずつ)

1 「ひきこもり」の社会的支援には、相談しやすい窓口や身近な場が必要だと思う。



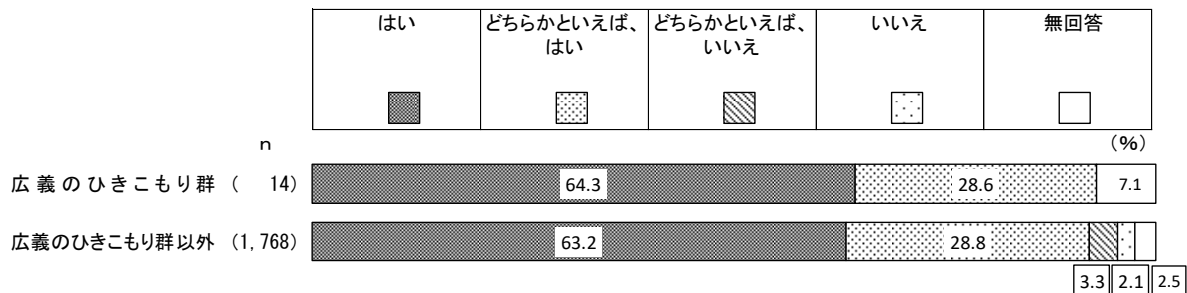
「はい」と回答した割合は、広義のひきこもり群 (71.4%)・広義のひきこもり群以外 (65.6%)と、広義のひきこもり群の方が高くなっている。

2 「ひきこもり」の人や家族が、孤立しないような地域社会とのつながりが必要である。



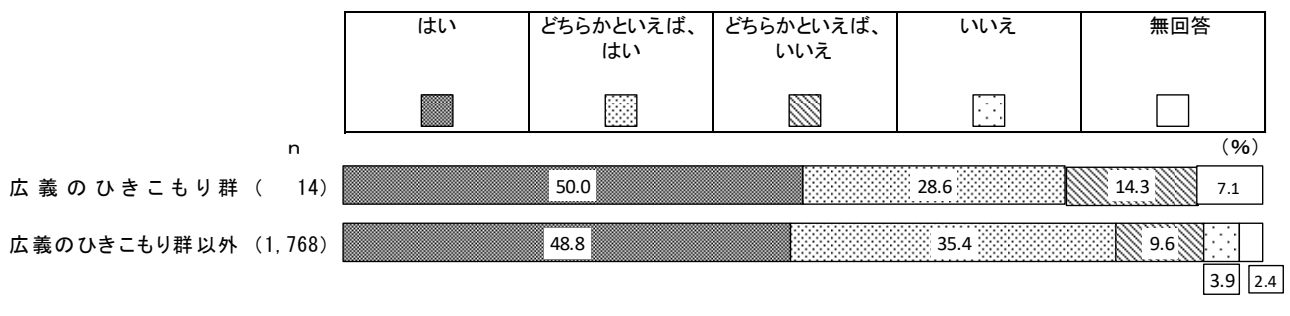
広義のひきこもり群は、「はい」「どちらかといえば、はい」の合計割合 (78.6%)・「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」の合計割合 (14.3%)であるのに対し、広義のひきこもり群以外では「はい」「どちらかといえば、はい」の合計割合 (88.8%)・「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」の合計割合 (9.1%)となっている。

3 不登校から「ひきこもり」へつながらないために、子ども・若者への支援が必要である。



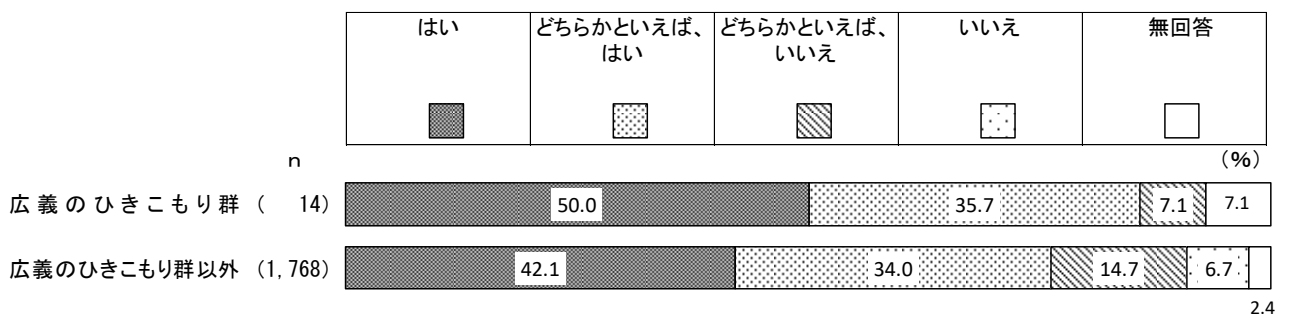
いずれの群も「はい」が最も高く、次いで「どちらかといえば、はい」の順となっている。また、広義のひきこもり群は「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」と選択した者はいなかった。

4 「ひきこもり」の社会的支援には、保健・医療面からの支援が必要である。



広義のひきこもり群は、「はい」「どちらかといえば、はい」の合計割合（78.6%）・「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」の合計割合（14.3%）であるのに対し、広義のひきこもり群以外では「はい」「どちらかといえば、はい」の合計割合（84.2%）・「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」の合計割合（13.5%）となっている。

5 「ひきこもり」の社会的支援には、生活面（収入・日常生活）からの支援が必要である。



広義のひきこもり群は、「はい」「どちらかといえば、はい」の合計割合（85.7%）・「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」の合計割合（7.1%）であるのに対し、広義のひきこもり群以外では「はい」「どちらかといえば、はい」の合計割合（76.1%）・「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」の合計割合（21.4%）となっている。

(36) 支援のあり方についての意見

Q36 現在、板橋区では、身体の病気以外の理由で、ふだん外出ができない方たちへの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば自由にお書きください。

※以下では回答の一部を抜粋し、ひきこもりの経験や内容別に分類した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

【広義のひきこもり群】

《居場所》

・私と致しましては、個々人の価値観の問題が大いにあると確信しており、特に読書は、スマートフォン等の電子、磁気を介さない場所で、なるべく自然豊富の公共場で過ごしたく存じます。良好な図書館や、手足の伸ばせる施設等で、自己研鑽、自己啓発を出来る所の提供を望みたく存じます。

【過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群】

《居場所・コミュニティ》

・精神的に追いつめられていると、思考が働かなくなってしまうので本人からのアクションを待つのではなく、積極的にコミュニケーションを取るよう動いたほうが良いと思う（もちろん全ての人に当てはまる訳ではないが）信頼できる人ができ、話をきいてもらう事によって色々な気付きを得たり立ち直るきっかけにつながる場合もあるので。

・税金を使わない範囲でやってほしい。そもそも、ひきこもりは、ひきこまれる環境があるからできる事で、生活面ではとてもめぐまれていると思います。支援であれば、知り合いが、ひきこもりの子に仕事先を紹介するような団体の設立をすすめています。（高齢者の手助けなどを不登校の子がするといったような内容）相談窓口より、コミュニティがとれる場所を提供するだけでいいと思います。

・同じような症状の方たち同士で過ごせる場を設ける。型に当てはめたり、世間一般的な考えを押し付けるのではなく、個人個人の悩みに寄り添った対応をする。

・いきなり昼間に外出するのは気持ちのハードルが高いので、夜に散策する等、人目がなるべく気にならない状況を作ることができれば参加しやすいと思う。

《社会的理解・認知》

・ひきこもりに縁のない人々であっても、問題を抱えていないと自負する人であっても、温かい目で見守る人々が、増えるといいと思う。

《家族等への相談支援》

・「ひきこもり」をしている本人のケアも大切だがそうになってしまうのはやはり親の影響が大きいと思います。その家族へのカウンセリングなど根本を変えないと同じことがくり返されます。児童相談の権限を強くし、＜親と子の引きはなし＞カウンセラーを増やすべきだと思います。

《社会参加・体験・人的交流》

- ・大学で不登校に近く、学校に行けない時期がありました。その経験から、人との繋がりや自分の立場が明確に存在すれば多少のプラスになるかと考えました。
- ・メールやラインとかで定期的に交流する
- ・そういった支援が必要な方にもできる事はあって支援される側がそれで終わらず支援する側に時としてなれば、自分でもできることがあると思えるのになと思う。
- ・こども食堂、保育園の清掃、小学校の登下校のみまもり等、簡単な仕事を手伝って、だれかの役に立っている、生きる意味・目的を見つけられるとよいと思う。（仕事、作業を安全に遂行できるようフォローする）人との交流が1番大切だと考えます。（人との会話がよい）
- ・ひきこもりを尊重し、引きこもった環境で社会参加、何かしらの活動ができる仕組み作りは役に立つとおもう。リモートワーク、インターネット上の活動等
- ・リモートの活用や3D、VRを用いての擬似旅行・擬似体験など在宅ででき、且つ興味関心を結び付けられるような試みがあれば良いかと。
- ・役割としての機会を与えるなど。外に出なくても、対面機会が最小でもできる仕事はあります。

《就労支援》

- ・気軽に働いたり離脱できたりできる働き口があると良いと思います。

《若年層・教育分野への支援》

- ・若年者の場合、「家族」の理解と負担軽減を熱くなりすぎない程度にサポートして欲しい。当人の気持ちに行政が関わることは難しい。
- ・とても良い事に感じるが、未来ある若者（定義上何才かは分からないが）を中心とした支援であって欲しい。行政も家庭も収入は限られているので。
- ・教育の抜本的改革が必要。現在の社会（ダイバーシティ）と義務教育が違ってきていると感じる。

《自己肯定感の回復》

- ・将来への不安や自信の無さ、他者と自分への憤り等がぐちゃぐちゃになっていることもあると思うので、上からではなく、まずはその人が自分を認められるようになる助けをしてくれればと思います。
- ・ぬくもりによって安心感を与える、自尊心を回復させる、ハードルの低い働くことへの動機づけ

《その他》

- ・レジャーマップ、公共施設の説明と場所が載ってる冊子の配布。
- ・仕事を紹介し、一定の収入を与えられる制度が必要
- ・対象の人が安心して相談に来れる様な、支援があったらいいと思います。
- ・給付金手当ての検討

- ・悪用されないように制度を検討していただきたい。
- ・大学進学を機に上京し、鬱病で1人苦しむ期間があった身としては区がそのような支援を検討してくださっていることを非常に頼もしく、嬉しく思います。外出ができない人は自ら行動を起こすこと自体がとても難しいので、出来ればなるべく本人が積極的に動く必要がなく、支援を受けることができる仕組みであると嬉しいです。
- ・その人宛に簡単な課題(クイズやパズル)を送ってみる。
- ・コロナワクチン接種の後遺症から日常生活ができなくなった息子にも医療や国からの支援が必要です。彼の生活が接種前の時までの生活に戻るまで支援してほしいです。病院も精神的なものにあやふやにしないでなんとか関連病院へ紹介してほしいです。学校に行けなかった1年間をもう一度義務教育期間を延ばしてでも学ばせてもらいたいです。

【「広義のひきこもり群」・「過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群」 以外】

《居場所・コミュニティ》

- ・そういう状態の方々が自由に気晴らししたり自由に過せる場を作る。又はその方々のできること（能力や趣味）を伸ばせるような支援をする。
- ・自身が不登校の時はフリースクールに通い、比較的自分のペースに近い形で復帰できたので孤独を感じた時、時差なく通える居場所や行き先が、自宅以外にもあると思えると良い。似た境遇の人が他にもたくさんいることを実感できるだけで良い。

《就労支援》

- ・在宅での就労支援
- ・就職サポート、地域活動を一緒に行う。
- ・18才（高校生）までの子供で、ヤングケアラーや虐待などを受けている人達には親に色々支援して欲しい。大人になって引きこもる人には自信がつくように簡単な仕事をしてもらって収入を得られる様にして欲しい。家にいてもできる仕事があればいいと思う。金銭的な支援は病気以外の人にはしない方がいい。甘えて、更に働かなくなる 引きこもりの人を雇用した会社にお金を配る方がいい。本人に自信がつくようにしてあげたらいいと思う。

《相談窓口・相談方法》

- ・継続的な相談しやすい Tel やオンライン窓口とその情報や広告。家族にも。そのような場所があっても、知らなければ、使用できない。
- ・ネットで（SNS）つながる支援・サポート
- ・本人も苦しいと思いますが、家族が相談、気がねなく話すことが（安心して）できる窓口があれば。
- ・相談しやすい専用の相談窓口を設け、専門の教育を受けたスタッフによる訪問支援が行われれば良いと思う。高齢者にはおとしより相談センターがあるように、若者向けの相談センターがあるとよい。

・web サイトや SNS など、オンラインでの相談窓口を充実させると、家から出る必要がないので良いと思う。支援をより身近なものにするには、「ひきこもり」「支援」などといった、対象者を限定させてマイナスのイメージをもたらすような言葉は使わず、「誰でも・なんでも相談 OK」、可能であれば相談でなくとも、雑談でも OK というようなスタンスをとるのが望ましい。特別扱いせず、一人の人間として対等に接するべき。

・病気以外の理由、となると精神的なことが原因になっているケースが多いのではないのでしょうか。精神的なケアとなると、窓口を設けてただ相談する場があるだけでは何か足りないように感じました。何か工夫が必要というか…難しい問題だと思いました。

・とても難しいが何とかしていかなくてはならない問題だと思います ただひきこもりの本人からの SOS、窓口相談は厳しいのではとも思います。でも何もしないと外とのつながりがなくなり増々よくないと思いました。家族と一緒に家族を通して LINE などから日々の様子確認などから進めていけると良いのではと思う。

《支援の内容・方法》

・支援が一樣のものではなく、多様なものであることが必要。人それぞれに必要な度合や種類が違っているはずなので…。

・支援する中で本人が納得し、自らを変えなければいけないと思う“自立”の芽をどう育てるかに重点を置いたサポートが大切なのではないかと考える。

・とてもいい支援だと思う。その支援を受けるにあたってのハードルをさげてもらったり、すぐ支援が受けられるような体制を整えてほしい。どのような支援があるのか誰にでもわかるようにしてほしい。

・ひきこもりはなりたくてなっているわけではなく、その人本人の性格やおかれている環境、家庭や親族とのトラブル、全てに失望しているなど、一人一人で要因が異なります。それをひとまとめに「ひきこもり」として公的な支援をうたうのではなく、一人一人にできるかぎり寄り添って、様々な手段や方法、アプローチで支援していただけたら嬉しいです。家から出たくても出られない人のために、ネットの情報はまめな更新・案内をしてほしいです。

《不登校》

・不登校やひきこもりは家族だけでは解決できないと思う。子供は不登校の時から、自治体が把握して、ひきこもりの大人も含め社会全体での支援が必要だと思う。ひきこもりは、家族が、外に助けを求めなければ、それ自体気づけない。積極的な調査と支援をした方がいいと思う。

・友人の子供（中学生）が不登校になりました。両親共働きで、家に子供を残していかなければなりません。スクールカウンセラーと協力して、子供の話を聞きながら頑張っています。区でも、何か御支援頂けると安心できると思います。

・最近、私が学生だった頃と比較して不登校の学生がかなり多くなってきていると感じます。不登校になる原因はそれぞれ異なるとは思いますが、無理に原因をつきとめようとすると、逆に拒否しようとする子もいますので、接し方ひとつについても正解がなく難しい問題だと思います。

《社会参加・体験》

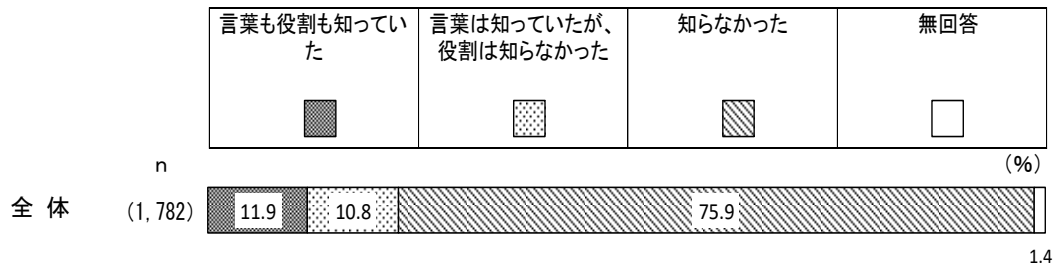
- ・ボランティアなどの社会貢献活動で自分の肯定感を身につけて頂くのが良いのではと思いました。金銭的な支援は行きすぎると「働かなくても良い」と危機感がうすれてしまいそうです。
- ・直接的ではないですが、社会全体で他人を気にかける道徳心を身につける必要もあるかと思います。
- ・ひきこもりから脱却した方と関わる機会がありますが、人との関わりのブランクがある分、距離感やマナーがわからない方が多い気がします。そのあたりをサポートすることで、その後社会で生活しやすくなると思います。

《その他》

- ・医師とのオンラインでのやりとり、くすりの処方 オンラインセミナー 交流 デイケアグループホーム
- ・コロナでひきこもりや孤独感を感じている人が多いと思うので支援に力を注いでもらいたい。
- ・身内程どうしてよいかわからず時がすぎてしまうと思う。もっと第3者や同世代の子供が関わって、外に出たいと思う気持ちになると良いと思う。きっかけ1つでかわると思う。
- ・こういった支援をやっていることを初めて知りました。たくさんの御苦勞があるかと思いますが、支援してくださる方々がひきこもりの方を1人でも救って行って欲しいです。
- ・精神面や心・生活が難しい（困窮）方を指すと思いますが、関わっていく際にやはり、信用信頼を構築するのに時間が必要だと思います。又関わることによりスタッフ側も気を付けなければいけない課題が出てくると思います。

(37) 「ゲートキーパー」の認知度

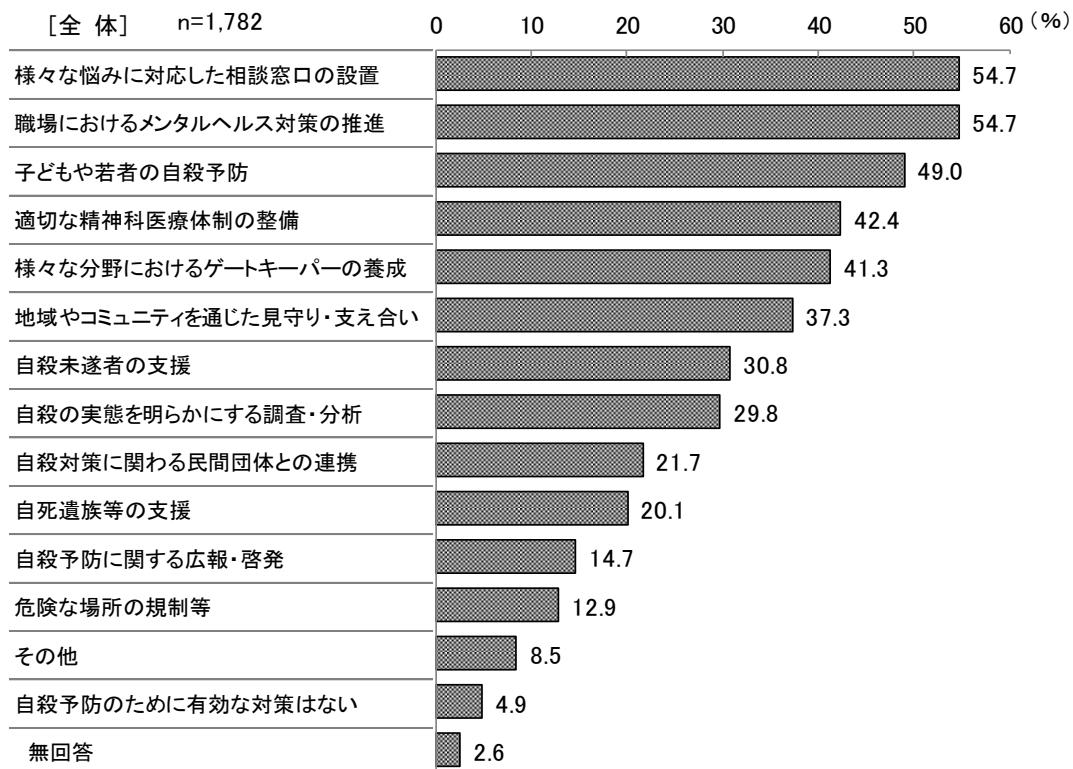
Q37 「自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人」のことを「ゲートキーパー」と言いますが、「ゲートキーパー」という言葉を知っていましたか。（○はひとつだけ）



「ゲートキーパー」の認知度について、「知らなかった」の割合(75.9%)が最も高く、次いで「言葉も役割も知っていた」(11.9%)、「言葉は知っていたが、役割は知らなかった」(10.8%)の順となっている。

(38) 自殺予防のための対策

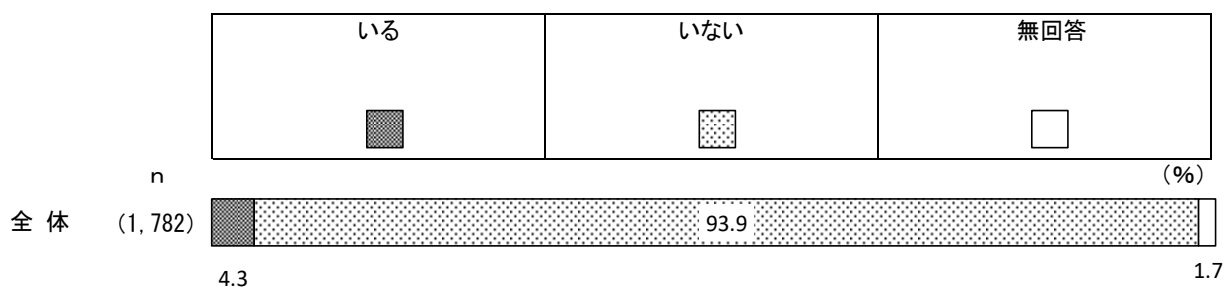
Q38 自殺予防のため、どのような対策が有効であると思いますか。（○はいくつでも）



自殺予防のための対策について、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」（ともに 54.7%）、「子どもや若者の自殺予防」（49.0%）、「適切な精神科医療体制の整備」（42.4%）の順となっている。

(39) 同居家族でひきこもりの状態にある者

Q39 現在、同居するご家族に「様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、原則として6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態」の方はいますか。（○はひとつだけ）

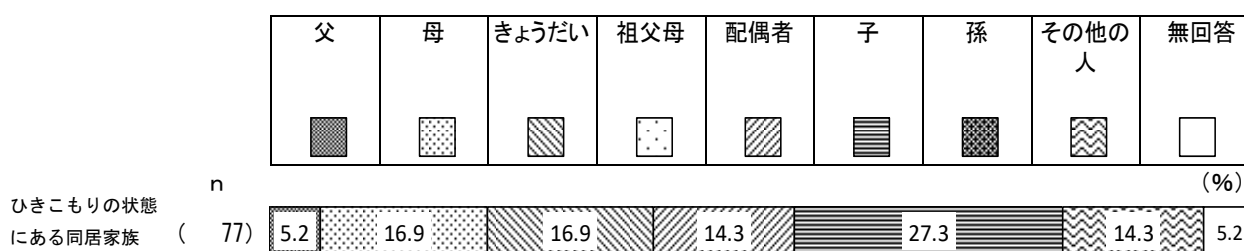


同居の家族でひきこもりの状態にある者について、「いる」(4.3%)、「いない」(93.9%)となっている。

※ Q40～Q49 は、Q39（同居の家族にひきこもりの状態にある者）において「いる」を選択した者のみが回答する項目となっている。

(40) [同居家族]本人との続柄

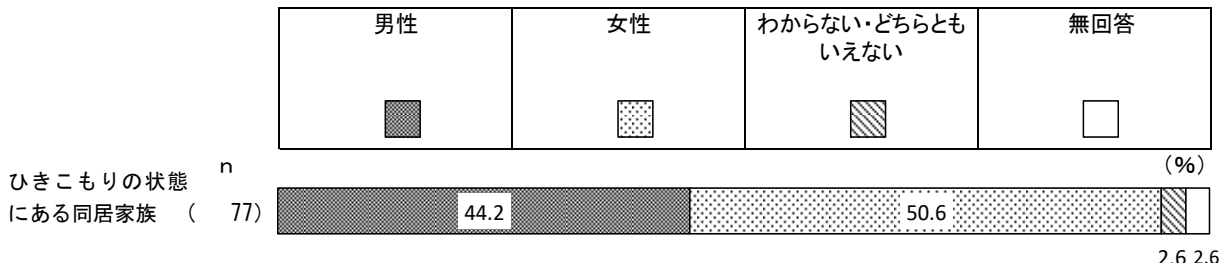
Q40 あなたからみたその方との続柄をお答えください。（○はひとつだけ）



調査対象者とひきこもりの状態にある同居家族との続柄では、「子」の割合(27.3%)が最も高く、次いで「母」「きょうだい」(ともに16.9%)、「配偶者」「その他の人」(ともに14.3%)の順となっている。

(41) [同居家族]性別

Q41 その方の性別をお答えください。（○はひとつだけ）

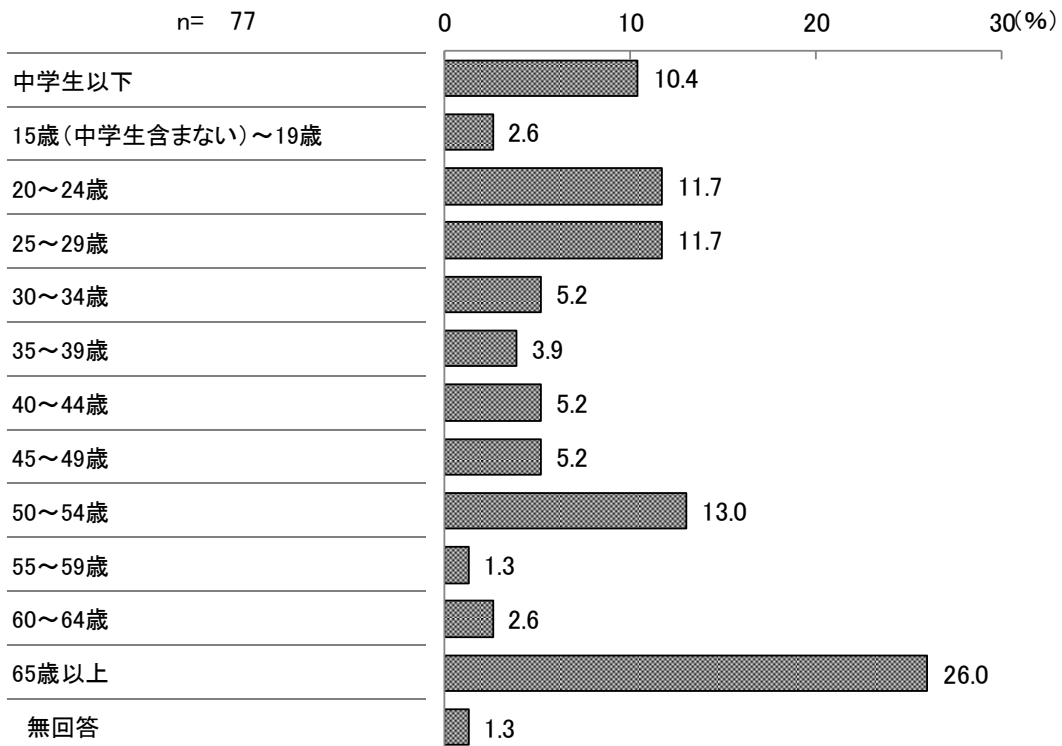


ひきこもりの状態にある同居家族の性別は、「男性」(44.2%)、「女性」(50.6%)、「わからない・どちらともいえない」(2.6%)となっており、女性の方が高くなっている。

(42) [同居家族]年齢

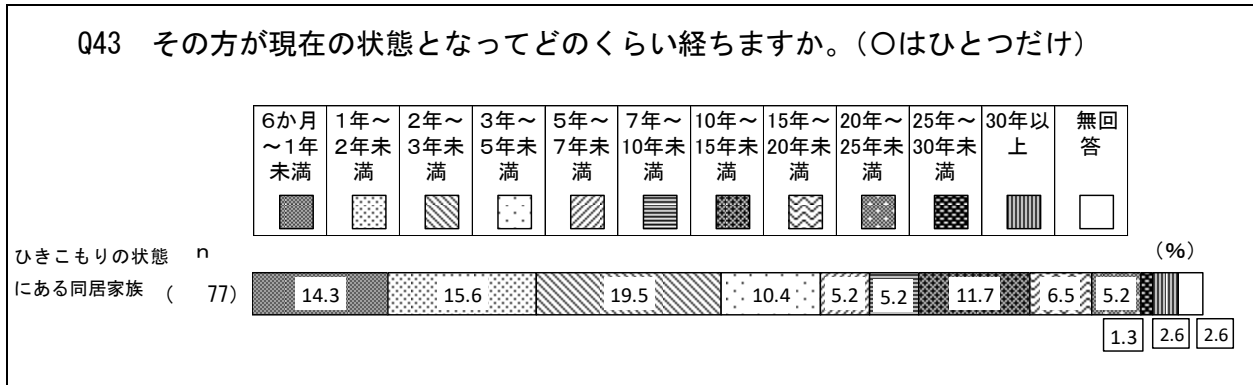
Q42 その方の年齢をお答えください。（○はひとつだけ）

[ひきこもりの状態にある同居家族]



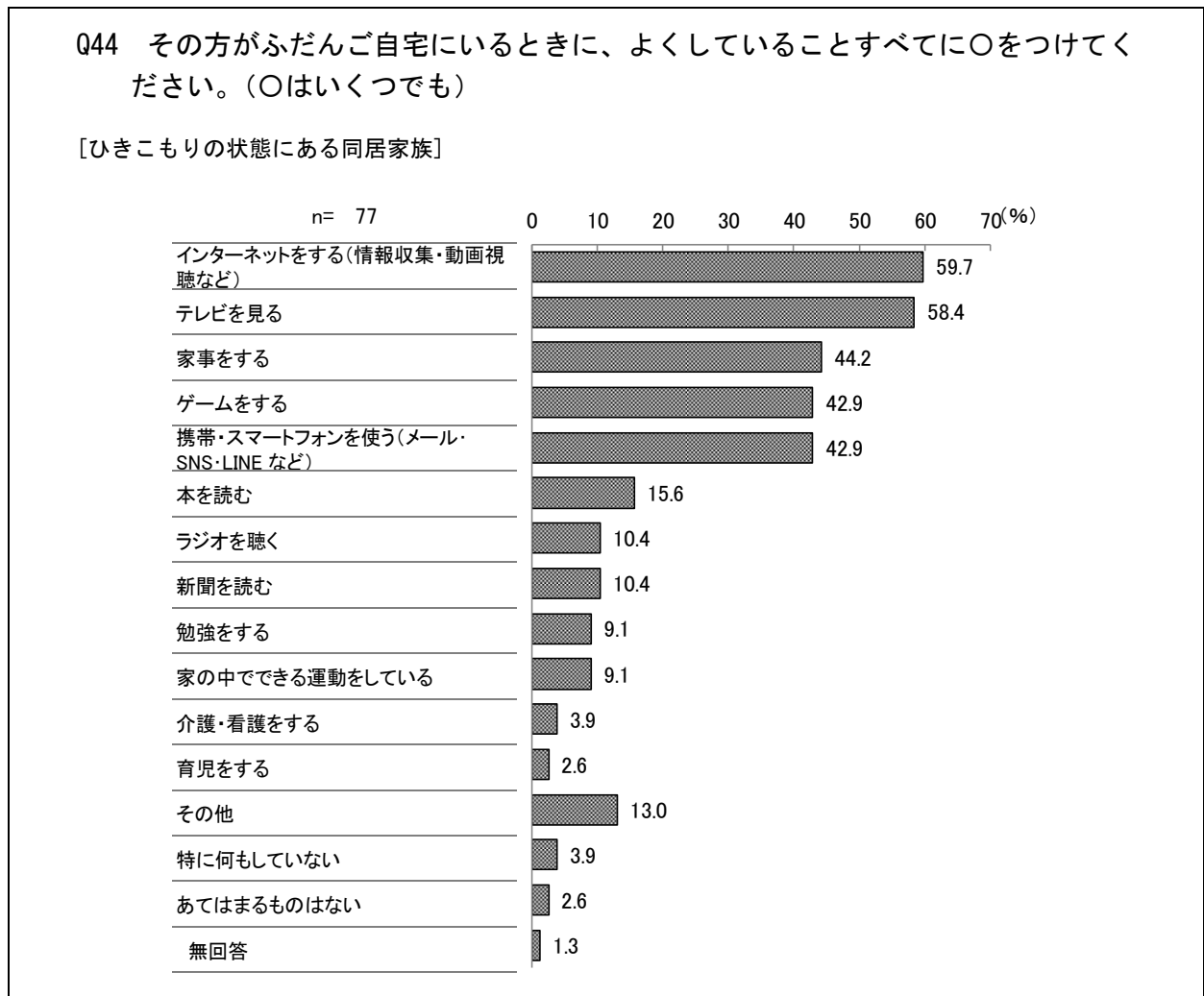
ひきこもりの状態にある同居家族の年齢は、「65歳以上」(26.0%)が最も高く、次いで「50～54歳」(13.0%)、「20～24歳」「25～29歳」(ともに11.7%)の順となっている。

(43) [同居家族]ひきこもりの状態になってからの期間



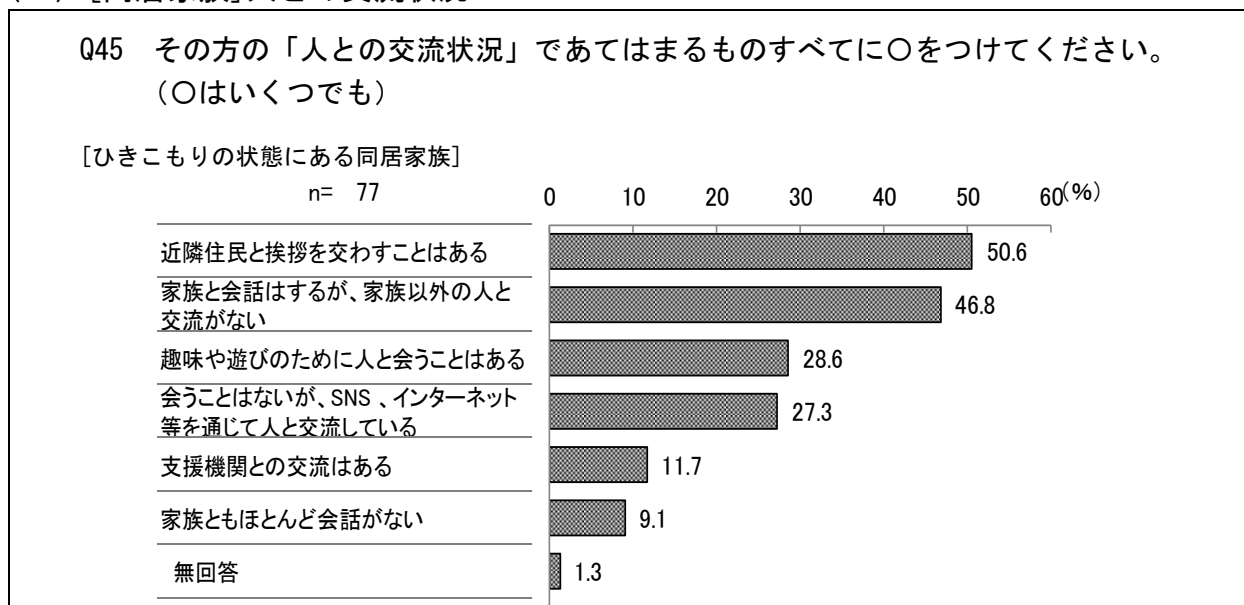
ひきこもりの状態にある同居家族のひきこもりの状態になってからの期間は、「2年～3年未満」(19.5%)、「1年～2年未満」(15.6%)、「6か月～1年未満」(14.3%)の順となっており、これら機関を合算した「6か月～3年未満」の割合は(49.4%)となっている。

(44) [同居家族]ふだん自宅をよくしていること



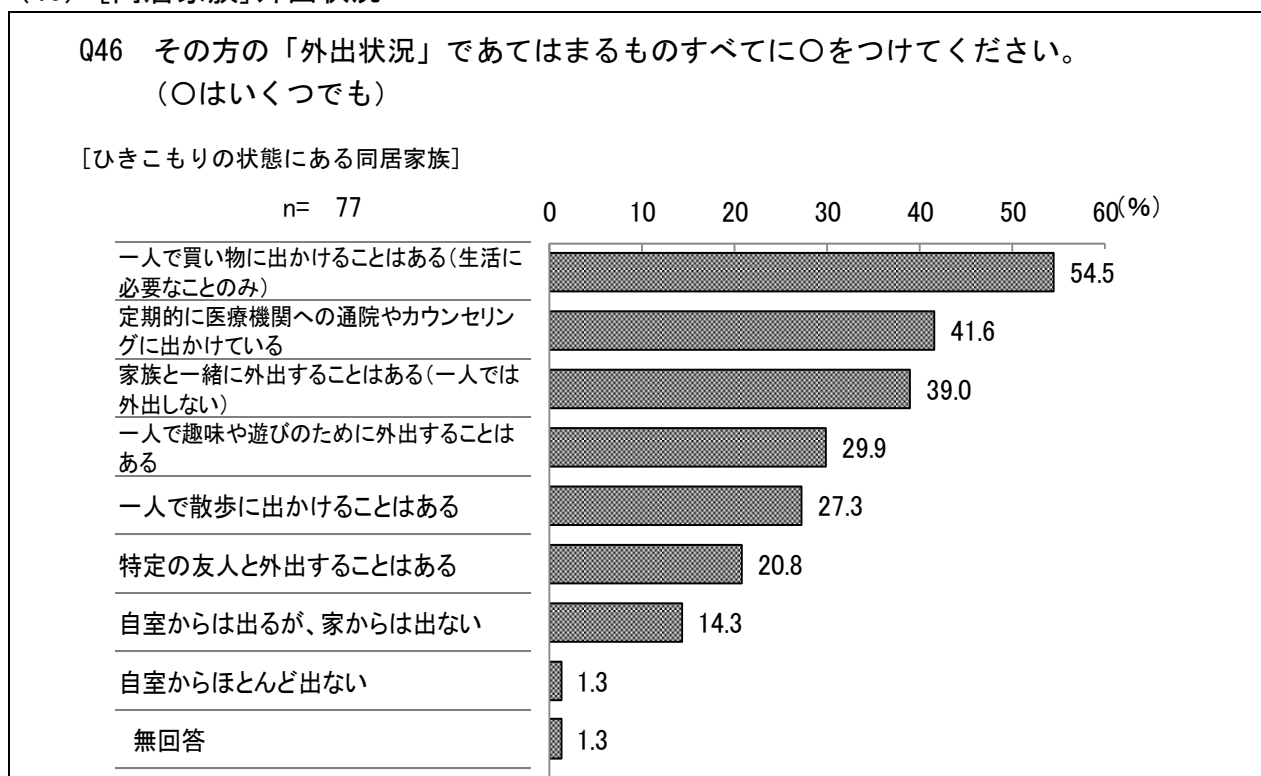
ひきこもりの状態にある同居家族がふだん自宅をよくしていることは、「インターネットをする(情報収集・動画視聴など)」の割合(59.7%)が最も高く、次いで「テレビを見る」(58.4%)、「家事をする」(44.2%)、「ゲームをする」「携帯・スマートフォンを使う(メール・SNS・LINE など)」(ともに42.9%)の順となっている。

(45) [同居家族]人との交流状況



ひきこもりの状態にある同居家族の人との交流状況では、「近隣住民と挨拶を交わすことはある」(50.6%)、「家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない」(46.8%)が高い割合となっている。

(46) [同居家族]外出状況

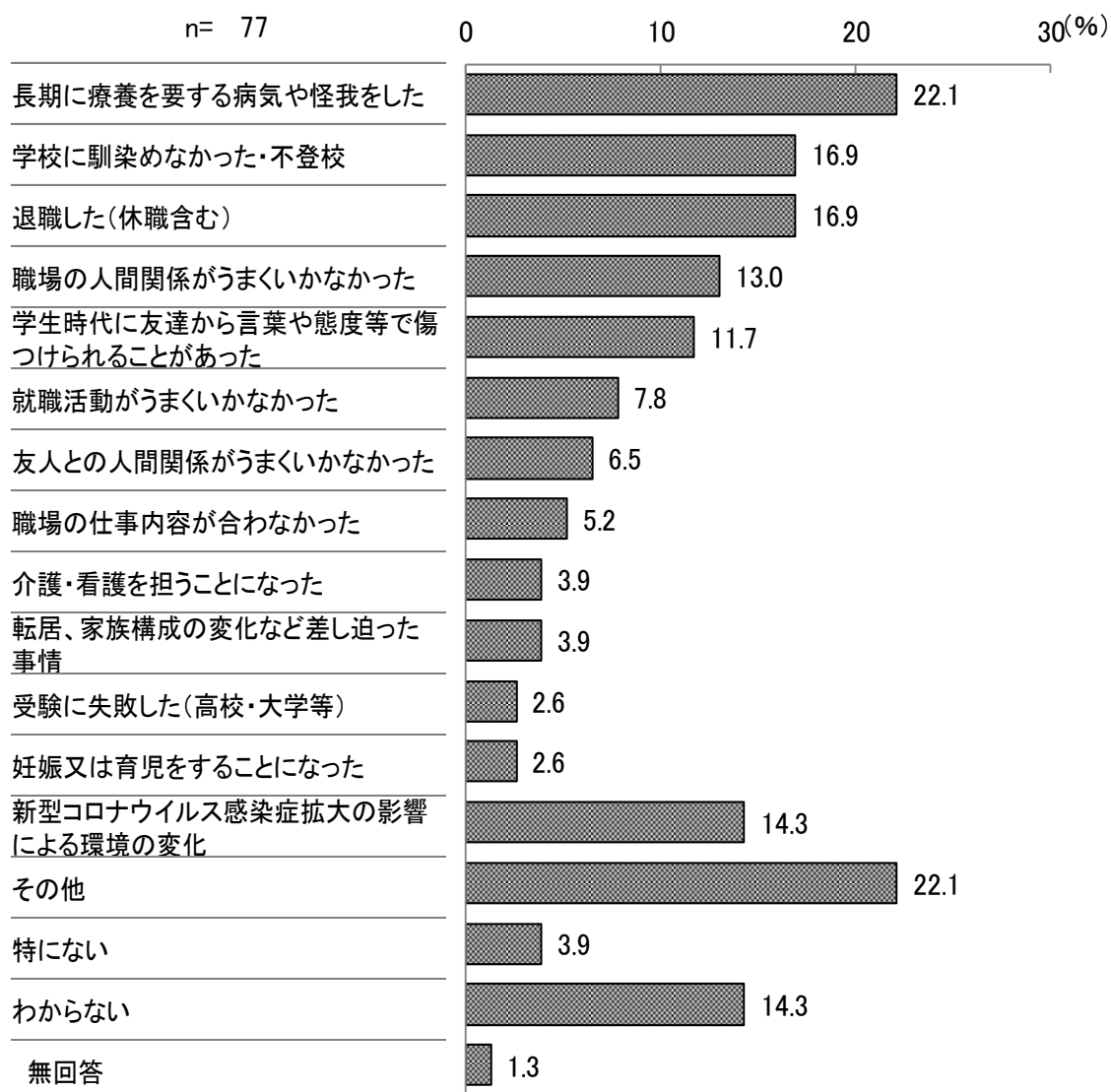


ひきこもりの状態にある同居家族の外出状況は、「一人で買い物に出かけることはある(生活に必要なことのみ)」の割合(54.5%)が最も高く、次いで「定期的に医療機関への通院やカウンセリングに出かけている」(41.6%)、「家族と一緒に外出することはある(一人では外出しない)」(39.0%)の順となっている。

(47) [同居家族]ひきこもりの状態になったきっかけ

Q47 その方が現在の状態に至ったきっかけとして思いあたるものをお答えください。
 (〇はいくつでも)

[ひきこもりの状態にある同居家族]



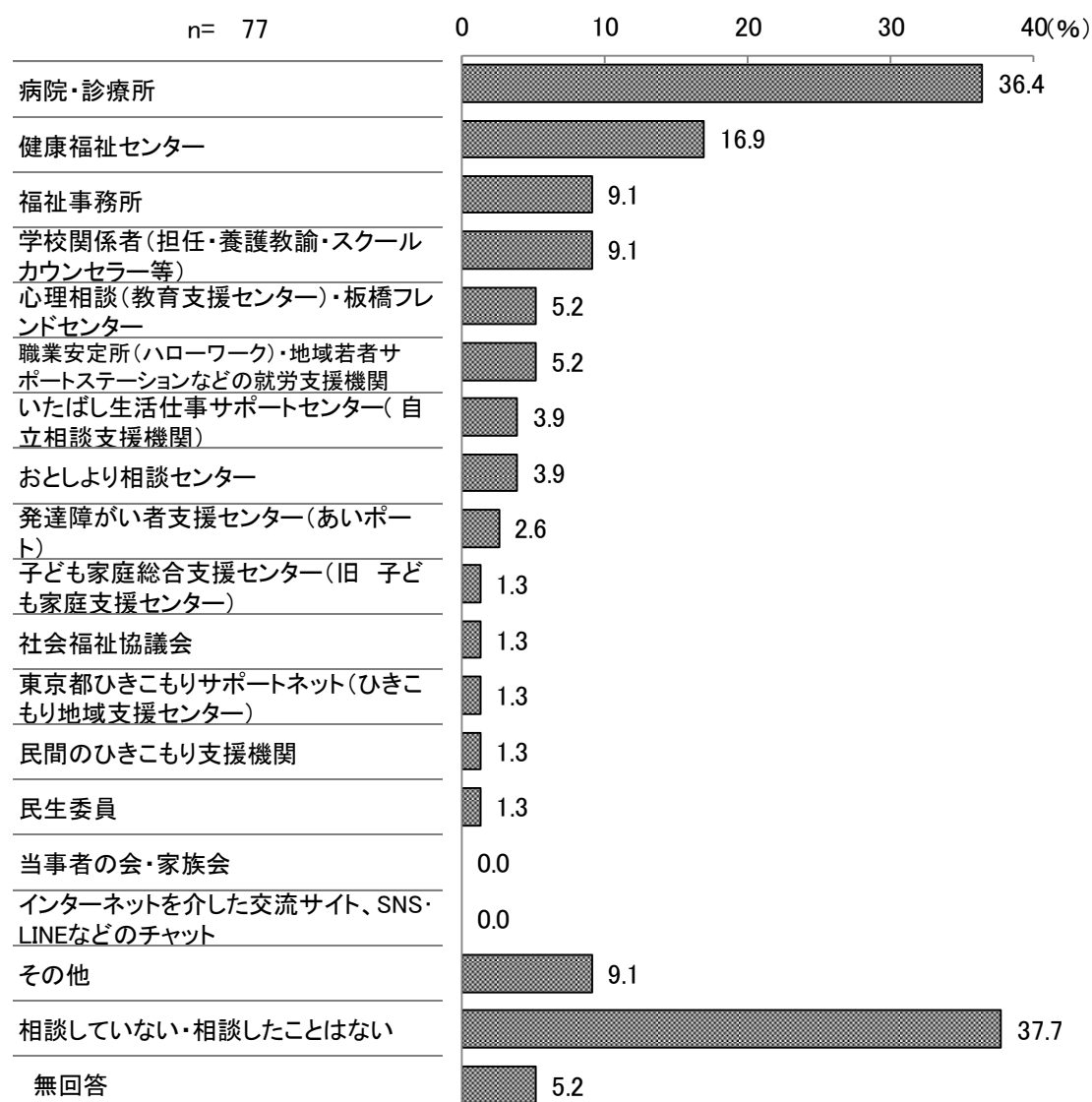
ひきこもりの状態にある同居家族のひきこもりの状態になったきっかけは、「わからない」「その他」を除くと、「長期に療養を要する病気や怪我をした」(22.1%)、「学校に馴染めなかった・不登校」「退職した(休職含む)」(ともに16.9%)、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響による環境の変化」(14.3%)の順に高い割合となっている。

また、「その他」では「コロナになり、会社が倒産した為」「新型コロナワクチン接種を受けてから体調が悪くなったこと」「幼少期の家族との関係」等の意見があげられた。

(48) [同居家族]相談した機関

Q48 その方の現在の状態について、相談した（相談中も含む）ことはありますか。
 また、どこに相談しましたか。（〇はいくつでも）
 ※ その方以外のご家族が相談した場合も含みます。

[ひきこもりの状態にある同居家族]



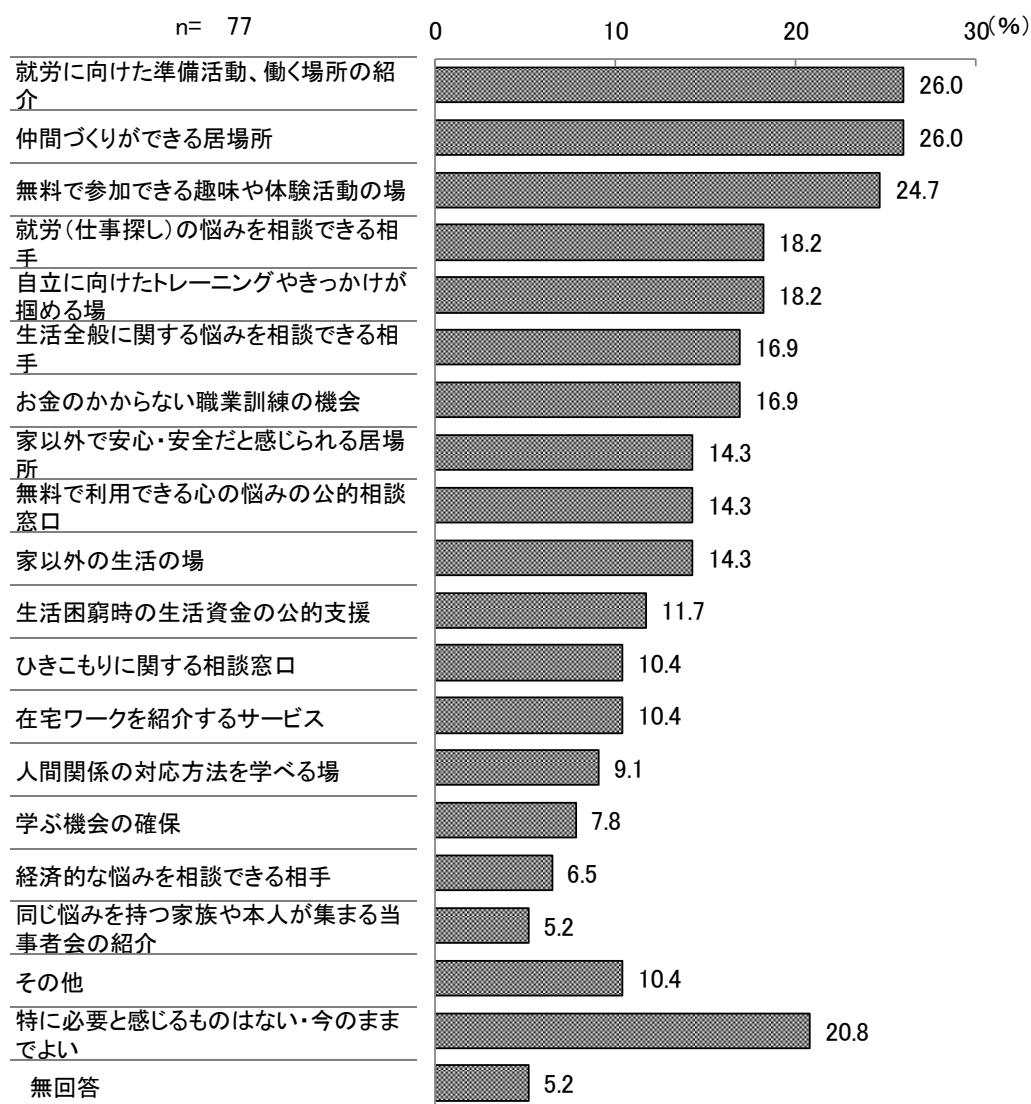
ひきこもりの状態にある同居家族の状態について相談した機関は、「相談していない・相談したことはない」の割合（37.7%）が最も高くなっている。

一方で、相談した（相談中も含む）機関では、「病院・診療所」（36.4%）、「健康福祉センター」（16.9%）、「福祉事務所」「学校関係者（担任・養護教諭・スクールカウンセラー等）」（ともに9.1%）の順となっている。

(49) [同居家族]現在、必要と思われるもの

Q49 次に挙げたことのうち、現在、その方に必要と思われるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

[ひきこもりの状態にある同居家族]



ひきこもりの状態にある同居家族に現在、必要と思われるものは「就労に向けた準備活動、働く場所の紹介」「仲間づくりができる居場所」の割合(ともに 26.0%)が最も高く、次いで「無料で参加できる趣味や体験活動の場」(24.7%)の順となっている。

一方で、「特に必要と感ずるものはない・今のままでよい」の割合(20.8%)も高くなっている。

